昭和24年3月19日第3種郵便物認可 昭和33年1月20日印刷 昭和33年1月25日発行 第39輯第1号(毎月1回25日発行)

建築と社会

日本建築協会

1958—1

関西の建築特集



明るい床材

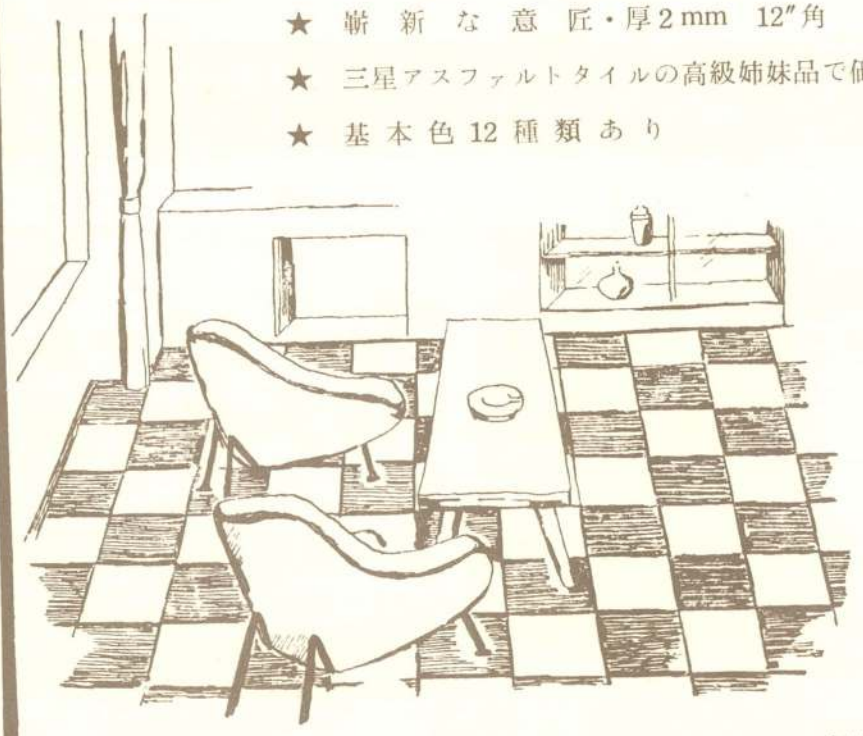
特許

三星プラスタイル"P"

★ 斬新な意匠・厚2mm 12″角

★ 三星アスファルトタイルの高級姉妹品で価格は同程度

★ 基本色12種類あり



乞カタログ請求

三星ルーフイングの

田島応用化工K.K.

東京都足立区小台町 TEL 王子 ㊾ 1181~7

大阪市西区京町堀上通 TEL 土佐堀 ㊹ 1773~5

MKK

ドアーハンガー

本邦唯一の長尺レール { 12尺 / 9尺



特長　在来の市販6尺レールに較べ継目が最小限度にすみ数多の継目によって、とかく運行の円滑と簡易取付を欠く憂いを解消し扉が軽快に操作できる。



種　目

トラックレール　ガイドレール　カーブレール
6，9，12尺　6，9，12尺

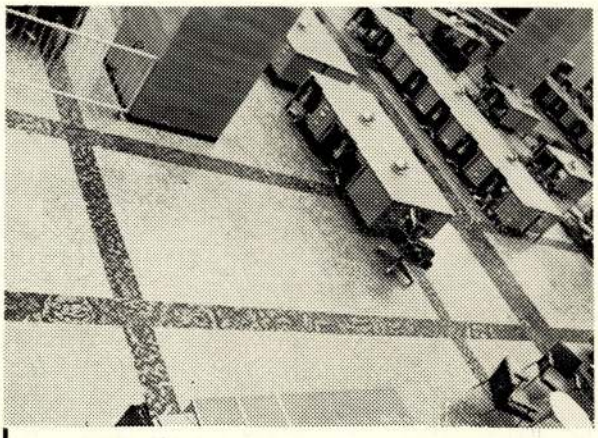
木製扉用
鉄　扉用（スチールボール入 スチールローラー入）**複車・単車**ハンガー
重量型ハンガー
其の他ブラケット附属品一切

御用命は全国各地有名建築金物店へ御照会願います　　**カタログ進呈**



株式会社 **三谷製作所**

東京都足立区高野町二一八番地
TEL　足立(88) 4048・4239



床張材

リノリユーム
リノタイル

新発売
Nリノタイル

ビニール製
スポンヂシート

◇ソフトな感触
◇優秀な耐久力
◇美しい色彩

カタログ進呈

東洋リノリユーム株式会社

本社工場　兵庫県伊丹市伊丹558
電話伊丹(代)3531・大阪(48)4490

東京支店　東京都中央区銀座4丁目三和ビル
電話京橋(56) 1701・2564

大阪事務所　大阪市東区瓦町2丁目三和ビル
電話北浜(23) 0375～0379



日立ルミパネル による光り天井

●まぶしさと影のない最新の照明が**光り天井**（ルミナスシーリング）です。建築照明の最高照明方式といわれております。

●**日立ルミパネル**（特殊プラスチック板）の、ご使用によって光り天井が手軽に、経済的に実現できます。

●**日立ルミパネル**は透過率がよく、吸音性に優れ、燃えにくく、軽く、**光り天井**のために特につくられた材料です。

日立製作所

特許出願中

平川-MPボイラ

煙管式ボイラの「革命兒」現る！

経費節減527万円の利益を生む

☆高性能・輻射型

☆石炭・オイル・ガス焚

☆1年間(7200時間)の燃料節約額

7′×30′ランカシヤボイラと比較して

527万円益

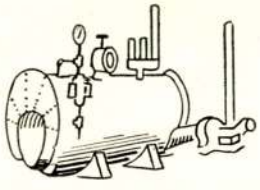
(但し E.E.2000kg/hr,
6000カロリー石炭6000円/屯
1日24時間1月25日として)

大阪府立工業奨励館

公式試験成績

汽缶効率 **81.2%** 石炭焚にて

排ガス温度 197℃



◁営業課目▷ 平川～水管ボイラ、平川～機関車型ボイラ
平川～竪型ボイラ、外ボイラ全般・輸送機械

株式會社 平川鉄工所

本社・工場 大阪市大淀区大仁西2の1 電話福島㊸1975－8
東京営業所 東京都中央区八重州6の7 電話㉘5883・7787－8
九州出張所 福岡県小倉市富野545 電話 小倉⑧1362

DK

タントウ

タイル



資本金　壹億四百萬圓

淡陶株式会社

大阪支店　大阪市西区阿波座中通1丁目48番地
電話新町㊿432・1247・6706番
東京支店　東京都中央区日本橋浜町2丁目47番地
電話兜町㊼7309番
本社及阿万工場　兵庫縣三原郡南淡町伊賀野
福良工場　兵庫縣三原郡南淡町福良

東洋陶器の衛生陶器と附属金具

（衛陶マーク）

Toyotoki

（金具マーク）



新製品
S—170
スミ付ロータンク

弊社は本社・茅ケ崎の各衛陶工場及び金具工場共にＪＩＳの指定を受けた唯一の衛生器具総合メーカーです

品質管理の優秀な
東洋陶器製品をセットで御使用下さい

東洋陶器株式會社

本　社
小倉市篠崎町458
ＴＥＬ ⑤ 2481～5

大阪営業所　大阪市東区伏見町５の３　ＴＥＬ ㉓ 4518～9
各地営業所　東京・名古屋・小倉・広島・高松・札幌

茅ケ崎工場
神奈川県茅ケ崎市
ＴＥＬ 2105～8

ビニール製　壁・襖貼材料

ロンフイックス



特殊加工がしてありますから，どんな糊でも又素人でも容易に貼れます。
インク，油，手垢等の汚れも石鹸水できれいにとれて水拭が可能です。　（特許出願中）

床材料の決定版！

ロンリウム

（ビニール製）



東京地下鉄・東急，新車に使用されています。
それは感触が柔らかく，手入れが簡単でしかも毎日多数の乗降者に耐え得る等その特性が他の床材より優れている事が認められたからです。
標準寸法幅6尺×長30碼×厚2.5粍（１巻15坪）

川口ゴム工業株式会社

東京都葛飾区本田四ツ木町54　　電話葛飾（69）1946—9
（全国有名内装工事店に御照会下さい）　　（カタログ贈呈）

昭和33年1月

会と催

会員の褒賞受賞

12月19日下記のとおり本会々員が建設事業関係功労者として褒賞を授与されました。ここに誌してその栄誉をお祝い申し上げます。

(50音順)　　記

黄綬褒賞	佐藤四郎君	(名誉正会員)
同	鈴木末尾君	(評議員会議長)
同	妹尾一夫君	(元監事)
同	竹腰健造君	(会長)
同	富永長治君	
同	山本龍太郎君	(理事)
同	鷲尾九郎君	(前監事)
藍綬褒賞	石原信之君	
同	神崎文次君	

合同新年交礼会の開催(既告)

建築関係6団体共催の合同新年交礼会を下記のとおり開催いたします。多数御出席をお願い申し上げます。

1. 日時　1月4日　午後1時――2時　随時
1. 会場　大阪建設会館集会室(天神橋南詰め)
1. 会費　300円

新年午餐会開催通知

恒例により新年午餐会を下記により開催いたします。会員相互倍旧の懇親を重ねて参りますよう，新年第1回の午餐会に多数会員の御出席をお願い申し上げます。

記

1. 日時　1月9日　午前11時より
1. 場所　大阪建設会館集会室(天神橋南詰め)
1. 映画　会食前待合時間中に下記映画を上映
   1. 超音速飛行(英国総領事館提供カラー映画)
   1. 華やかなる分列行進　(同　上)
1. 会費　500円
1. 申込　1月8日午前中までに会費を添え事務局まで御申込み下さい。

東海連絡事務所の移転

東海連絡事務所は，本年1月1日から下記へ移転いたしました。会告申し上げます。

記

名古屋市中区南大津通4ノ1
愛知建築士会内（電㉔0249）
日本建築協会東海連絡事務所

（旧　名古屋市東区布池町32　佐藤四郎建築事務所内）

新春（第6回）の〃若い会員の集い〃

若い会員の集い
1月9日　午後5時半

昭和32年6月より本会を母体とした関西での標記青年建築家の集いも6回を数えることになり，今回は新春らしい企画で下記要項により開催いたします。何卒多数お申込み下さい。

記

1. とき　昭和33年1月9日（木）午後5時30分―7時
1. ところ　大阪郵政会館
（北区太融寺町91―5・曽根崎署より旧扇町線東へ約1丁半北側・バス車庫西側）
1. テーマ　**青年建築家として望むもの**
（昭和33年度の建築への期待について）
1. ゲスト　鳥田家弘　氏（神戸大学）
（順不同）　足立　孝　氏（大阪大学）
馬場善雄　氏（大阪大学）
小川　正　氏（K.K.竹中工務店）
1. 会費　200円（別に補助があります）

日本建築協会事業委員会若い会員の集い小委員会主査　三品哲夫

建築士年次届について

建築士年次届

大阪府では，一級建築士および二級建築士の方は，来る1月15日までに，「建築士年次届」をしていただくよう要望されています。まだ届出されてない方は，至急「年次届」をされるようお願いします。

届出用紙は大阪府建政課に準備してあります。なお詳細については，同建政課へお問合せ下さい。

第3回建築写真コンクール開催

標記写真コンクールは会員皆様の御協力をいただいて，応募数の増加と内容の向上をみてまいりました。第2回の入選作品は建築と社会（昭和32年）10・11・12各号の表紙を飾るなど，新しい事業としての特色をもってまいりました。

第3回のコンクールを下記要項により催します。何卒奮って御応募下さるようお願い申し上げます。

第3回建築写真コンクール募集規定

(1) **主　題**　**建築に関連のあるもの**（建築を中心にしてかもしだされたもの）

(2) **応募資格**　日本建築協会々員に限る

(3) **大きさ**　**四ツ切版以上**，（カラーの場合は自由）応募点数は制限しないが未発表のもの

(4) **〆　切**　**昭和33年4月30日**　ただし当日の消印あるものは有効

(5) **入選者の数並に賞**

入選者10名に日本建築協会賞（記念品・賞状）および富士フィルム賞（富士賞）を贈る。

(6) **審査員**　（順不同）　5名

森　　忠一氏　（村野森建築事務所）
政岡基次氏　（K.K.松村組）
恒成一訓氏　（つねなりすたじお）
多比良敏雄氏　（タイラホート）
および後援者より1名

(7) **入選発表**　本人に通知する外「建築と社会」に入選者氏名を発表する。

入選作品は「建築と社会」誌上に掲載すると共に適当な場所で展示公開する。

(8) **その他**　(イ) 応募作品は一切返却しない。

(ロ) 応募写真の裏面には暗号（文字に限る）を附し別に暗号，撮影場所，日時，データ，住所氏名を明記した紙片を密封し，封書表面には暗号のみを記入すること。

(ハ) 入選作品は本会で公表する以前に他で発表することは出来ない。

(ニ) 入選作品を編集し本会で出版する場合の版権は本会に帰属する。

(9) **送付先**　大阪市東区北浜3丁目37
日本建築協会建築写真コンクール係

● このコンクールは毎年2回開催する予定である。

後援　**富士写真フィルム株式会社**

謹賀新年

昭和33年元旦　（50音順）

青木友一
東洋洋瓦株式会社

石丸正名
大阪市北区真砂町32
株式会社戸田組大阪支店　常務取締役支店長

浅井貞治
大阪市北区堂島中2—37
双星社 竹腰建築事務所

井田泰玄
大阪市浪速区西円手町1017
井田商事株式会社

浅海正雄
宝塚市切畑字長尾山2—169
電話（076）3162

伊東五郎
大阪市阿倍野区北畠西1—40

麻村徳一
大阪市城東区野江東之町1—12
麻村サツシユ工業株式会社　取締役社長

糸井直太郎
大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）
株式会社 内外土木建材社

安藤芳雄
大阪市北区堂島北町9
大日本土木株式会社大阪支店

稲垣皎三
宝塚市切畑長尾山1—62

五十嵐芳雄
芦屋市打出翠ケ丘町148

伊奈製陶株式会社
愛知県常滑市扇面新田

池上勝郎
大阪市北区堂島浜通1—66
池上建築設計事務所

井上民治
大阪市西区京町堀上通2—4
井上工材株式会社　代表取締役

池田宮彦
堺市上野芝向ケ丘町4丁1405

井上福蔵
枚岡市石切山荘

石川寛三
大阪市天王寺区茶臼山町111
石川建築事務所

井場績
大阪市西区新町北通1—40
日新工業株式会社大阪支店

石原季夫
（達偉）
大阪市北区宗是町 大ビル 916号室

今村騰
大阪市北区曽根崎上1—41
中央電気工業株式会社　取締役社長

謹賀新年

昭和33年元旦　（50音順）

岩崎甚太郎
兵庫県川西市栄根字豆阪1—11

内田成之
須賀工業株式会社

内海栄造
大阪市東区高麗橋3—7
日宝窪石株式会社　取締役社長

浦辺鎮太郎
倉敷レイヨン営繕部長

株式会社　ABC商会　大阪出張所
大阪市西区江戸堀北通1—23
電　㊹　3915

大林芳郎
大阪市東区京橋3—75
株式会社大林組　取締役社長

岡三郎
大阪市北区堂山町

岡田正夫
奈良市登大路町8
奈良県土木部建築課長

尾亀清四郎
大阪市北区堂島北町14
株式会社三晃商会　常務取締役

奥村太平
大阪市阿倍野区松崎町1—51
株式会社奥村組

尾崎久助
京都市左京区下鴨梅ノ木町38

尾崎博一
大阪市北区茶屋町38
旭化工板製造株式会社　社長

置塩章
置塩光
大阪市北区堂島上1—2（協銀ビル）
置塩建築事務所

小島栄
三精輸送機株式会社

笠原梯治郎
大阪市西区京町堀上通1—14
田島応用化工（株）大阪出張所

辛木貞夫
梅田産経ビル内
東海興業株式会社大阪支店

河合貞一郎
株式会社大林組本店　常務取締役

神田正平
大阪市東淀川区田川通6—38
株式会社日本シヤツター製作所

北村平作
大阪市浪速区稲荷町2—930
佐藤工業株式会社大阪支店長

欅田藤郎
淡陶株式会社大阪支店　常務取締役

謹賀新年

昭和33年元旦　(50音順)

久保英次
大阪市北区堂島西町54 電㊺607・2360・3048
株式会社攝津製作所　取締役社長

栗田政次郎
大阪市西区南堀江1番町14
大阪朝日瀝青株式会社　代表取締役

栗原信虎
大阪市北区永楽町8
栗原工業株式会社

小岩増太郎
尼崎市尾浜字国広1—1
神東塗料株式会社　社長

鴻池藤一
大阪市住吉区浜口町402—21

小西岬
大阪市西区阿波座下通2丁目28—1　電㊽7830
株式会社　田中小西建築事務所

小早川美武
大阪市西成区姫松通1—30 電㊺0105・0106
美工装飾株式会社

小林清
大阪市北区堂島上2—11
株式会社　新住宅社

斎藤光夫
大阪市北区堂島北町14　電(代表)大阪㉞7031
株式会社三晃商会　取締役社長

左雲勘治郎
大阪市西区本田3番町36
(株)　左雲組

佐藤太
大阪市北区南扇町12
近畿電気工事株式会社社長

佐村木実
大阪市東区京橋前之町2
合資会社　佐村木商店

志垣正次
大阪市北区樋ノ上町45
明正社

清水和彌
大阪市東区瓦町4—23 (大阪モータースビル)
山下寿郎設計事務所大阪支社

白杉嘉明三
神戸市東灘区本山町野寄字山田19—1

菅谷三郎
大阪市西区江戸堀南通1—37
株式会社大阪電気商会・大阪暖房商会

高橋進
大阪市西区江戸堀下通2—17
田辺工業株式会社

竹腰健造
大阪市北区堂島中2—37
双星社　竹腰建築事務所

太刀川達太郎
大阪市西淀川区御幣島町中3—4
株式会社不二製作所大阪支店　取締役支店長

田辺信
株式会社　大林組

謹賀新年

昭和33年元旦　（50音順）

田村史郎
大阪市都島区東野田8—61
三和プラスチック工芸株式会社

田村巍
大阪市東区南久宝寺
亀井株式会社　取締役社長

千原大五郎
東京都千代田区三年町1—50（千代田第一ビル）
電㊽1879・1889
株式会社大阪建築事務所東京支所

東畑謙三
大阪市東区伏見町5—19
株式会社　東畑建築事務所

徳永正三
三座建築事務所

中沢誠一郎
守口市滝井元町3—27
中沢建築事務所

中西六郎
大阪市北区中之島3（朝日ビル）
中西六郎建築事務所

長尾正大
大阪市大淀区天神橋筋6（天六阪急ビル）
日本エレベータ工業株式会社　代表取締役

西沢藤生
芦屋市宮塚町35

平川久一
大阪市大淀区大仁西2—1
株式会社平川鉄工所　取締役社長

平田伊三郎
大阪市西区阿波座中1
株式会社平田タイル　取締役社長

福岡庄一郎
滋賀県甲賀郡石部町大字石部2476
日本スタッコ株式会社社長

福頼圭蔵
株式会社　新興建材工業所

福田朝正
大阪市北区堂島中2—37
双星社　竹腰建築事務所

福田好雄
堺市松屋196
大阪建材工業株式会社　取締役社長

藤木正一
大阪市東区両替町1
株式会社藤木工務店社長

藤本庄之助
大阪市城東区西鴫町6—43
株式会社工盛社　代表取締役

宝来佐市郎
兵庫県川西市寺畑字中尾14—7

藤井徳義
大阪市北区絹笠町16（大江ビル1階4号室）
新晃工業株式会社　代表取締役

前野慶太郎
大阪市北区堂島上2
株式会社　あめりか屋

謹賀新年

昭和33年元旦　（50音順）

牧村利勝
大阪市東区横堀2—70
株式会社間組大阪支店　取締役支店長

増田太郎
大阪市西区京町堀上通2—21 ㊍4045
建築綜合研究所大阪分室

増田宏
大阪市東区伏見町5—3
東洋陶器株式会社大阪営業所

町田信治
兵庫県伊丹市伊丹558
東洋リノリユーム株式会社　取締役社長

松本芳太郎
大阪市東区今橋2—16
株式会社　松重電機商店

向井保晴
兵庫県伊丹市伊丹558
東洋リノリユーム株式会社

村尾富
京都市南区西九条春日町19
松下電器産業株式会社照明事業部照明技術課長

村上二郎
大阪市浪速区北日東町145
サンエス石膏株式会社大阪営業所　取締役所長

室谷山水
大阪市堂ビル
株式会社　室谷商店

森上次雄
兵庫県宝塚市高台上ノ池北28—1
株式会社日本セメント防水剤製造所　取締役社長

森川喜代之助
池田市中之島町1—1
森川一級建築士事務所

矢橋亮吉
大阪市東区高麗橋2（野村ビル5階）
株式会社矢橋大理石商店大阪出張所

山口吾郎
不二建設株式会社

山口武雄
淡陶株式会社大阪支店常務取締役

山本博三
大阪市西区土佐堀通4—11
朝陽電気株式会社

山本龍太郎
大阪市北区西堀川町15
株式会社　ヤマト電気商会

山邑励二
大阪市阿倍野区阿倍野筋2—33
鹿島建設株式会社大阪支店

結城鐵雄
大阪市南区末吉橋通2—3
大日本セルロイド株式会社　取締役社長

横田喜一郎
大阪市西成区橘通9—24
株式会社工英社　代表取締役

吉田信武
大阪市西区新町通2—25
新鋼建設工業株式会社　社長

昭和33年度会員名簿についての御願い

さきに御配付申上げました昭和33年度版会員名簿につきまして，下記箇所に変更，訂正がございました。

まことに恐縮ではございますが御切取の上，訂正箇所に御貼付願い上げます。

頁	行	貼付箇所	切取分（点線内）
133	14	極東土木工業(株) （電話欄）	㊺6267
182	30	兵庫県住宅課長 （前岡幹夫）	住宅課　梶山晃
201	15	日本建築学会近畿支部 （坂静雄）	日本建築学会近畿支部　中沢誠一郎
217	5	井手正雄建築事務所 （所在地欄）	京都市中京区紺屋町二条下ル
217	9	石原建築設計事務所 （電話欄）	㊹（代）1931 （代）4951 内線 0289
222	8	日建設計工務 （名古屋の電話欄）	㉔ 6121～5
226	2	安藤組大阪支店 （営業所欄）	支店　大阪市西区江戸堀上通1—18
233	6	三井建設 （営業所及電話欄）	本社　東京都中央区日本橋室町2—1　㉔ 3261～5 直通 5855 1660・3164 大阪支店　大阪市西区江戸堀下通 1—53　㊹ 4020・6993 7550・7900 支店　名古屋，福岡，札幌，横浜，広島
234	1	森本組 （営業所欄）	本社　大阪市天王寺区六万体町44
261	5	筒中セルロイド （営業所欄）	本社　大阪市東区南久太郎町2—7
286	6	丹司製陶株式会社 （営業所欄）	大阪市住吉区上住吉1

新らしい建築には..最も新らしい塗料

合成樹脂製

マスター（艶アリ・艶ケシ）（調合ペイント）　建築物（木部・鉄部）内外部・塗装用

サビコンS（さび止ペイント）　サッシュ鉄骨等凡ゆる鉄材製品のさび止用

PCL 大信ペイント株式会社

本　社　大阪市東淀川区三津屋中通四ノ四　電話㊲7371～3
支　店　東京都墨田区竪川四ノ四　電話㊽1351
出張所　札幌・名古屋・広島

アサヒ

建築の耐火と美装に

燃えない資材!!

耐火ボード

優秀な効果・吸音耐火ボード……
アサヒトーン ▶▶

木摺に代る理想的な壁下地……
石膏ラスボード ▶▶

均一な品質・優雅な仕上り……
石膏プラスター ▶▶

カタログ進呈

大阪耐火ボード株式會社

本　社　大阪市北区絹笠町50番地堂ビル
電話㉞4033・4034・7609番㊱1141番
東京営業所　東京都千代田区神田東松下町46番地
電話神田㉕2938・5801番



有楽ビル・基礎コンクリート（ウォータイト式防水工法）

セメント増強防水剤 **ウォータイトB号**

株式会社 日本セメント防水剤製造所

本　社　兵庫県宝塚市高台上の池北28—1　電話宝塚 2153
工　場　尼崎市難波本町1—34　電話大阪(48)8544

優れたナイロンカーペット！

Toray
Trade Mark



東レ ナイロン絨氈・緞通は100％スパン
ナイロン糸を使用したもので

★弾力性に富んでいます
★驚く程摩擦に強い
★吸塵性が非常は少ない
★虫の害を全く受けません

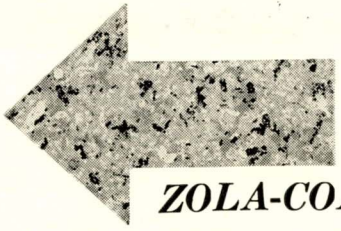
東レナイロン

絨氈・緞通

東洋レーヨン株式会社

発売元 株式会社泉商会
大阪市北区宗是町1（大ビル150号）
TEL （44） 2736～9





ZOLA-COAT

新しい塗料から生まれる新しい環境

コンクリート・モルタル・プラスター・木材・金属紙・繊維・皮革・その他あらゆる材料に深さと魅力を与える高分子粒子状多彩塗料

A Plastic Coating, Multi-color Paint

米国特許 No. 2,591,904
英国特許 No. 760,605
日本特許 No. 231,698

関西ペイント

大阪市東区伏見町5丁目27

ゾラコート

●カタログ御希望の方は当社宣伝課迄御申付け下さい。

建築と社会

1

関西の建築特集

1958年正月号目次

表紙について

デザイン：岩本 博行

写真：壁

撮影者：恒成 一訓

作品作風：関西の新建築 (P.R.)

新名古屋ビルディング北館及南館……22
近鉄百貨店・あべの店……23
西濃運輸KK大阪ターミナル・センター……24
和歌山勝浦電報電話局・八尾電報電話局……25
奈良国際ゴルフ場クラブハウス……26
株式会社南海会館……27
国立大阪病院一般病棟……28
無水式瓦斯溜……29
明治海運ビルディング……30
神戸市仲町団地共同住宅……31
川西市庁舎……32

古建築

平等院鳳凰堂……解説：川上 貢……33

建築の眼……34

本文

江戸時代における大阪商家の特徴……牧村 史陽……35
明治建築の三つの姿……滝沢 真弓……38
堺の町家二題……浅野 清……40
京都の町家・近江の町家……西川 幸治……45
神戸の町と洋館……坂本勝比古……50
関西と長屋建住宅……西山 卯三……54
大阪近郊の農家……白木小三郎……58
京都の施主・京都の手法……白石 博三……61

正月随想：関西の建築歴史を語る……63

1. 初期の建築設計事務所について……松井貴太郎……64
2. 通天閣建設の頃……白杉嘉明三……65
3. 建築協会創立の頃……今林彦太郎……66
4. 創立の頃の話——第1回編集の思い出——……佐藤 四郎……67
5. 大正時代の中の島・北浜界隈……竹腰 健造……68
6. 堂ビル建設の頃……鷲尾 九郎……70
7. 慶澤園と大阪市美術館……波江 悌夫……71
8. 伊藤邸——現・近畿建築会館思い出話——……大倉 三郎……72
9. 橋梁意匠十五年……元良 勲……74
10. 大阪府庁舎の懸賞設計と堺市庁舎建設の思い出……加藤 善吉……75
11. インターナショナル建築運動……中西 六郎……76
12. 大阪城と黒田屏風……波江 悌夫……78
13. 大阪中央卸売市場建設の思い出……藤阪捨治郎……80
14. ブルーノ・タウト来日の思い出……上野伊三郎……81

会合便り……83

建築と社会
第39集・第1号
売価 1部180円・送料共
昭和33年1月20日印刷
昭和33年1月25日発行
発行所 社団法人 日本建築協会
大阪市東区北浜3丁目37
電話 北浜㉓ 9648・9649・9640番
振替口座 大阪39975番
発行人 沖田 誠一
編集人 松井 昭光
印刷所 株式会社 研文社
大阪市北区堂山町66
電話 ㊱2091～3番
印刷者 網野 栄



新名古屋ビルディング北館及南館

北　館（写真左）

所在地	名古屋市中村区笹島町1丁目17. 18
敷地面積	471.300坪
建築面積	432.292坪
延　坪	4,457.94坪
構　造	鉄骨，鉄筋コンクリート造
規　模	地下2階，地上8階，塔屋3階
竣工日	昭和32年7月1日

南　館（写真右）

所在地	名古屋市中村区広小路西通り3丁目19
敷地面積	400.63坪
建築面積	379.37坪
延　坪	4,147.37坪
構　造	鉄骨，鉄筋コンクリート造
規　模	地下2階，地上9階，塔屋4階
竣工日	昭和33年3月竣工予定

設計施工　　株式会社　竹　中　工　務　店



近　鉄　百　貨　店　・　あ　べ　の　店

所在地	大阪市阿倍野区阿倍野筋1
設計	近畿日本鉄道株式会社建築部 (意匠)村野森建築事務所 (構造)神足建築事務所
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地上7階，地下2階，塔屋3階
建築面積	新館延17,883m²
旧館改造	(オーバーハング)延1,703m²

施工　株式会社　大林組



西濃運輸株式会社大阪ターミナル・センター

所在地	大阪市浪速区栄町4丁目25－1
敷地面積	969.24坪
建築面積	667.42坪
延面積	1,293.04坪
構造規模	鉄筋コンクリート造4階建，一部鉄骨造上家付
竣工日	昭和32年12月

設計施工　株式会社　松村組



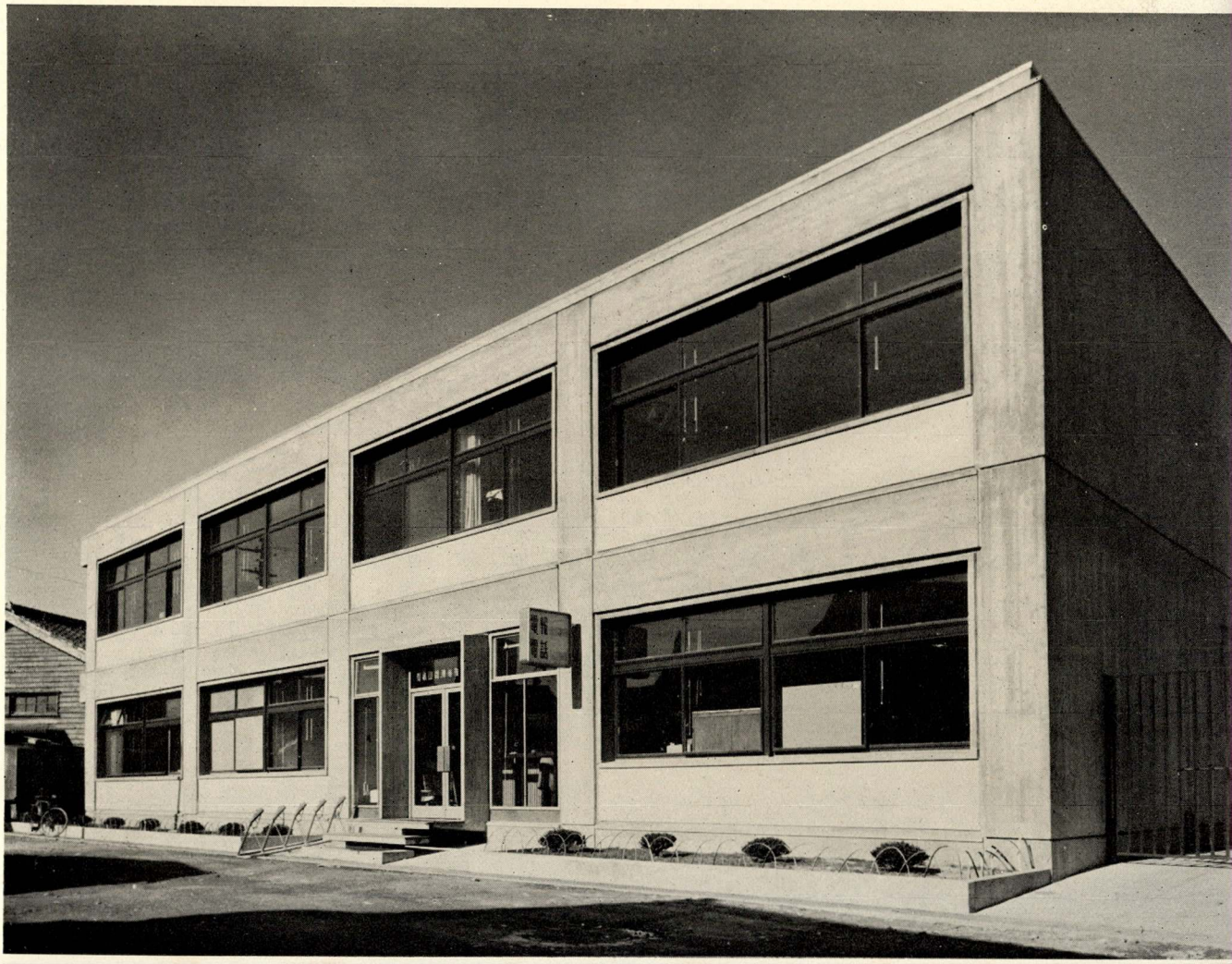
八　尾　電　報　電　話　局

設計者	日本電信電話公社近畿電気通信局建築部
所在地	八尾市水池北通四丁目
敷地面積	1,770m²
建築面積	519m²
延面積	984m²
構造規模	R.C造二階建打放し一部ライトブロック積仕上
竣工日	昭和32年1月30日

施工　井上組

和　歌　山　勝　浦　電　報　電　話　局

設計者	日本電信電話公社近畿電気通信局建築部
所在地	和歌山県那智勝浦町
敷地面積	2,228 m²
建築面積	400.28m²
延面積	699.67m²
構造規模	R.C造二階建打放し仕上
竣工日	昭和32年10月20日





奈良国際ゴルフ場クラブハウス

位置	奈良市宝来町1389	
床面積	地階	59.34坪
	1階	327.85坪
	2階	176.57坪
	合計	563.76坪
規模	地下1階 地上2階 R.C造	
工期	昭和32年6月中旬～10月31日	

設計施工　大成建設株式会社大阪支店

設計責任者	笹川季男	構造担当者	渡辺義郎
設計担当者	宮本千賀志		巽　稔
	高田　威	現場担当者	三好歓之進



株式会社　南　海　会　館

設計　坂倉準三建築研究所

所在地	大阪市南区難波新地六番丁12番地
建築面積	1，490坪
延面積	11，370坪　改造部4，035坪
構造規模	地下2階，地上8階，塔屋3階，鉄骨鉄筋コンクリート造 B2F～4F普通コンクリート 4F～RF軽量コンクリート
竣工日	昭和32年10月15日

施　工　清水建設株式会社大阪支店



国立大阪病院一般病棟

設計　厚生省近畿医務出張所

所在地	大阪市東区法円坂町
敷地面積	18,571坪
建築面積	465坪
延面積	2,966坪
構造規模	鉄筋コンクリート造地上5階地下1階
竣工日	昭和32年7月31日

施工　株式会社　戸田組大阪支店



大阪日日新聞社写真部撮影

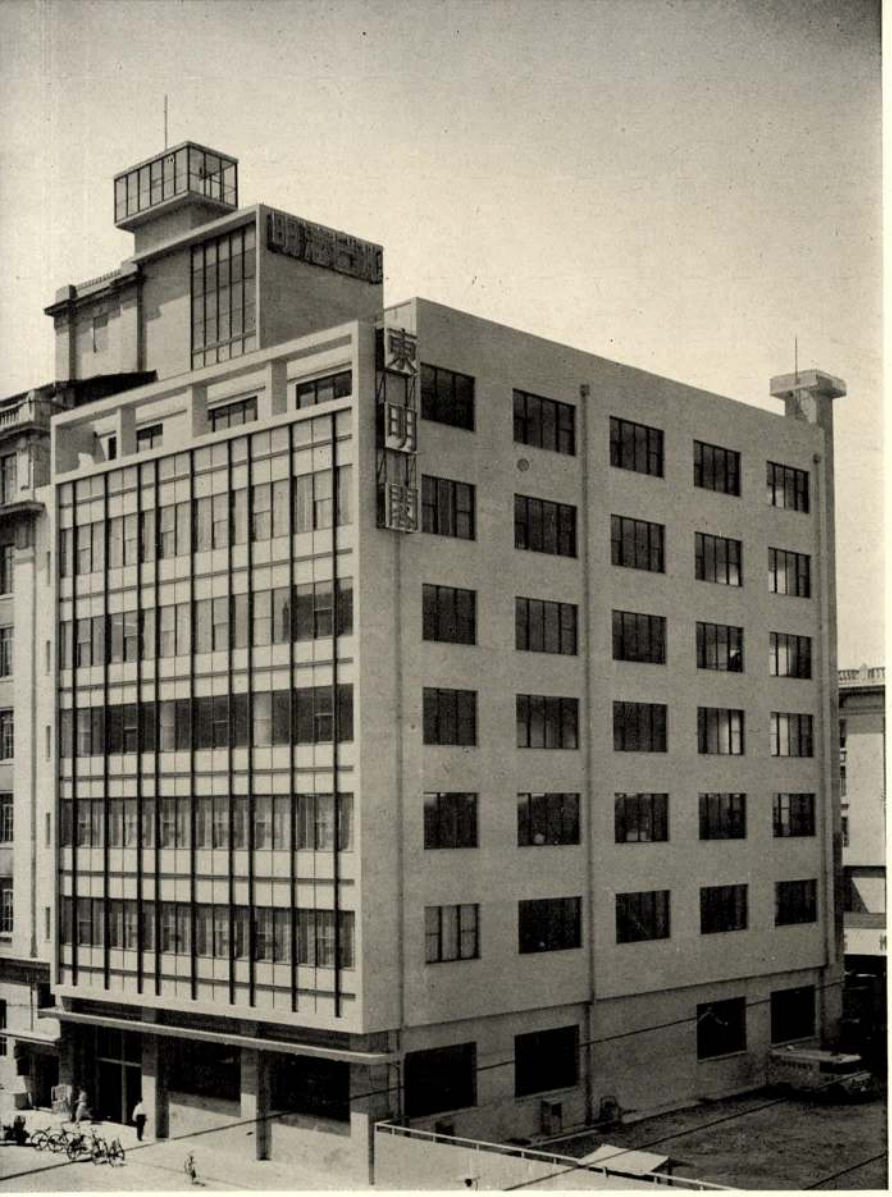
無　水　式　瓦　斯　溜

設計　西独　M. A. N.

所在地	大阪市西区岩崎町
直　径	58米
高　さ	94米
容　量	20万立方米
構造規模	鉄骨柱，鉄板製
竣工日	昭和32年12月7日

施工組立　日立造船株式会社

大　阪　瓦　斯　株　式　会　社



所在地	神戸市生田区明石町32番地
敷地面積	574坪
建築面積	176.75坪
延面積	1,621.23坪
構造規模	地下2階地上7階塔屋3階 鉄筋コンクリート造
竣工日	昭和32年7月

明治海運ビルディング

設計施工　株式会社　鴻池組



神戸市仲町団地共同住宅

設計	兵庫県住宅協会
所在地	神戸市生田区仲町通四丁目二六番地
敷地面積	567.97坪
建築面積	386.60坪
延面積	1,090.73坪
構造規模	共同住宅 R.C造5階建 1棟
	店舗付住宅 R.C造2階建 1棟
竣工日	昭和32年5月10日

施工　株式会社　銭高組



川　西　市　庁　舎

設　計　入江設計事務所　・　入江雄太郎

所在地	川西市小戸字荘ノ後
敷地面積	3,820.000 m²
建築面積	637.062 m²
延面積	2,018.792 m²
規　模	R. C造地下1階，地上3階 塔屋付
竣工日	昭和32年10月15日

施　工　大日本土木株式会社　大阪支店

平等院鳳凰堂

解説　　**川上　貢**

宇治は宇治川の流れに臨む古代の交通上の要地でありそして山水景勝の地として有名であった。この宇治の地に，1052年ときの関白藤原頼通によってつくられたのが平等院であり，本堂についで翌53年に工を終え供養されたのが阿弥陀堂いわゆる鳳凰堂であった。

宇治川のほとり，前面に庭池をとりこんで阿弥陀堂の建築は東面して設けられた。本尊丈六阿弥陀仏を安置し，裳階のため一見重層にみえる中堂（室内は単層），その左右両脇からのびて，更に東に折れてつきでた翼廊，翼廊の屈曲部に高くそびえたつ角楼，そして中堂の後方につきでた尾廊などの各部分からできている。この構成は東向正面に重点をおいてくみたてられ，翼廊や角楼は実用には役立たないが，中央の中堂をひきたて，正面を強調するための意匠上大きな役割をうけもっている。

中堂身舎（もや）の深い軒の出をもった入母屋屋根，中央できれ上ったもこし庇にみる軒反り曲線の交錯，翼廊の連続した棟の単調をひきしめる角楼，太い円柱に配して細い角柱，随処にみられる調和と均衡のとれた表現に私たちの心はゆりうごかされる。堂は朝日を全面にうけて丹や青の彩色，金具のきらめき，白い壁に反射された光，前池にうつしたそのかげとともにはなやかないろどりを一段と増し，また夕方の落日を背景として堂や廊の黒いシルエットのなかに金色の仏の姿がほのかにうかびでて神秘感をより強める。彼岸への往生を欣求した古代の人々にとって，ここにくりひろげられる建築，彫刻，絵画そして工芸を綜合した豪華かつ神秘な造型的表現は極楽浄土の荘厳世界を現実にまのあたりにみるよろこびとして大きな感動をもたらしたことであろう。

ヒューマン・スケール

ヒューマン・スケールとは，人間的尺度である。人間的尺度とは，物理的尺度に対するものである。

物理的尺度とは，日ごろ使いなれた，あの尺度である。それは，尺であれ，間であれ，呎であり，或は，掌の長さ，足の長さであろうとも，そういう単位をもち，それにしたがって，等間隔に，無限に，きられた目盛をもつ。つまりそれは，ユウクリッド空間と同じように，等質，無限，連続なのである。人間的尺度とは，ポアンカレのいう，本能的幾何学の空間，したがってまた，建築的空間と同じように，非等質，有限，不連続である。それは，人体の大さを基準とはするものの，通常の意味での，尺度ではない。したがって，その目盛についても，或は，幾何学的比例をもち，もしくは，対数的比例をもつ，などといわれているが，もちろん，それらは，物理的尺度によって，その近似的な目盛を示そうとするにすぎないものである。　(MT)

にわとりと卵

重要な「建築」の仕事を，円滑に遂行し，社会に寄与するために，建築士法を，こんな風に改正したい。

およそ「建築」に関係する人は，みんな「建築士」にする。「建築」が計画され，建設され，売買され，管理され，取払われてなくなるまで，「建築」の仕事は，みんな「建築士」によって処理されるべきものとする。

「建築士」の級別は，これまでの1級，2級の外に，仕事に応じて級をふやす。たとえば，建築の財産としての評価や管理にあたる人々を「4級建築士」，売買を営業にするのには，「5級建築士」でないといけないとするなど。試験は，もちろん，級別に応じて，程度や内容をかえる。

こうすると，建築関係者は，大変な数となり，国会にわれわれの代表者を，多数送ることが出来る。そうすれば，建設省などの建築関係政府機関の組織運営その他，「建築」を良くするための法律案は，容易に国会を通過することになる。「建築」万々才である。　(WK)

けんちくの眼　担当50音順：浦辺鎮太郎・佐野正一・政岡基次・増田友也・鰀尾健三

関西の建築的鉱脈

関西には深く埋蔵されている建築的鉱脈があると私は観察している。かって「大阪の建築」を某誌が取り上げた事があるが，大阪が関西の鉱脈地帯として見込みがあるとの見当であったからだろう。しかるに科学的探鉱法によらなかったから表土の辺りで事は終り鉱脈を当てる処まではいかなかったようである。東京は元来貧鉱地帯であった。それが優れた精錬法の発明，適用により今日の大をなした。然し貧鉱は相当乱掘されたきらいがある。

中京はその点で最も可能性に富んでいる。新しく鉱業所を立地するとすれば中京地帯が好条件であろう。翻って関西地帯を見れば露頭点々，埋蔵量の計算もつき兼ねるが貧鉱でないことは確実である。ただ今迄は富鉱に恵まれ手掘り式でやって来た傾向があった。今後の機械化方式の採用が望ましい。さもなければ宝の持ち腐れに終るであろう。　(US)

古きを温める

人間80まで生きたとしても，その間記憶力や判断力で信頼できる期間はせいぜい60年くらいであろう。徳川の長い鎖国から覚めて，世界の文明にあわてて飛び乗った明治の当初から，今で80年になる。建築界の華々しい進歩発展もその期間に起ったことで，特にその後半において著しい。

関西建築界の長老がこの期間に新しく経験されたことを盛った「関西の特集号」は，その内容の正確さにおいてこれ以上のものは望めない。日本の歴史が最初古事記から始まったように，その当時としては案外知っている人が沢山いるような事柄についても，それが50年も経つと全くわからなくなることが多い。そう言う意味で後になって大へん有益な資料として役立つものは，それがはっきりしていて何の珍しさもない間に十分注意して後に伝えることを心掛けなければならない。ただ単に歴史を作ると言う意味からだけでなく，新しきを知る上からも是非必要なことであろう。　(MM)

江戸時代における大阪商家の特徴

牧　村　史　陽

喜多川季荘という人の著した「守貞漫稿」という書がある。天保から嘉永にいたる十数年の長い間書き続けられたもので，当時の大坂と江戸との事物や風俗を比較した貴重な資料であるが，その中に，民家の建築について書かれているので，少し長いが，次に引用して見る。

「京坂は表の屋根と庇の間は，垂木，窓子をも全く塗籠にす。唯庇上にはばき板を顕すのみ。庇下を塗籠める家さらになし，又家宅の外面は江戸の如く下見板を打たず全壁を顕し，雨の為には漆喰をするなり。けだし腰板は用ふるなり。屋裏といへども羽目板壁甚だ稀なり。必らず壁を専らとするなり。柱も専ら一間二柱なり。又良大の材を用ひ堅固を要とするなり。京坂も屋根と庇の間江戸の如く格子を用ひ塗籠にせざるは，妓院・青桜・貨食店の類なり。その他は専ら之を塗る。又皆必らず二階造にて，江戸にいふ中二階及び平屋等なし。裏長屋には稀に平屋・中二階もあるか。又江戸中二階の宅は表庇上に窓をあけざるもあり，京坂は中二階なきゆえ皆必らず窓あり。

巨戸は表と奥と二棟に建てるなり。表は全く二階あり，奥の一棟は表の方二階，座敷上は鏝にて，二階なきなり。巨戸にもかまど多くは普通の製にて，かまど口八つ或は十二ばかりなり。必らず陽数にするなり。別に大かまどを土間に造るなり。大かまどは土上五六寸を手島石にしてその上に造るなり。

京坂の浴室は専ら風呂場といふなり。厠を専ら〝せっちん〟といふ。雪隠なり。然れども〝こうか〟とも〝てうづば〟ともいはざるにあらず。婦女は専らこうかといふなり。京坂も民屋副添すといへども，江戸よりはひろし，故に中以上は多少後園あり。俗に前栽(せんざい)あるひは壷の内といふ。江戸にては唯〝庭〟とのみいふ。

土間の表より背に達するを通り庭といふ。大略表二間半以上の宅は通り庭にするなり。

表間口四五間ある店は，生業により総格子，或は半ば揚見世，半ば格子にするなり。けだし毎戸この如しといふにあらずといへども，大略大同小異のみ，江戸の如く毎戸その制を甚だ異にするもの稀なり。

かまどは必らず口を土場の方に，床を背にす。大中戸には別に大かまど一二を築くなり。かまどに銅壷の制甚だ稀なり。井は中以上専ら毎戸に之を設くるなり。井辺を漆食場と号し，たたきしっくひにするなり。稀には切石を以て畳むもあり。江戸の如く板を張ることさらになし。

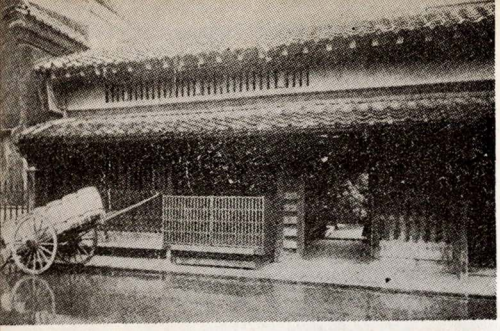
内庭は常の土間なり。見世庭は，生業によりたたき漆くひ，或は板を張るなり。酒・醤油等の店その他も，業により店全く土間にするもあり。中以下四五間表以上の宅の内庭には専ら板製の大衝立を置き，厨の表より見透かざるを要せり。

大中戸共に，小座敷・離座敷・茶湯の数寄屋等，その便に応じ一定ならず，又有無も一定ならず，又雑物を納る所を京坂にて〝なや〟といふ。納屋なり。江戸にては物置といふ。これまた中以上必らずこれあり。中戸以下は一棟にて，見世と中の間は二階なり。中の間以背は鏝屋根にて二階なきなり。然れども稀には二階座敷なきにもあらず。或は中の間の二階を座敷に製するもあり」

こうした大阪の商家が，戦時中まではまだ処々に残っていた。ちょっと思い出しただけでも，島之内鍛冶屋町の穐村（あきむら）家，長堀橋筋一丁目の植村酒袋店，千年町の松下米屋や，〝近八〟の油屋，玉屋町の大谷あつし屋，久左衛門町の酢屋日野屋，北堀江一番丁の油屋ますや，御池橋の茶商笠半，船場では，唐物町三丁目の門田屋，末吉橋四丁目の醤油屋丹喜，淀屋橋筋のたばこ入屋かぎ屋，魚の棚の逸見奈良漬屋――まだまだあったろうが，それらの店の構えを見ていると，まるで名所図会の昔に立ちかえったようななつかしさを覚えたものである。

これらの町家には，昭和初年ごろまでは，まだ揚げ店などを取りつけたものもあり，手代や丁稚の出入りする暖簾（のれん）の奥にはきれいに拭き込んだかまちや帳場格子が見えて，箱段梯子のある暗い茶の間には，いまだにおさんやお染でも出て来そうな昔のままの風情が残っていた。

私は南本町一丁目の木綿問屋の長男として生まれたが，その家も江戸末期ごろのもので，間口8間半，奥行17間ばかり，階下8室，二階6室，大阪式通り庭の商家の構えで，そうした古風さを各所に残していたことを覚えている。その後家が没落してから，大正中期に道幅を

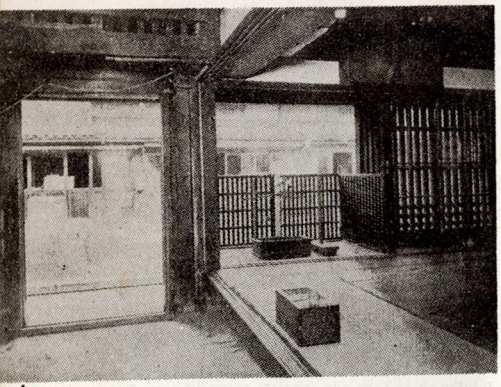


①表　構　え

穐村家写真（あきらむ）

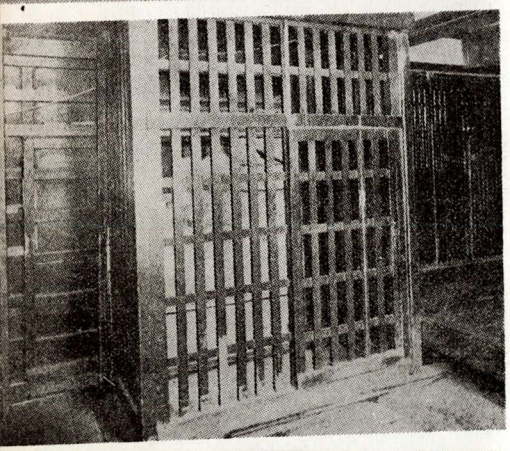
拡張するため軒切りになって，軒の低い表構えだけはすっかり形が変ってしまったが，それでも戦後にそっと見に行って見たら，中庭の石灯籠や台所の井戸なども焼け跡に昔ながらの姿を見せており，なつかしくてしばらくじっとたたずんでいたものである。

戦前まで残っていた旧家の例として，南区鍛冶屋町61番地にあった針金丸釘商穐村治郎兵衛氏の本宅につき，昭和初年ごろの写真によって当時をしのびつつ解説して見よう。次頁の平面図は戦前に筆者が見取図を作ったもので，実測ではないが，ほぼ誤りはないと思う。前記の「守貞漫稿」の記事と比較しながら読んでいただきたい。



②表　の　間

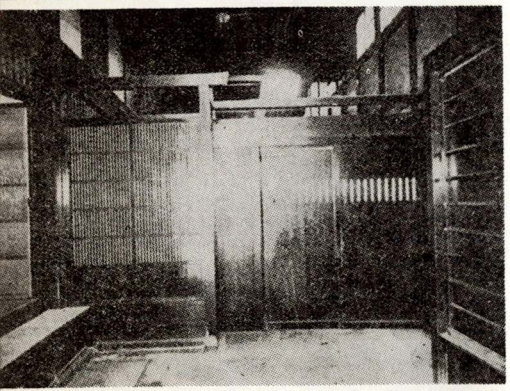
まず表構えであるが，前面の通りは南北の鍛冶屋町通で，家は西向きに建っていた。間口は約10間，奥行約20間，ちょうど40間1町の町の半分を占めていたことになる。**写真**①の左方に見える土蔵の左は清水町の四つ角でそこを東へ回ると裏口がある。写真に見える二階の極めて低い造りや，塗籠めの窓のあたり，ひさし屋根の工合などにも古風さがよく残っている。



③表　の　間
二重締り

階下の構えについて見ると，左の端が半間の壁で，内側は戸袋になっており，その次が1間の格子間（こしのま）といわれる出格子，さらに1間の揚げ店がつづく。揚げ店は京阪における商売屋の一つのシンボルになっていたもので，ここでは高い格子結界で囲って通風と採光の両用にあてられているが，中にはこれに和紙を張って結界障子としたものもあった。これは夜になると結界をはずして，蝶つがいで上へ畳み上げられるようになっている。

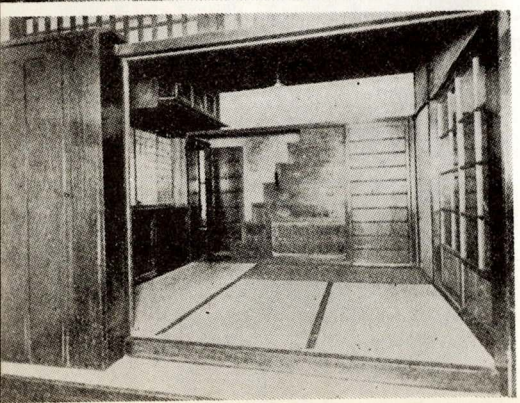
次は入口であるが，ここには夜になると頑丈な大戸が上からおろされて，出入りはくぐり戸からすることになる。その入口の右の方は写真では半分切れていてわからないが，2間半ほどあり，3尺のしっかりした格子戸がはいっていて，うちらは品物を扱う場所となっている。



④台　　所

写真②は，店のうちら側の中庭へ出る中戸のところから外の通りに向かって見たもの，戸締りの外は石敷で，中へはいると土間は漆食たたきである。揚げ店に商売道具の台秤（だいばかり）が置いてあるが，これは針金を計量するためのものである。

大きな上りがまちが目につく。店の間は商売によっては畳敷のところもあるが，ここは針金の職場として使われていたために板敷となっていて，その上に薄べりを敷き，上り口には商家独特の大きな煙草盆を置いてある。格子の上は神だな，上りがまちの上のたなには定紋入りの提灯箱が並んでいる。客との応接・取引の場所は，当家ではこの板の間に続く畳敷の6畳だった。そして特に大事な客はその次の勘定場へ通された。

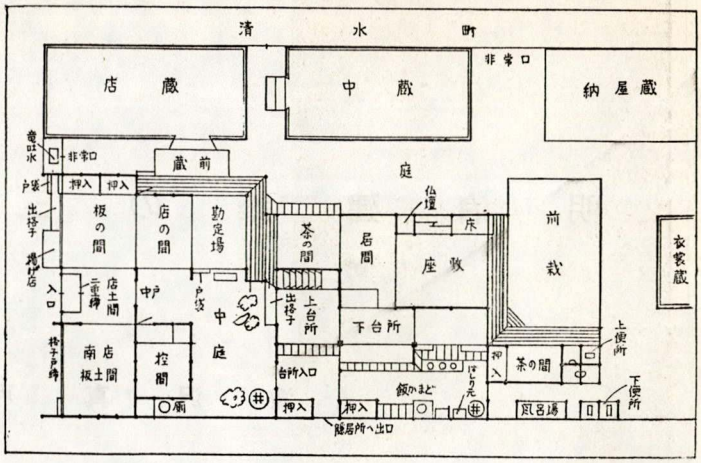


⑤箱段梯子
（中　央）

店の間から奥座敷までの間仕切りに壁がなく，すべてふすま仕切りとなっているのは，万一の火災の時の家財の持出しに便利なためと，一つは勘定場にいる主人が店

と家内を同時に監督するために考え出したものだと，先代稔村氏の話だった。

写真③は，②の出入口のところへ夜の戸締りをしたもので，二重締りが完全に残されていたのは大阪中でこの家だけだったが，これはそう古い制ではなくて，暮末のころに官の威勢が衰えて市中が無警察状態となったとき，夜になってゆすりやおどり込み（強盗）などの予防のために造られたもので，格子には鉄鋼を張ってあった。そのころは石割強盗というものがあって，大きな石を表戸へ投げつけ，これをたたき破ってはいり込んでくるものさえあったそうだから，大きな商家ではその対応策が必要だったわけだ。そして事実またそのうちら側へさらに畳を立てかけて家内総出でそれを押さえつけたこともあったという話を聞いたこともある。



稔村家平面図

左端に半分ほど見えている梯子は二階へあがるためのもので，昼はこの戸締りを太縄で二階からたくり上げる仕掛けになっているが，**写真**②の入口上部にその上げた様子が見えている。

図面の南店というのは当家のみの呼び名であるが，ここは商品の荷造り場であり，夜は大八車や丁稚車など荷車の置き場にあてられたところ，その上の表二階は，大屋根が前後に流れる切妻造りとなっているので，その端の方は頭を打つほど低く，北半分は店員たちの寝所，南の半分は二重締り戸の納め場所と荷造り材料の置き場所となっていた。

表入口から店の間をまっすぐに通り抜けて中戸をくぐると，写真①にかすかに見える中庭である。ここにはちょっとした植込みがあり，石灯籠や井戸などもあって，その左側は玄関（当家では勘定場という）で靴ぬき石があり，右斜め奥が台所の入口となっている。中庭の一隅にある控間というのは適当な呼び方ではないが，もとは供待ちであったものを，店員の私用品入れとして利用していた。

石畳に従って台所の入口にかかったのれんをわけてはいると，**写真**④のように，炊事場との間に造り付けの目かくしがあり，左側は上り口，右の押入れの向うは，後に造られた隠居所への出入口となっている。

上り口をあがったところの4畳半は，当家では上（かみ）の台所と呼んでいたが，これは家族達の食事をするところで，それに対して，その奥の4畳と，通り庭に面した一段低いタテ2畳とが下（しも）の台所で，店員や女中たちの食堂となり，夜は女中の寝所ともなっていた。この上下の区別は明治時代までの大阪では実に厳格で，また，正月の祝儀も，家族は座敷を用いずに，上の台所で祝ったものである。下男（下仂き）は上へあがらずに飯かまどの横の壁際の板敷に腰かけて食事をとったというのも，やはり階級というものがやかましくいわれた名残りと見てよい。

大黒柱はこの上下の台所の取りあいにあるが，さらにもう一本同じ太さのものがその奥にもあった。台所（炊事場）の上は，煙出し付きの化粧二重梁造りであったことは，一般の商家と変りはない。

写真⑤は上の台所を庭の方から見たものであるが，正面の階段は下をたんす代りにした箱段梯子で，こうした空間の利用法は昔の人は実によく考えていた。一つは当家に押入れがほとんど見当らないせいもあるが，小物入れとしては，今の建築家も大いに参考にすべきであろう。

荒神だなはかまどの上に，井戸の神は井戸上の隅かどに，また厠の神は窓口を出たところの袖壁にまつられてあった。また，子供の息災を祈るためとて，煙抜きに番傘をつるしてあったのは，当家だけのことか，他にもあるのか，まだ調べていない。

便所と風呂場とは，通り庭を裏へ抜けた一郭に集められ，下便所は土足のまま用を足せるようになっていたのも，大阪のどこにでも見られる形式であった。

こう書いてくると，稔村家の建物はずいぶん古いように思われるが，実は明治の島之内焼けまでに三度も火災にかかっていて，その後明治24，5年ごろに，以前の規模や形をそのままに新築されたものであり，いろいろの古い形式を伝えている点では，大阪における商家の好資料というべきものであった。

戦争などということを考えれば，その他の旧家ももっともっと写真を撮っておくべきだったが，しかし気の付いたときには防諜などという野暮な法律がつくられて，うっかり写真機を持って歩くことも出来なくなっていた。実に残念なことだと思う。

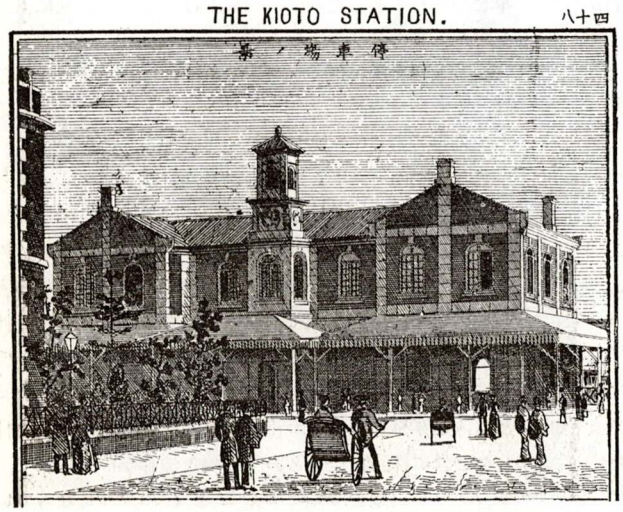
（筆者　郷土史家）

明治建築の三つの姿

滝沢真弓

建築学会創立五十周年の記念出版「明治大正建築写真聚覧」は極めて貴重な記念碑的大集成であるが，その資料は当時東京において集められ得た限りのものであって地方のものに就ては遺漏が少なくない。私はここに，その遺珠の中から三つを拾いあげてみることとした。

京都ステーション　京阪神間の鉄道の開通によって東海道線が完成したのは明治十年の初めだから，この駅舎はそれ以前に出来ていたはずである。ここに掲げた図は明治二十一年に大阪・青木嵩山堂で出版された「日本名所図絵・五畿内之部」の銅版からとったものだが，原版は当時の写真に基づいたものと思われ，構図甚だ正確である。



京　都　ス　テ　ー　シ　ヨ　ン

設計者はフランス人（と聞きおよぶが詳でない。大方の御教示を希う）。私見によれば意匠極めて優秀であり，特にその柱梁等の軸部を意識的に表出せめたところなど今から見て仲々モダンでさえある。但し遺憾ながら手許には文献資料の持合わせがない。やむなくここに上記名所図絵の文章を紹介するに止める。いわく——

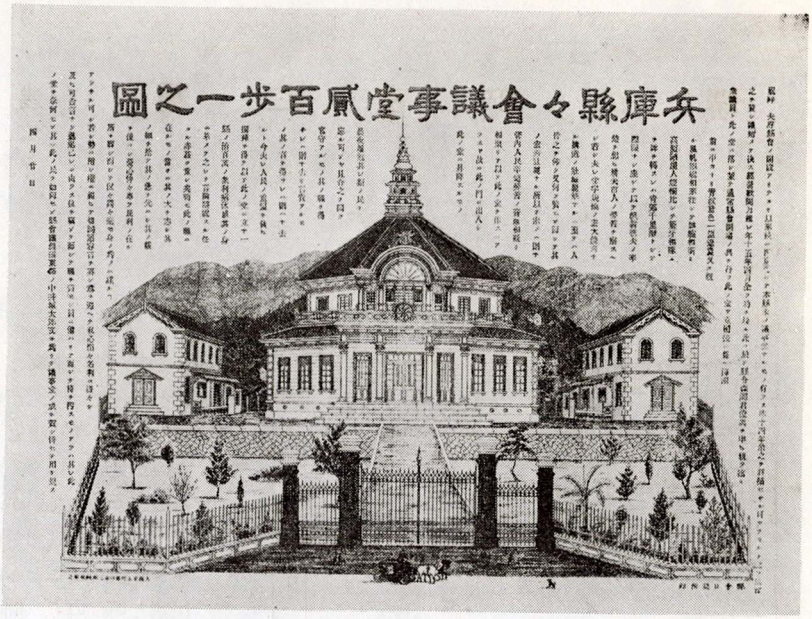
「停車場（ステーション）は七条通烏丸大厦高楼煉化石の構造にして花樹を培植し林泉の風致を成し此辺は肉楼茶肆（りょうり・ちゃみせ）榻（いす）を列べ路頭は人車轂撃雑沓たり，云々」とある。もとより学的文章ではない。が却ってそこに当時の庶民の気分が躍動している。「大厦高楼煉化石の構造」などとあたかも生きた歴史の声を聞く如き思がする。

八角議事堂　この名称は初代の兵庫県会議事堂の俗称（あるいは私称？）である。国会開設の期を明治二十三年と定める旨布令され，板垣退助を総理とする自由党の結成された明治十四年に起工し，翌十五年春竣工した。地方自治体としては全国にも珍しい威容であった。時あたかも鹿鳴館時代に際会し，ある天長節の夜，兵庫県知事は折から神戸港に停泊中の外国軍艦の将兵をこの堂に招じて一大ダンスパーティーを催した由，当時の県参事官だった牧野伸顕翁の回顧録に見えている。

この図は，この堂の創設者ともいうべき県会議長石田貫之助翁の祝辞を添えた「県会日誌附録」の銅版画からとったもの，構図また甚だ正確である。但し「二百歩一之図」とは

縮写ではナンセンスだ。

因みに原画は宮武外骨翁から明治建築史の権威堀越三郎氏に贈られた珍品。ただし，現物は戦災で失われた。が幸に複写があって，ここに紹介し得た次第である。



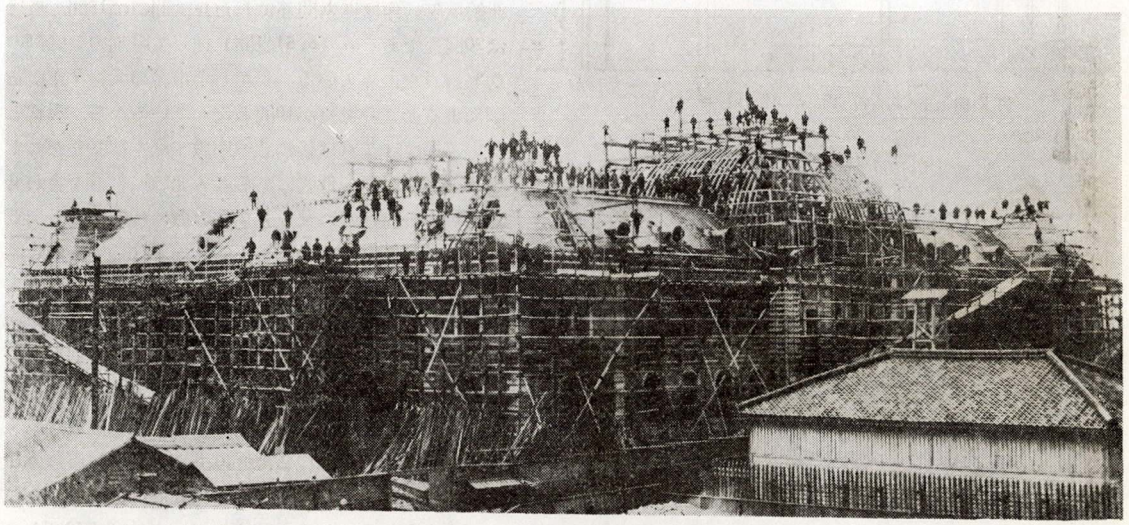
八　角　議　事　堂

兵庫県庁舎　上述の八角議事堂は明治三十六年に撤去されたが，その時はすでに，この県庁舎が出来ていた。設計者は明治建築界の一権威，山口半六氏であった。この人には別に，東大理学部本館，第一高等学校本館の如き作品があったが，大正十二年の震災で失われた。フランス仕込みのデザイナアで，作品には日本人離れのした大らかな風格があった。が特にこの庁舎は秀作だったと思う。

不幸にして庁舎は戦災にあって全焼した。外壁も若干損傷したが，補修によってフランス式ルネサンスの様相は大体復旧し得た。但し，屋根の模様は旧観を失った。創建当時の屋根工事が如何に大掛りなものだったかということをこの写真によって察せられたい。原画は本会員神田省三君によって提供されたものである。

以上あげた三つは，先にも述べた如く，ただ遺珠を拾ったまでで，決してこれが関西の代表というわけではない。但し，ひそかに期したところは，これによって明治建築史における三つの段階の型を示したいということであった。その三つの型とは（1）明治初期に来日した西洋人の手になったもの，（2）在来日本の工匠が西洋風を模索しつついわば文明開化式デザインを試みたもの，（3）組織的に建築学を学んだ日本人建築家が西洋の正統を伝えたもの，これである。このうち第3の型は，私見によれば，やがて日露戦争を契機として解体する。建築様式が国運の推移と軌を一にする例証ともなろうか。

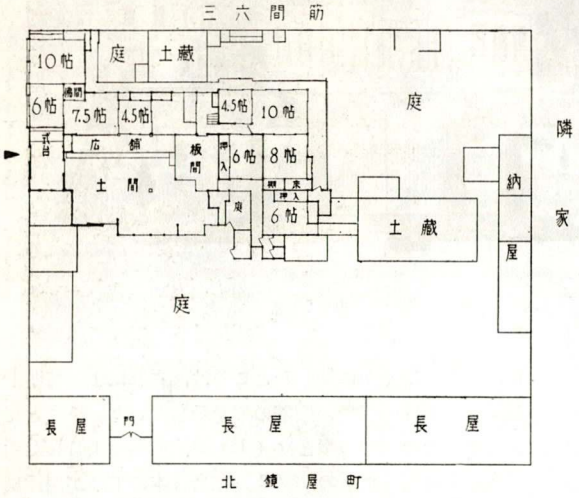
（筆者　大阪市立大学教授・家政学部住居学教室）



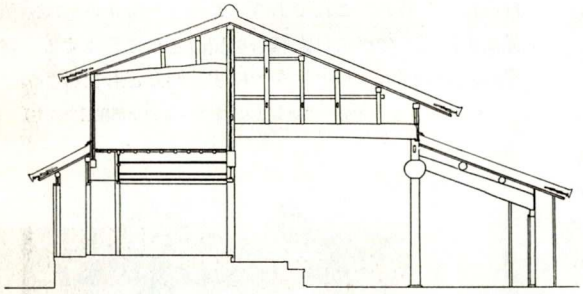
兵　庫　県　庁　舎・屋　根　工　事

堺の町家二題

浅野清



第1図 山口勝氏邸平面図



第2図 山口勝氏邸主屋断面図



第3図 山口勝氏邸南側表通り（西よりみる）

大阪，堺出来れば奈良あたりの町家について書く約束をした際には，だいぶ期間もあったので，新しい資料も少しは探し出せるつもりでいた所，案外思わしいものが見つからず，も少し丹念にさがしたら，見付かるのかも知れないが，その暇もなくなってしまったので，今までに見ておいたものの中から撰び出して責をふさぐ他ないこととなってしまった。大阪市内の古い民家というのも，聞きこみである程度見てあるいたのであるが，旧市街のものは殆んんどなくなっていて，残っているのは皆元の近郊の農家ばかりである。堺の町も大半戦災でなくなってしまったが，北部には焼け残った所もあるので，ここで2つの例をあげることができる。これはさすがに古い町の家のこととて，いろいろ興味ある問題をもつ。なお入念にさがしたらまだ多少資料が出るかもしれないが，今回はこの2つでお許しを乞うこととしたい。

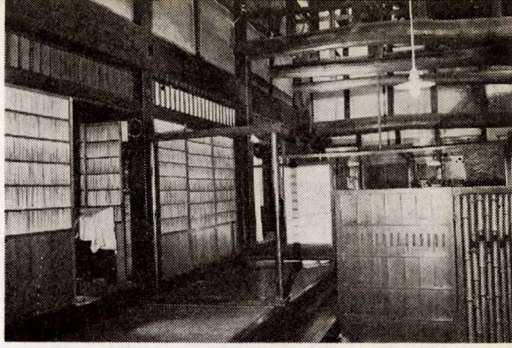
山口勝氏邸

堺市錦ノ町東一丁にある。堺の町割は細長になっていて，南北に長く，東西は20間内外，南北は60間程の区劃になる。山口邸は錦ノ町通の北側にあって，東は北鏡屋町，西は三六間筋にわたり，間口は19間，奥行は20間程である。（6.5尺1間）従って町割の一区劃の約3分の1を占めている。しかし堺市蔵の元禄2年の古図によるとこの奥行が10間となっているから，現状とだいぶ違う。これは後に北へ座敷や庭を拡張したことを示す。（元禄の地図にあるこの北の二軒分を合わせると現在の大きさになる）東北の蔵に棟札があって寛政12年（1800）の上棟であることを示すのもこれと話が合う。いづれにしてもこの家の一番古い部分は大土間とこれに沿うた一列の室であり，棟札によれば，南の道路に面した一列の室と西の蔵は安永4年（1775）に建っている。門は東のとおりである北鏡屋町に沿うて建ち，長屋門の形式で，門と主屋の間には庭が広くとられている。元禄の古地図にもこの北鏡屋町に臨む側を表としているから，その頃もここに門があったことが考えられる。この元禄の地図によれば表10間とな

っているので，南側の道路から10間をとってみると，主屋は完全にその中に入るが，座敷の方は主屋にくっついたものが一列辛じて入るぐらいである。

主屋ももちろんいろいろ改造されていて，原形をそのまま残しているわけではないが，現状からもいろいろ旧痕跡を辿ってある程度は最初の姿を推知できるのである。一番よく残っているのは構造主体で，造作や建具は相当変っている。それではこの主屋はいつ頃作られたものかという問題になると，中々むつかしいのであるが，こうして痕跡をたどって原形にもどしてみると，内法寸法なども5.16尺という低いものになるし，欄間や小壁が広くなって落付いたいい格好になるし，その他小屋の組み方を見ても，木材の太さの調子がうまくいっていて，実にすっきりしている。こうした点からみると，これは新しいものではあり得ない。まず江戸初期を下らず，ことによるともっと古いのではないかとすら思わされる。当家の安永9年（1780）に作られた過去帳によると，中興の祖として筆頭に出てくる俗名二郎兵衛は寛永8年6月（1631）に亡くなっているから，その人が仮にこの家を建てたと想像しても無理はなさそうである。ところがここで一考しなければならないのは，大阪夏の陣の時大阪方の大野道犬等によって堺が殆ど焼払われたという事件である。耶蘇会の年報によれば，元和元年4月28日のこの火災によって二万の家屋は火になめられ，その夜大阪では火の海より多量の火災が天に昇るように見えたとある。だからこの時焼払われたとすれば，その直後に建ったものが現在の主屋だと考えて無理ないと思われる。しかしこの家は堺の庄屋をつとめた家柄で（古文書）伝えによると冬の陣の時，家康の庶子結城秀康がこの家に泊ったといわれ，その関係から火災の度毎に火消が固くこれを守って焼失をまぬがれしめたというのであるが，この家が元和元年以前に多少遡るものか，その直後に建ったものかを実物から判定することはまだ困難である。強いていえば，この元和の火災に焼けて後再建された同じ堺の海会寺庫裡の差鴨居や小屋のやり方とこの家のものとは多分に類似した所が認められるのである。町家でも江戸時代中期以後のものなれば，まだ所々に残っているが，江戸初期に遡るものとなるとぐっと少い。だから比較研究も困難で，これが江戸中期まで下るものでないことはいえるが，これが江戸初期のものか，もっと遡るものかは実物だけでは判断できないのである。

この建物はまたその平面がめずらしい。すなわち，大阪府や奈良県下では，農家をも含めて，いづれも平入になっており，町家では表口を広く取れないので，土間の幅も余り広くならず，室も一ならびまたは二ならびにして，奥行に三室をおくのが多いが，農家では室を四つ目に作って，戸口を入った土間の通路の一方に室，反対方に納屋や窯屋をおくのである。所がこれは桁行をあまり長くせず，妻入りとし，建物を縦に2つに割って，一方を一ならびの室とし，他方を広い土間にして，土間の外に庇を設け，そこに窯等をおいている。この土間の巾は約4間，土間をこのように広くするのは庄屋の家で庄内の年貢米を取立てるために必要であった。この建物の土間につけられた庇は材料が少し新しいようで，当初からこんな形で存在したかどうか一寸疑問だが，この土間は屋根裏を完全に見せて高く作られる。室の方は二階建になって階上は物置であったらしい。階下の室は前後に3つならんでおり，土間に臨んで1間幅の広敷を作る。室の外側には今縁側を通し，床や押入などをこれに沿わしてあるが，この辺は後の改造で，元は庭に面しては僅かな開口しかもた



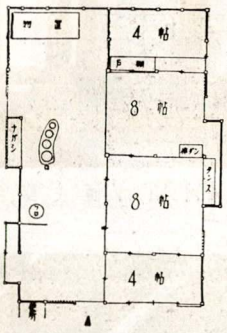
第4図　山口勝氏邸主屋内部



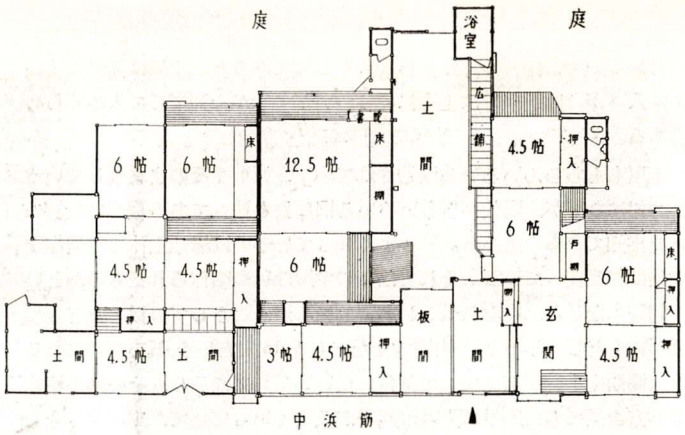
第5図　山口勝氏邸主屋土間小屋



第6図　山口勝氏邸主屋7帖半天井



第7図　能勢町吉野泉京之助氏邸平面図（参考）



第8図　井上関右エ門氏邸平面図

ず，壁を多く作っていた。そして室の大きさは，南から10帖，6帖，12帖（今この室は8帖と4帖の2室に分れる）の3室となっていたであろう。そして6帖間と土間との境の鴨居下面に存する間柱の痕跡から推すと，ここの間仕切は一寸違っていて，片引戸になるらしく，あるいは元この間が納戸ではなかったかを思わせられる。

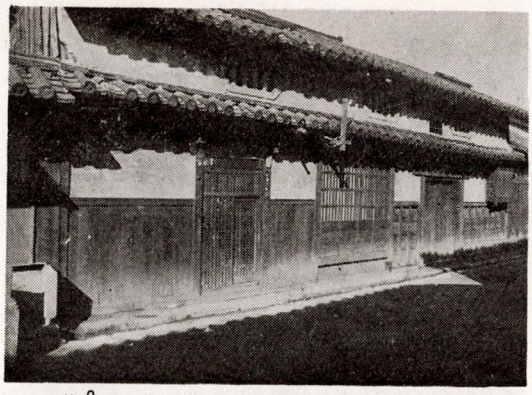
ところでこのように建物を桁行に二分して一方に室，一方に土間をおくような間取は，近畿地方には殆ど見られないのであるが，皆無ではない。同様な間取の農家が大阪府の最北端，豊能郡能勢町大字吉野にある。吉野に3軒と他に同村大字山辺にも2軒ある。しかしその中で断然古いのは吉野の泉京之助氏の宅である。これは四注屋根の建物を縦に二分して一方を室，一方を土間とし，室は四間あって，前から4帖，8帖，8帖弱とされ，一番奥の間は4帖に板張の部分が加って畳数に合っていない。そして建具の入れ方などは変っているかも知れないが，今は前から2つ目の8帖間は土間との間が板戸で囲われ，最後部の室は土間との間が壁になり，その中間の8帖では土間との間に間仕切を設けず，開放のままとなっている。こんなに類似した間取のものが存在するとなると，この間取はけっして町家特有のものとはいえない。むしろこの系統の農家の間取を取り入れたもので，農家との間に区別はなさそうだということになる。

間取ではそんなことになるが，構造の方からすると両者は全く違う。すなわち泉氏の家は屋根が四注茅葺で，叉首の構造になっており，山口氏の家は切妻造本瓦葺で小屋も梁束式でしっかりと組み上げられている。但し室の上の小屋と土間の上の小屋は構造が違っていて対称的にはなっていない。農家では当時まだ瓦葺などは思いもよらぬことで，このような構造は寺の庫裡などに見られるのみであったであろう。だから町家としての特色はここにはっきり出ているといってよい。

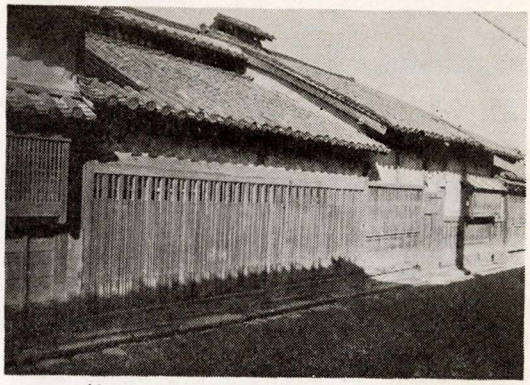
この家はこのようにこの主屋のみがとくに古いのであるが，安永年間には南の道路に接した所に室を設け，玄関のようなものをしつらえ，主屋の西北には土蔵を造った。これらはこの時始めて出来たものか，元そこにあった室なり倉なりを改築したものであるかは簡単に決められない。元禄の地図によるとこの北の敷地は所有者が違うが，その後これは山口家に入手されたらしく，いつの頃か北の方に立派な座敷と庭を構え，西の道路から庭に入る入口をつけて，西の塀沿いに待合や雪隠をつくり，主屋に近い座敷を一つ茶室にしている。こうして，この家の接客部は大いにととのってきたのである。

井上関右衛門氏邸

これは堺市中浜町にあり，昔から鉄砲屋として知られている家である。南北の道路の西側にあり，建物の間口は12.5間余りある大きい家であるが，実は全体が4棟からなり，主屋の間口が3.5間，その北に2.5間の座敷がつき，主屋の南に3間の建物，さらにその南に3.5間の建物があって，合わせて12.5間となるのである。しかもこの内南端の部分は最初別の一軒の家になっていたもので，後にこれを入手して，一つの住いに改造した形跡が歴然としている。そしてこの南の後に入手した部分の北の間に扉構をして，玄関を構え，座敷に通ずるようにしているが，これはその頃になって家の格式を見せるようになったことを示す。この部分と主屋との中間は屋根が低く，道路に面して連子格子が続いていて，内部の改造もひどく，元ここが工場になっていたのではなかろうかと思われる。主屋の北の座敷の部分も屋根が低く，この部には二階が設けられていない。敷地の間口はもう少し広く，南の建物の南には高い塀を設けているが，それまで通計すると6.5尺1間で，17間程となる。家蔵の明治3年の中浜1丁目水帳によると，この家の表口は17.5間となっているが，6尺1間にしてみてもこれとは一致せず，多少疑問がある。そんなわけだから，問題になるのは南の1棟を除いた部分であるが，南の棟を合併して玄関を作ったのと関連して，主屋との中間の棟の後方に12.5帖の立派な座敷を作っているので，その最後の完成された状態を一べつしておく必要があろう。その後の改造によって，また相当変更されてはいるが，玄関からは12.5帖の大座敷へ通じるようになっていたことは容易に想像つ



第 9 図　井上関右エ門氏邸表通り南半（南よりみる）



第 10 図　井上関右エ門氏邸表通り北半（南よりみる）

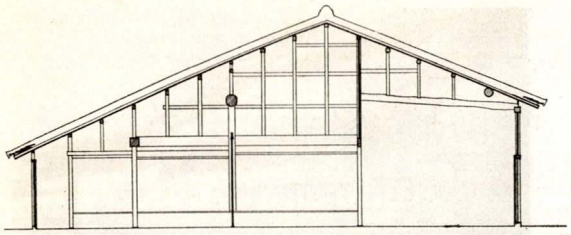
く。玄関を除く南の棟は3つの座敷からなり，中廊下を用いて通行できるようになっている。それにしても12.5帖の大座敷の他にこんなに座敷を構えたのでは，あまりに接客設備が多すぎる感じがする。あるいは始めは南の棟の客室で用をすましていたのであるが，後にさらに完備した12.5帖の大座敷を新しく構えたので，こんなに客室が多くなってしまったのかも知れない。いづれにしてもこの家は全体に工場や住いに比して座敷ばかり多いこととなるが，こうした鉄砲屋といった職では自然大名等との関係も多く，武家の来訪も繁くなるのであるし，一方仕事はだんだん下請に渡して，工場はこの地であまり広くとる必要がなくなったのかもしれない。

さてこれ位にして，主屋とその北の座敷について吟味しなければならないが，これも最初から同時に造られたものではなく，座敷と主屋の中間の半間は構造的に座敷に属している不自然さや，主屋が間口3間半で，2間を土間，1間半を室としたごく普通の町家である点などからみて，座敷は後の建し増しになるものであろうと考えられる。つまり最初のこの家はごく普通の町工場であったのであるが，その後発展して接客用の座敷を必要とするに至ったものと推定される。

それならば主屋はいつ頃建ったものかという問題であるが，まずその中の間と土間との境の小屋束に貼られていた3枚の札に一寸問題がある。これは奉読誦般若心経一千巻家内安全子孫長久祈所といった文句のもので，それ自体は何でもないが，その内一番年号の古い文化3年（1806）のものが貼られていた小屋束の面が少しもすすけていないことが気にかかる。つまりこの小屋束がすすけていない時に打たれたとすると，もしかそれが新築直後に打たれたものではあるまいかとの疑念を生じるからである。しかしこの建物を文化まで下げることはどうしてもむりなので，なおよく検べてみると，束の面はすべて釿ばつりのままであるのに，その部分だけは平で，後から削られたことが判ったし，別に何か打った釘穴もあるので，これは一応問題としなくともよい。

もう一つ家の年代を考える資料になるのは，この家の先祖がこの土地に落付いた時である。これに関しては，家蔵の書付があり，先祖鉄砲鍛冶八兵衛（又の名関右衛門）は寛文10年(1670)に歿していることが知られる。また仏檀の位牌を探ってみても，同人のものが一番古い。だからこの家をその人が建てたものとすれば，それより少し以前に建ったこととなる。ところでここで一つ気をとめねばならぬのは堺の大火として延宝8年の10月23日夜のものが記錄されていることである。これは戎嶋の芝居小屋から出火して御役屋敷から始めて16町 480 軒其他船舶を焼失している。しかしその場所や範囲からみて，これが町の北辺に近いこの地域に及んだとは到底考えられないのである。

次にこの主屋の間取を見るに，これは比較的小規模の町家の普通の間取になっていて，切妻造の建物を平入におき，その片側を土間，片側を室としており，室は前後に3室からなり，取付の店間が玄関になり，中の間6帖，奥間 4.5 帖になるのであるが，ここで注意を要するのは玄関の間である。すなわちこの部分の造作や建具は新しく，天井は棹縁天井となり，玄関らしく踏段などを作ったため，半間入込んでいるので，北の座敷の棟の半間分を玄関の方に取入れて 7.5 帖の間を作るなど，無理な仕事になっている。店の間を玄関のように構えることもおかしいが，さらに天井を棹縁天井にしているのも異例で多くはこんな所は2階を物置などにするために，2階梁を渡して，その上に板を張っているのが普通である。いづれこれは格式張った好みが出るようになった後の改造である。しかしこれらを除いてみると，天井など張った形跡はなく，高くに小屋梁がかかっていて，これが中の間との境の壁で終っているのである。そして壁を距てた中の間や奥の間では店の間とまったく異って，2階建になっており，したがってここでは梁は低くにかかり，梁から上には高い束を立てて，貫を幾重も通してこれをつないでおる。しかしこの中や奥の部分でも土間の梁は高くにおかれ店の間の梁と高さが一致しているのである。これからみても，店の間は奥の2間の室とは用途も全然異なり，おそらくは店の方には元部屋がなくて，天井も



第11図　井上関右エ門氏邸主屋断面図

張らず，全部土間になっていたと考えられる。つまり仕事場であったのであろう。そうとすればこれはもともとやはり鉄砲鍛冶のような家として建ったものとみてよいことになる。道路に面した側が，中2階も作らない建物であるに拘らず，建ちが高くなっているのも，土間にして少しでも高く空間を作るためであったであろう。

ところで例の元禄の古地図をみると，井上関右衛門敷地は表口6間で，この内北2間半は後部で欠けていて，西側の六間筋までぬけていない。だからこの北2間半の分に座敷がつくられ，南3間半に主屋のある現状とよく一致する。そして南隣の表は3間の敷地は籠屋宗休掛屋敷，その南の表3間の敷地は井上作兵衛のもの，次の表2間半は古手屋庄兵衛掛屋敷，つぎの表2間半は会所となっている。そしてこれを通計すると17間になるが，これが明治3年4月の中浜1丁目水帳に出る表口17間半にだいたい該当するのであろう。ここで籠屋宗休の掛屋敷は先に工場に当ると推定した表が連子窓になった部分に当り，いま門構えのような両開戸がついている部分の1棟が井上作兵衛の敷地に当るのであるが，ここが図では表口3間になっているのに，家の方は3間半の巾をもつ。これは図に誤がなければ，この建物が元禄の古地図以後に建ったものであることを示す。また井上邸の主屋とその北の座敷は元禄以前のものと考えることができても，その南の部分はそれより後の改作としなければならない。もちろん主屋の店の間を玄関にしたのも新しい仕事であるから，元禄まではおそらくいまの店の間の部分は土間で，居室はその奥の2間であり，客のために北に座敷が作られていたと考えねばならない。この客間へ上るにはおそらく店の土間を通って行ったのであろう。しかしこの座敷はまだあまり格式の高いものではなく，長押なく，棚なく，床の間も畳1帖分の大きさにせず，前と横に板を入れて，浅く，見付巾も狭いものにしている。この主屋と座敷の部分は元禄までにはできていたと見てよいと思われるが，はたして初代関右衛門の歿年である寛文10年までに，できていたか否かは一寸断定できにくい。しかし少くとも主屋だけぐらいはそれまでにできていたと考えて無理はなさそうに思う。

次に南隣の一筆の土地を入手すると，ここに工場を建てるようになった後には，店に玄関を構えて，座敷に通ずるように変更されたであろうし，さらに一転しても一つ南の井上作兵衛の家を入手すると，両開扉の門構えに僞した玄関をつけ，他の部を座敷とし，さらに一転して新に工場の裏に構えた12.5帖の座敷には床，棚，書院を型のごとく設け，欄間の彫りを凝した豪勢なものとなった。こうなってくると，仕事場にくらべて座敷ばかり立派になっていくが，これは職人の家でありながら鉄砲製造という，大名相手の職種で，社会的地位も次第に向上していき，いつか職人よりもむしろ商人としての実質を具えてきたことを物語るもののようである。

この家もまたその構造からみると最初から本瓦葺のものであった。堺の町には本瓦葺の家が非常に多く，ずいぶん小さい家でも本瓦葺にされている。おそらく早くから本瓦葺として建った家が多かったであろう。

むすび

わずか2つばかりの例をあげておいて，彼是いうのは無理であるが，2例の中1つは最初から庄屋の家としてゆっくりした敷地に自由な配置をとって建ったものであるのに対し，他は表口の狭いところに建てた比較的小さい一般的な町家であった。ともに一方に土間をおき，一方に一列の室を前後に配する。ただ広い敷地に立った方の家は妻入であるのに対し，他は平入になる。ところでこの妻入はめずらしいとしても，室を前後に3間ならべていることなども両者共通する。ただここの例では室を一列ならびにするのであるが，一般に少しましな町家では室を2列ならびにして，6間取にされるのが多い。その例は江戸時代の初期のものがなお数棟残っている奈良県橿原市今井町のものにも見られるし，宝暦安永ぐらいまで下るものであるが，大阪府南河内郡柏原町今町にもその例を見る。奈良県宇陀郡大宇陀町の松山はかって城下町だった所であるが，ここの町家も江戸中期以後のものしか残らないが，やはり同様の間取である。しかし大阪府南河内郡古市町にある江戸初期の一例や奈良県五条市にある元禄頃の町家では農家と全く同じく，土間も広く田の字形の四間取となっている。とくに古市町のものは屋根も草葺のままで，農家が町並に並んだのみのものである。しかしその点では山口氏邸も，その間取は大阪府豊能郡能勢町の妻入農家と同じ方式の間取で，これもまた瓦葺になっていることの他は農家と一向に変らないのである。だから井上邸が室が一重ならびになっているのは表口が狭いためのものと見てよいが，山口邸の場合は家が古い形式になっているためであると見るべきものである。この敷地も広い豪壮な構造の家が，こんな単純な間取を持つことは注意を要する点で，なにか古い伝統的なものに支配されているような気がするのである。町家についても乏しい例から結論がましいことをいえる時期ではないが，さらに資料が集積されて，進んだ見解が出来てくるように，持合わせのものを御紹介したまでである。

（筆者　大阪市立大学理工学部教授）

京都の町家・近江の町家

西川幸治

限られた頁数で京都の町家・近江の町家について述べるには，いくつかの述べ方があると思うが，今回私は，京都の町家を中世末の兵乱のさ中に成立し，その後も江戸時代を通じてその自治的機構を保ちつづけた〝町〟の中で考え，近江の町家を近世初期に成立した武士階級を中心とした城下町彦根の場合と中世末以来特異な発展をとげた近江商人の場合について考えてみたいと思う。



第1図　中京の町家

京都の町家

1. 近世京都のなりたち

平安京の条坊制が定められて以来，長い間その古代的規模をもちつづけてきた京都のまちも，応仁・文明の乱(1467-1477)が，京都を戦場として十一年間も戦われ，公家武家の第舘から一般の民家にいたるまで焼失するもの三万余戸に及び，古い平安京の地割は，このとき焼失をまぬがれた三条から松原，高倉から堀川までのいわゆる下京古町（祇園会鉾出地区）の一郭を残して大きくかわった。即ち，乱后，上京には永正頃から御所の周辺に小城下町のような新在家がつくられ，又南北朝以来一条から北に拡大して，上・中・下の立売が形づくられ市場町らしい市区の発展がみられ，また下京にも祇園社，東寺の門前町がはやくからひらけるなど，あたかも中世都市の諸形態を縮図にしたような発展をみせていたといわれる。又この頃，兵乱のやむごとに還住した市民の間に，荒廃と廃墟を前にして自ら生活全般の安全を確保するため，近隣相より相たすける集団生活の基礎単位としての「町」の成立がみられた。この「町」は平安京の坊条制による方四十丈の町とは異なり，市街地において地域的に協力するのに最も自然な，また火急に際して便利な道路をさしはさむ両側をもって一町を形成するものであった。更に天文の初年にはこの町の地域的結合体である町組の成立がみられた。

安土・桃山時代には，信長・秀吉ともに町組の組織や，京都の豪商の経済力に依存し又それを利用しながら京都の復興を意図したが，信長は元亀四年(1593)都市保護の代償として出金を命じ，これに応じなかった上京を焼打した。秀吉は積極的に復興に着手し先ず天正十八年(1590)区劃整理を断行し，各所に散在していた寺院を東京極及び北方安居院辺りにあつめ，前者を寺町，後者を寺の内と称する特殊地帯とした。更に翌年には都市防衛のために御土居と称する土壘を築き，北は鷹ケ峯上賀茂から，南は九条東寺南門まで，西は紙屋川に沿うて南下し，東は鴨川岸にいたる総延長5里26町に及ぶ洛中洛外の堺を定めた。又これに先だって，聚楽第，方広寺大仏の造営が相つぎ，荒廃した京都の復興はめざましく進められ，ここに近世京都の基礎が確立された。

2. 近世京都の町家

上にも述べたように，天正十八年（1590），秀吉はいわゆる祇園鉾出地区と，はやくから市街を形成していた上京の一区を除いて，寺町高倉の間，堀川以西，押小路以南には方一町の町割の中央に南北路を附して短冊型の地割とした。このため京都の地割は正方形地割（方一町正格の町割で中央に南北の袋小路をもつ），短冊型地割，一条以北の西陣区，洛東の如く平安京の郭外に後世出来た

不整形な郭外地割に分けられるといわれる。

次に，短冊型地割の地区に属する室町通大黒町の元文元年(1736)の水帳によって家屋敷の規模をみてみると，裏行は西側では殆んど8間2尺に統一しているが，東側では12間，15間，端部では4～7間と多少の凹凸がみられる。間口は3～6間が80%を占めている。又間口の規模分布については，寛永12年（1635），将軍家光の上洛にあたって，その土産金銀の配分のため奥行に無関係に間口ほぼ三間を一軒役とする軒役の制が定められ，これに比例して町内経費公役の費用が割当てられた。地ノ口割という祇園会山鉾神事に関する費用は間口に比例して分担されたといわれる。

前にも述べた町組，上下両京の自治的機構はその後多くの変改をうけつつも町自治の機構は残り，各町は「町之定書」などの町規を定め，町の自治的運営を進めていた。このうち，町の住居家屋を規制するものを二三あげてみよう。

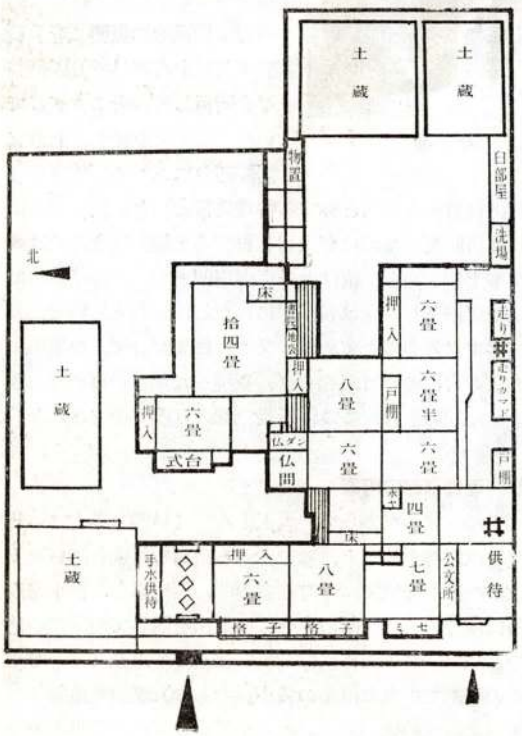
町によってはその町内での職種の規制を定めている。例えば，衣棚南町では慶長10年（1605）には，武士・検校，文化二年（1805）には武士・検校・出家・米屋・問屋・碓屋・紅屋・造酒屋・菓子屋・練物屋・風呂屋・鞴立職人・氏性悪人，柳八幡町では享保元年（1716），「藍染屋・湯屋・風呂屋・薬灘屋・鍛冶屋・木地屋・薄屋・竹屋・突米屋・油しめ屋・桶屋・飛脚屋・合羽屋・打綿屋・道具夜市道具之会同販売　右之外にも人之きらひ申職商人又ハ火之用心悪敷家業人」の居住を禁止し，鮹薬師町では享保八年(1723)「絹布商売之外ハ古来より売買無之候」と絹布商以外の職業を営むのを禁止している。

又，先にも述べた軒役の制限や，家屋形態についても規制している。御倉町では寛文六年（1666）の家屋敷売券文書の中で

「障子作り長暖簾引廻し懸申間敷候　町並之見せ棚を付可申候事」饅頭屋町享保四年（1720）定には「一，家作リ格子路次古来ヨリ無用之事　一，裏借屋古来ヨリ無用之事」このように，その町の防火的配慮や，町内の景観の統一のために，職種や又家屋形態の規制を定め，家屋の禁止職業者への売却，貸家を禁止している。

次に，江戸中期の町家を次の大・中・小の規模をもつ三つの絵図によりみてみたいと思う。

第2図　中井家京都店平面図

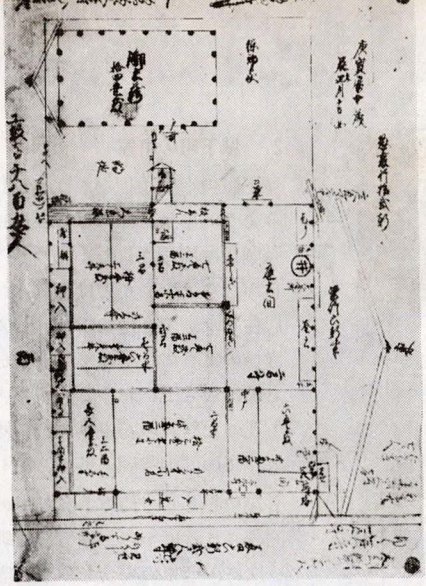


第2図は天明―寛政年間(18世紀末)の中井家京都店，近江日野中井家（後述近江商人の住居）の分家中井正治右衛門の家で，柳馬場押小路下ルに表通拾三間弐分五厘指渡拾五間六分の地を占め，生糸・漆・紅花・や長崎貿易による輸入薬種や銀箔仲買など多角的な経営をしていたといわれる。図からもわかるように，表通りに面して表向接客用の居室に連なる門と，ミセ・奥向家族の居室に連なる表門との二門があり，両者の間には格子・見世がつけられている。表向の居室に連なる門には供待手水が設けられ，ここから式台を通して床・書院・地袋をもつ十四畳のザシキに達する。ザシキに面して松二本楓桜のある前栽がある。又表口はミセに連なり，ここは公文所と供待という部分と押入をもつ七畳のミセからなり，中戸，台所口をへだてて六間に一間半の細長い台所に通じ，走り，かまど，戸棚，井戸が設けられている。これに平行して居室が二列にならび，表向ザシキとの間には，仏間が設けられている。このようにこの町家は，表向接客用の部分，ミセの部分と奥向居室の部分の三つからなり，更に大商家にふさわしく大きな蔵が四つ屋敷の内に建てられている。

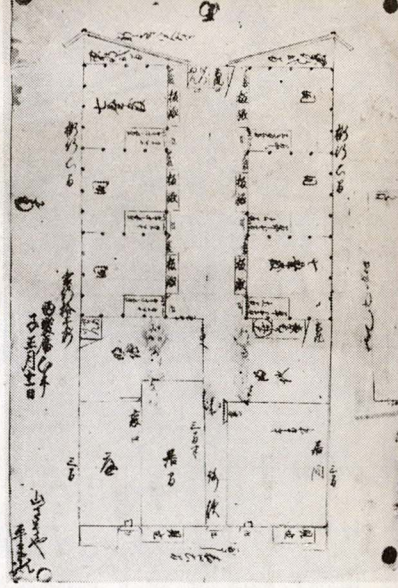
第3図は宝暦十年(1760)の町家の設計図で，山さきや作兵衛という人の家である。位置は不明であるが，下京と考えられ，表口6間2尺6寸，惣裏行12間の敷地に，図からわかるように，南の表通りに面して，揚戸，見世，門口が設けられている。門口より奥行二間半のミセに連なり鍵字型になった土間をへだてて，長五畳敷，十三畳敷と六畳敷に分れている。中戸をへて巾二間八寸の庭土間の東側にカマド，井戸，走りがならび，反対側にくつぬぎ，しょうぎがおかれている。庭土間に平行して七畳敷二間と十畳敷六畳が二列にならんでいる。北西角の十畳敷の間は床棚をもつザシキでくれ縁をへだてて明地ニワに面し，となりの七畳敷の前の板えんから湯殿につらなっている。この場合，たたみの大きさが平面規模の

基準にはなっていないように思われる。この町家は間口6間2尺6寸，奥行7間の二階建で，軒高壱丈四尺四寸七分の建物である。又敷地の西北角には十四疊敷の御土蔵がつくられている。当時この町家は工数高1890人を見積られていた。第2図に比べてはるかに規模が縮小され，表向奥向の区分が不明確になっている。

第4図は，これは宝暦六年(1756)の借屋の設計図で，表口6間裏行11間の敷地の北側の中央にあった梁行5間桁行2間の古家をこぼって建てたものである。山さきや平兵衛の所有家屋で位置は不明である。この長屋は図でもわかるように，表通りに面した二戸の町家にはさまれた路次を通って表に通じる裏長屋である。これは南北に三戸づつ梁行2間桁行6間二列の長屋が向い合ってならんでおり，棟の高さ八尺五寸の片流れの長屋である。各戸は2間×2間で，入口に連なる半坪の土間と，七疊敷で，二列の長屋のはさむ明地に面して板縁，戸袋がとりつけられ，入口の上部は窓になっている。敷地の西の奥には共同のせついん一便所が設けられ，北側の長屋の東側には惣走り・井戸があり共同炊事場をなしている。このように裏借屋として，一室住居の最も低い居住水準をもつ当時の都市生活者の住居を示すものと思われる。



第3図　宝歴10年の町家の設計図



第4図　宝歴6年の借家の設計図

このように，現在私たちがみる格子・揚見世・塗連子，暖簾のあるしずかなたたずまいのよく洗練された町家やうす暗い路次裏の長屋はすでに江戸時代享保頃に成立していたことが知られる。(5・6図)

近　江　の　町　家

1. 安土の築城　—中世から近世へ—

近江は畿内に接して古くから農業・手工業がすすみ，中世末には湖東を中心に，塩・相物・檜物の三座をもつ日野市をはじめ，横関・馬淵・八日市などの市庭があり，又山門東塔領であった得珍保地方，即ち保内は広く近傍の地域も含めて近江商人の本拠として活潑な活動を示していた。又この時代には坂本は湖上水運の要津として，又延暦寺，日吉神社の門前町として栄え，石寺は六角氏の居城観音寺城の城下町として，日野は蒲生氏の城下町として，発達をとげ又浅井氏は小谷城を築き，その城下に市街の形成がみられるなど中世的都市の発達がみられた。

信長の近江侵入，山門の討滅にひきつづき，小谷城の落城となり，その武将秀吉は湖北三郡の領所として天正二年（1574）湖畔に臨み交通便な旧今浜城に居城を移し新しく城下町を建設し長浜と改名した。

その後も信長は，畿内の穀倉地帯，東海北陸から畿内に入る要地としての近江の掌握に努め，遂に天正四年（1576）から四年の月日を費し，信長の支配下の美濃尾張伊勢三河越前若狭ならびに畿内の諸士を動員してこの工を助成させ，京都奈良等の工匠を集めてこの工を担当させた。近くの観音寺長命寺の諸山伊場山から巨石をひいて石垣をつくり，高い石垣の上に宏壮華麗な七層の天守閣を完成し，又城下町の経営にも力をつくし全く新しい時代を画した。



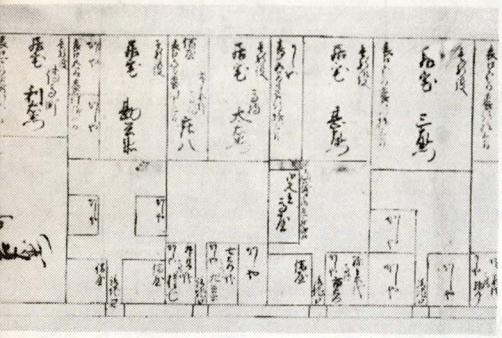
第5図　西　陣　の　町　家



第6図　中　京　の　町　家



第7図 彦 町 の 町 家



第8図 居 宅 と 裏 借 屋



第9図 彦 根 の 町 屋

2. 城下町の町家

城下町の形成過程を，江戸時代の軍学者のいう堅固三段によって考えてみよう。中世では，城郭は原則として，佐和山・小谷などのように，純戦闘用に構築されたいわゆる「城堅固の城」で，町は山嶽などの城砦からかなりはなれて設けられ，城と町は一体となっておらず，武士は町に居住しないで在地の村落に住んでいた。戦国時代になって城郭は，観音寺城のように次第に平原地帯の商業交通の要地に進出し町も漸く大きなものになっていわゆる「所堅固の城」と変っていった。ところが，先にも述べた信長の安土築城を契機として，近世的な大名の領国支配の拠点としての「国堅固の城」となり，平原大城砦都市が出現した。これは城郭を中心として侍町と商工業の町が集中配置され，町全体がその周辺を囲郭されるに至り，城下と城郭は全く一体となった。

次に，彦根の場合をみると慶長9年（1604），井伊直勝の居城佐和山城の彦根山移築に伴ない，「古へ三・四の農村と水田」にしかすぎなかった彦根の地に城下町が建設された。その町割と町家をみると，天守閣を中心にして次の四区，即ち天守閣を中心に城主の邸宅・御殿などを含む第1郭，これと内堀をへだてて，第2郭には高禄の士族の邸宅・御用邸がならび，中堀でめぐらされ第3郭から区劃されている。この外側の第3郭（内町）と第4郭（外町）の間は外堀で区劃され，武家屋敷・町家から構成されているが，その間には厳しい区分がみられ，また武家屋敷地域内では身分制秩序が明確に表わされている。天守閣・城郭を中核としそれ士の屋敷が身分制に従って配置され更にその塁下に身分的に分割されたを支える武商人町職人町が防衛上の考慮から狭い屈曲の多い道に面している。これらの町人の住居をみると，城下町建設当初は〝当時の居宅よりみるときは，小屋懸の類なり，その中にも至て構はぬ人などは片屋根にて暮せし人有〟といわれたが，年を経るにつれ，都市生活は向上し，町方上層の町人の間には〝裏に離座敷取建客ヲ請酒肴為取……〟という者もあらわれるなど住生活面の向上がみられたが，一方領主経済は次第に窮迫し，家臣に対して〝奢ケ間敷費毛頭不仕候様に〟と訴え，町人に対しては御用金，調達金の名目で借財せざるをえないという状態になりこうした矛盾をはらんだ藩制秩序を維持するため，禁令倹約令を発して住生活を厳しく規制した。一例をあげると，寛文六年（1666），町人の生活を規制した禁令の中に〝町人屋作致軽少長押杉戸付書院くしかたほりもの組物無用，床ふち，ほんかまち塗候事幷唐紙はり付停止の事〟と示されている。又他の禁令では使用材種，室内の細部，施設，調度品の制限・内玄関，離座敷，別荘，茶席の禁止が示されている。こうした度重なる禁令・倹約令にもかかわらず，町人層の経済力の上昇はこれらの規制を形式的なものにしていったことを当時の文書から知ることが出来る。又当時の町家の状態を家屋敷売買の記録についてみると，町家は表通りに面した居宅，借家人の住む借屋，他町居住者の出見世と，裏通りに面したり路次で道路に通じた裏借屋がある（第8図）。表通りの居宅，借屋は（規模はおよそ3～4間×5～6間で）屋敷の間口が家屋の桁行と一致しており，表口いっぱいを間口とした平入住居がぎっしり建詰っていた状況がうかがえる。又裏借屋は，土蔵などとともに附属家屋として一括売買され，規模は2.0間×（2～3）間で飢饉や凶作に際してその救恤の対象となる〝城下借家等ニ罷在候一日暮躰之者〟といわれた最下層町人の住居となつていたと考えられる。又建蔽率は附属家屋を含めて，およそ50～70％となり，武家階級の居住区の建蔽率と比較してはるかに高い密集状況

をなしていたことが知られる。このように密集住区であるため，表通りに面した上層町家には卯建，又卯建の変形した袖壁・塗連子などの防火的考慮がはらわれ，今も狭い屈折した角の屋敷にみられるように屋根と庇の間は垂木窓子は全く塗籠にされた。(第9図) また屋根葺材は享保―天明年間 (18C半) に板葺から瓦葺に移行している。

3. 近江商人の住居

〝近江国水口より三里入りて，日野と云ふ所，岡本町と云ふ所に中井源左衛門と云ふ者，商家にてありけるが，日野は一向往来のあらざれば，人の通行なし，故に商ひの手立なし。総じて近江の国の人物は，心肝大きく思慮あり。日野は店開き商人の體見えず。然るに富商多し，又此近きに八幡と云ふにも富豪あり。其地貧にして渡世なりがたき辺土は，必，富める者あり。吾近郷に産する物を買取り，他国へいき，之を売り，又其国の物を求め，他所にいき，是をひさぎ，吾国に帰るに及んで，吾国になき物を求め来るを交易と云ふ。見世を開き商をするを，賈人と云ふなり。往来の路傍に一膳飯を鬻ぐ者は生れし其処を離れずして渡世のなる故に生涯一膳めしを以て終はる。彼源左衛門と云ふ人は僅の元金を持ち，奥州仙台に行き，此地に綿の生ぜざる事を考へ，大坂より綿木綿古着の類を買ひ取り，仙台へ船まはしして，売りけるに，初は少々宛の商ひして，後年を追ひて大商となり，今に至りては人五十人を遣ふ程の見世を張り，中井新三郎と家名して，今三代目なり。其外下総の相馬太田原辺へも見世を出だし，今において三十万金の富商とはなりぬ……〟。

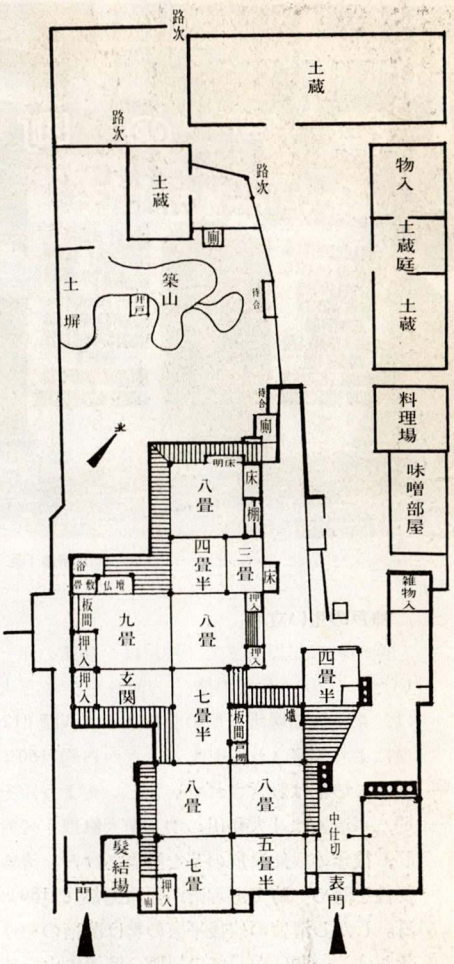
これは司馬江漢の「春波楼筆記」の一節である。ここに記された中井家は，前章の第2図の中井京都店の日野中井本店を指している。この記述からも知られるように近江商人は，畿内に接して古くから農業手工業が発達し，江戸初期にはすでに菜種実綿操綿などの農産物近江蚊帳・国友鉄砲などの工産品の商品化がすすみ，又交通上の要地にあり，又戦国の領主がいずれも滅ぼされその家臣士豪が家臣団への道をとざされ，江漢によってえがかれたように商人にその活路を見出したともいわれ，近江中郡ことに八幡日野五ケ荘を中心とする地方に行商と出店による近江商人の発展がみられたといわれる。

第10図はこの日野中井本店の天保十四年 (1843) の家相図より写したものである。上に，二階物見ザシキをもつ門から玄関，仏檀をもつザシキ，縁を通じて明床床棚をもつザシキを含む表向の居室部分，表門から土間をはさむミセの部分，ミセから中仕切戸を通して大きな台所をもつ奥向の居室部分と大きく三つに分れ，その構成は京都店の場合と殆んど変らず，豪商の屋敷にふさわしく土蔵がならびザシキの前には築山空泉水を含む庭がみられる。

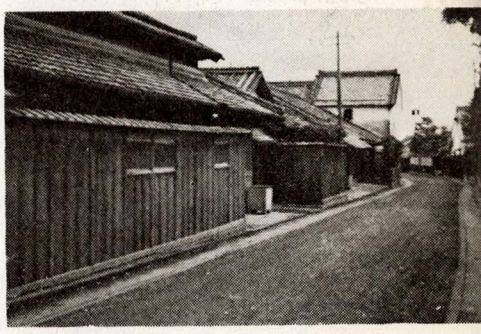
こうした近江商人の住居は先にも述べたように，商行為は殆んど出店で行われ幼小より子供―丁稚―手代―番頭という店員養成の方法で幼小より出店にでてしつけをうけ三十才前後になって主人より一家を構え妻をめとることを許され，その後も妻は郷里にとどめる習慣をもち，村落共同体の保証による特殊な商家組織を生みだし，いまもみられるしもたや風の町並の中に (第11図)，外村繁の〝筏〟の中にえがかれたような特異な生活様式，居住様式をなしていた。

終りに種々参考させていただき御教示された諸先生に対し，又資料について閲覧の機会を与えて下さった江頭恒治先生，田中吉太郎氏に対し深く感謝いたしたいと思います。

(筆者　京都大学建築学教室大学院学生)



第10図　日　野　中　井　本　家



第11図　日　野　の　町　並



神戸の町と洋館

坂本勝比古

旧居留地「英三番館」小松益喜画

神戸の生い立ち

今から百年程前まで，神戸は「兵庫の津」と呼ばれていた。この「兵庫の津」の前身をなす「大和田の泊」は，奈良後期嵯峨天皇の弘仁3年（西歴812年）国営事業により修築されたとある。だから約1150年程の昔，すでにこの泊は設営されていたといえよう。その後平安末期，平清盛は「大和田の泊」を大修理して対宋貿易を拡げ，後年の兵庫発展の基を築きあげた。清盛は兵庫の重要性を認め一時であったが福原遷都（1180）を行っている。しかし清盛の歿後平家の勢は凋落の一途を辿り，都落ちする一門はかっての福原の邸第に火を放ち「大和田の泊」より太宰府へと身を引き，再び勢をえて入洛を夢みたが，須磨一の谷の合戦（1184）に一敗地にまみれ，滅亡の運命を辿ってしまった。

鎌倉時代に入って僧重源は「大和田の泊」の修築を奏上し(1196)工事が為されたが，このごろより史上に「兵庫」の地名がみえるようになってきた。延元元年(1336)湊川の戦起り，戦国時代においても海陸要衝の地として争われている。この間対明・対朝鮮交易は続けられていたが，慶長元年(1596)震災・津波があって兵庫のまちは全滅に瀕し，堺などが隆盛になったころより徳川初期にかけて，一時衰退の時期があったようである。近世になって，兵庫は海運陸路の足がかりとして栄えながら幕末を迎え，安政5年(1858)に結ばれた仮条約によって，兵庫開港の問題は世上の注目を集めることになった。

居留地の変遷

幕末の物情騒然たる1868年1月元旦（慶応3年12月7日）ときの朝廷や諸大名の反対を押し切って，幕府は兵庫開港を断行した。開港の式が新築成った和洋折衷の運上所（のちの税関）において催されたとき，ビードロ（ガラス）の窓が朝日に輝くのをみて，集まった兵庫，神戸の人々は「ええじゃないか」と喜びうたったといわれている。これに先立って英国公使オルコックは居留地設定のため兵庫の町を視察し敷地を物色した。ところが後に居留地となった神戸村などは，その当時全然問題にもされていなかった。しかし幕府は外人を嫌う人心と，既成の町なかに割込むことは，いたづらに市民の反対を買うことになるため，市街地を避けて神戸村の海際の僻地を選ぶことになり，英人技師C・ブロック外2名によって実測され(1867)旧生田川西岸約4万坪を定めて，直ちに神戸村庄屋生島四郎大夫に地形工事を請負せた。この地は126区に分けて競買され，明治元年末ドイツ商館が4戸，続いてイギリス商館ができて，明治5年には海岸通りに9軒の洋館が建ち並んだといわれている。

明治工業史建築篇によると「明治初期における西洋風木造建築，すなわちその実和洋折衷のものは3種あり，第一木造となしてその仕上げを下見板張とし，ペンキ塗としたるもの。第二木造を石片張仕上となしたるもの，第三木造を大壁塗もしくは瓦張，漆喰塗としたるもの是なり」とある。これは日本人が模倣した場合のもので，居留地におけるものの程度は一段と高かったと思われる。

居留地の建築は神戸の場合次の5つの段階を経て今日に至っている。すなわち，明治初期・中期より後期・大正・昭和・そして戦後である。

明治の初期は外国人が日本の風土，その他について何等の予備知識がないまま，南方植民地に建てられていた様式，たとえば，中国福建省あたりで「経楼建て」と呼ばれていた2階建熱帯風のものをそのままもってきている。これらに共通した特長として，木造2階建て，外壁は漆喰仕上げ，または下見板張オイルペンキ塗，軒廻り，窓廻り，胴差廻りに繰型を付け，上げ下げ窓とブラインド，軒下の持送り，露出柱の柱頭飾り，などは缺くこ



旧居留地に残る唯一の木造洋館



旧居留地「江戸町懐古」小松益喜画

とのできないものであった。日本にきた当座，事務部と居住部とは同一場所に設けねばならなかったため，1階を事務室，2階を居住室として使用し，居住の関係上2階は小部屋が多く，また各室に煖炉がとられていた。2階はヴェランダを設け角型あるいは円型の独立柱を配し，柱間は別名「徳利束」と称する組子をもった手摺で繋ぎ，これらの木部はすべて鮮やかな色合で塗られていた。

明治中期に入ると，日本人建築家の擡頭と，大工の棟梁なども洋式の構造などについて覚えるところあり，また外国人の風土的理解も加味されて，初期建築の建替，移転，煉瓦，石材を用いた恒久的大建築が建てられてくる。香港上海銀行（M33年），独逸領事館（M34年），オリエンタルホテル（M40年）などが代表的なものであるが，この時代重要なのは明治32年の居留地租借解消である。これによって日本の商社・銀行・などが任意に居留地内に進出することができるようになった。

大正に入って第一次世界大戦は，ドイツ系商社に大きな打撃を与え，また各国貿易商もその地位を日本側に譲ることになり，旧居留地には明海ビル（T10年）をピークに，三井物産（T7年），日本郵船（T7年），大阪商船（T11年）の各支店，ポートビル（T14年）などが好況を反映して続立するようになった。

この傾向は昭和に入ってからさらに強まり，日本銀行神戸支店，大丸（何れもS2年），日本興業銀行（S3年），商工会議所（S4年）などが，古い木造の洋館群を取除いて旧居留地の新偉観としてみられるようになった。しかし戦乱の余波はビル建築にもおよび，神港ビル（S14年）を最後に戦前の終止符がうたれてしまった。

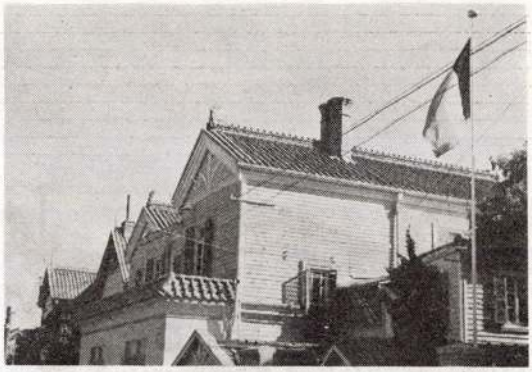
暗黒の数年はかっての居留地のすべてを舐めつくすがごとき結果をもたらした。廃墟のなかに立残る街灯が，昔の面影を僅かに留めていたといえよう。戦後は三国人の発注になる高砂倉庫（S21年）がまづたち，神戸銀行協会（S25年）が戦後初の美術建築として生まれ，竹中支店・松岡ビル・モーンェビル（S26年）が現われ，真珠会館（S28年），電々ビル（S29年），米国領事館（S31年）そして市庁舎（S32年）が巨大な姿を横えるようになった。復興の速度は遅々たるものであるが，旧居留地の整然たる区画のなかに端整に建つ建築群は，それぞれの個性を生かしながら穏やかに立ちつくしている。

老舗兵庫と新興神戸

これは兵庫県と神戸市との問題ではない。神戸市のうちでかっていわれていたことなのである。便宜的にいえば兵庫とは今の神戸駅より西の一帯であり，神戸とは三宮を中心とするあたりである。さきにも述べたとおり，開港当時の神戸村は一寒村にすぎなかった。従ってここに居留地ができ，港が整い始めると，一旗組が地方より集まって次第に町並が増えてきた。明治元年廃藩置県により兵庫切戸町に県庁が設けられたが，庁舎狭く，また居留地や運上所に遠かったため不便多く，県庁舎を東の神戸村に近いところに移す案がでて兵庫町の反対が起きた，なぜなら県庁が東に移ることは，兵庫の衰微を招くおそれがあったからである。しかし加納治郎作たるものが，「神戸は幾ばくもなく兵庫の神戸になるのだから」といって兵庫人の狭量を戒めた。そして現在地方裁判所のある位置に元年9月落成移転している。その後県庁舎は明治6年現在地に再移転した。明治30年ごろの地図をみると，兵庫と神戸村との中間かっての坂本村に，市役所，裁判所，警察署，商法会議所，郵便電信局などがあり，神戸市の中心は兵庫に近い西寄に位置していた。神戸村の急速な発展の理由としてはいろいろあるが，新らしい天地を開拓せんと意気込んで地方より集まった人士が多く，旧来のものに捕われず外国の文化，風俗などを



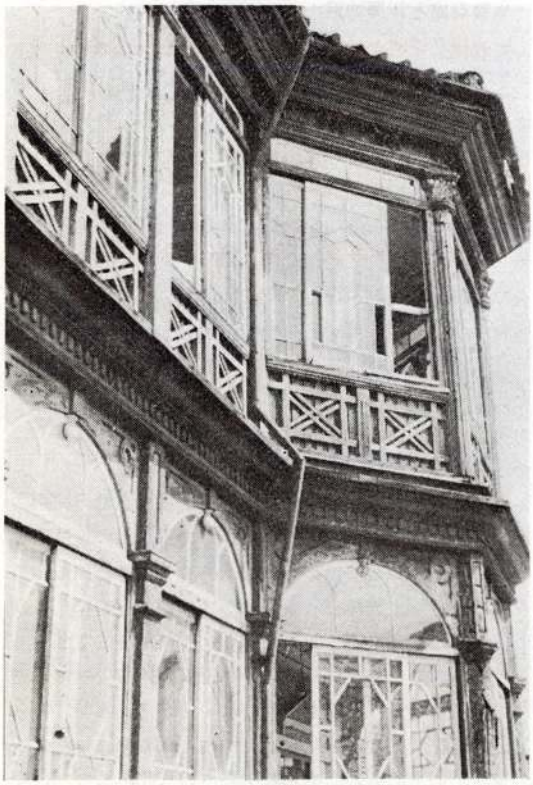
英人建築家A.N.ハンセルの居宅。明治29年頃の建築



北野町の一風景。手前の国旗はフランス領事館
洋館の屋根にのる鴟尾との対比が面白い

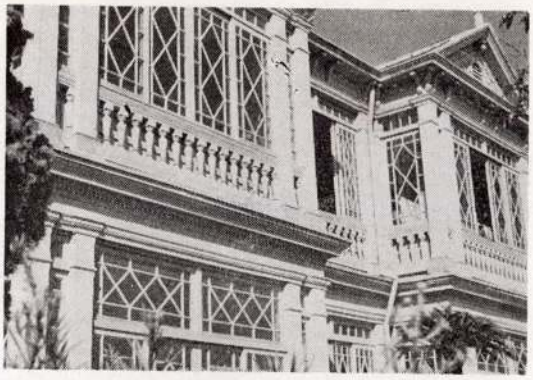
受入れようとする素地をもっていたのに，兵庫は土着人をもって成っており，その気風は古く，旧家とか主従の関係などあって，容易に時代の流れにのることができなかった。また，兵庫港がかっての回漕問屋の名残りとして，米穀，肥料など国内取引を主としていたのに対し，神戸港は居留地を背景に，舶来品など外国貿易が盛んであったことなどがあげられよう。従って，両者の間には常に溝があり，兵庫は神戸人を評して，軽薄とか成り上り紳士として非難し，この争いは明治の中頃になってもいわれていた。たとえば旧湊川をつけかえることになった原因は，この両者の溝をうめ交流をさかんにするということから出ている。明治の初年神戸は「兵庫の神戸」として知られ，神戸が発達すると兵庫は却って「神戸の兵庫」となってしまったのである。

初期に山手に建つたある異人館

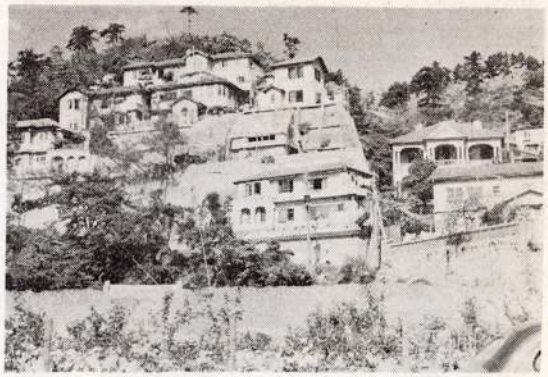


山手に残る洋館

北野町の山手を歩くと，とある洋館の横丁から青い目の子供と日本の子供達が，何事か喚きながら飛出してくるのにあう。彼らは遊びの目的に夢中なのか，異国人同志ということに神経は殆んど使っていない。また洒落た服装のマダムの口から洩れる言葉は，流調な日本語だったりする。一鎧戸・ヴェランダ・ページメントのついた窓・そして下見板の剝げかかったペンキの汚れ—それらは開港九十年の歳月を暗黙のうちに物語っている。異人館は多く2階建でみなとの見える高台に，上へ上へと押しつまるように建っている。異郷の地にある彼らにとって，海がみえ，居留地を見下す位置は，絶対的な条件であったのだろう。また自然の景観を大きくとり入れること，自分達の建物が遠望されたとき，周囲の環境といかに融和するかということに注意を払っていた。初期のころ洋瓦が得られなかったため黒色の日本瓦を葺いているが，もし釉薬の洋瓦が得られていたら，建物はさらに引立ったであろう。彼らが思いついたのか，瓦屋の職人の発案かこの異人館の棟に，鯱型の鴟尾瓦が当り前のようにのっかっているのがある。ここで明治20～30年代神戸で活躍した英人建築家A・N・ハンセルの居宅について



ある洋館のデテール。細部の手法がよく分る。



山手の崖際に上へ上へと押しつまつて建つ洋館

ふれてみたい。木造2階建，日本瓦葺，延約100坪，外壁下見板張り油性ペンキ塗，ヴェランダのアーチは印度風の繰型をもち，写真にしめすように左右対称，均斉のとれたデザインは周囲の他のものに比較して，とくに優れている。

Verandahは縁側とか，あらわな廊下という意味に訳されているが，初期の洋館は庭あるいは道路に面して，全くの吹放しでこれがとられていた。これは南方系の様式を受継いでいると考える場合当然であるが，日本の冬期の寒さや颱風などの影響を考慮して，後にヴェランダの外周りにガラス戸を取付けるようになった。ゆえにかってのヴェランダは現在ガラス戸に囲まれてサンルームのごとく使われているのが多い。これは床に敷かれた防水材料，室内への出入口についているブラインド，在来の柱にあとから入れたガラス戸との取合などに初期からの使用上の変化をよみとることができる。庭園に植えられたものに，棕梠や蘇鉄などが多いが，建物の様式や色調とよく似合って美しい。

旧居留地や山手のこれらの洋館に魅力を感じ，20数年間ひたすらに建物を描き続けている画家がいる。新制作派の小松益喜氏がそれである。彼が中学生のころ，修学旅行で初めて旧居留地を歩いたとき，霧のなかにぼんやりとガス灯が灯っていたと語られていた。神戸のこれらの建物に宿るエキゾチシズムに引かれて住みついてしまった彼が描いた画には，いま見ようとしてもみることのできない幾多の建物の在りし日の姿が残っている。白い壁にかかった犬の小便に煤がついて，それがやがて黄色く黒く，しみついていった壁のもつ味いを，克明に表現しようとした努力のなかに，このような建物を愛した人のひたむきな心が読みとられるのである。

にじみ出る国際性

神戸は本年，すなわち1958年1月元旦をもって丁度満90年を迎える。その発展の過程を顧りみるとき今昔の感新たなるものがあるが，そのなかに一貫して流れているものは，〝みなと〟を中心とする考え方である。神戸は〝みなと〟の盛衰にその全てを托してきたといいえよう。だが，この段階において注目すべきは戦乱の影響である。明治10年西南の役は神戸をして征討出師の根拠地たらしめ，日清・日露の戦い，そして第一次大戦は，神戸に未曽有の好景気をもたらした。もちろんこれらは神戸に限られたことではないであろうが，海運・貿易を生命としていた神戸において，これらの現象が今日の発展の大きな因をなしていることを，否定することはできない。従って今回の敗戦は神戸にとって反省させられるものを多く含んでいる。また港のみに依存することで今後の発展は期待できないのである。

建築はその時代々々の社会・文化・経済などに裏付けされて存在するものである以上，その都市を構成する建築群が訴える沈黙の表現は，われわれに幾多の感慨を覚えさせる。明治以降，外来文化が建築の近代化に果した役割は大きい，居留地に最初に建った建物に接して抱いた驚きは，己れの自覚を促がすに役立ったであろう。

居留地が形成した街並は，外国人によって生み出されたものであるが，今日においてもその雰囲気は残っている。山手一帯に点在する洋館は，日本の町屋建築と並びながら不自然な感じはしない。また三宮や元町にみられる異国情緒は，それを誇張しようとして生み出されたものではないのである。みなと街として底の浅さを嘲うものがあれば，それは若い都市の息吹きとして応えればよかろう。米国領事館が学会賞をもらった。そのこと自体何ら問うべきものはないが，旧居留地の一角に日本調を主題としたことは，この辺りがもつ雰囲気を盛り上げることにそれほど役立っているであろうか。神戸にはいかなる近代建築でも受入れる素地をもってはいるが，神戸の特殊性を身につけ得ないものは，逆効果を招く虞れがある。なぜならば，永年しみついた国際性というものがごく自然に存在しているからである。

本文を書くにあたつて，大阪市大竜沢教授・神戸大学島田教授・画家小松益喜氏の御指導を仰ぎ，〝ここの会〟の資料を借用させて頂いた。篤く御礼申上げる。

（筆者　神戸市建設局建築部営繕課）

関　西　と　長　屋　建　住　宅

西　山　卯　三

1. 関西と関東

中日戦争がはじまってしばらくすると，急激な住宅難が大都市や重化学工業地帯をおそってきた。太平洋戦争に突入する前々年あたりには，同潤会は10数年の経験を土台に．軍需工場の工員や社員の住宅供給に活躍していた。そのころ私は同潤会のたてている小さな木造住宅をみて，ちょっと変な気がした。「立体4戸」というきわめて居住性のわるい，木造の，2戸建を上下にかさねた形の住宅がかなり建てられたようだが，これだって，こんなに無理をするのならなぜ長屋建を建てないのだろうかといぶかった。2戸建でとめておく必要はない。長屋建にすれば「空地」は前と後だけですむからもっと用地も節約できるし，平家建でおさまるかもしれぬ。だめなら2階建でもいい。極小住宅に3面，4面開放を求める必要はない。いずれにしても長屋建にすればもっと開発効率のよい住宅がつくれるはづだ。現に大阪周辺ではずっと以前から間貸し型2階建長屋や重ね建，廊下型共同建の木造住宅がつくられていた。

ところが同潤会は長屋建を毛嫌いしているようにみえた。それは同潤会そのものが東京の土壌にそだてられてきたのであって，長屋建など住宅のものの数に入らぬ低質住居とわり切っている「小住宅」思想がスタフたちの頭を支配していたからであろう。ところが日ごろ長屋でうづまった都会でくらしている関西のわれわれにとっては，なるほど極端に間口をせばめて奥行をながくした住宅にはにわかに賛同しがたいものを感じるけれども，この都市的住居形式はきわめて合理的な面をもち，チャチな極少の1戸建や2戸建で底のあさいコマギレ住宅をたてて土地を無駄に浪費しているのが見ていられない感じであった。私は関西の建築家として，長屋建のよさを主張する責任があると感じた。

立体4戸建となれば問題にならないが，もう一つ同潤会の面々の長屋建否定の思想の根底には，持家が最良の住宅の所有関係だという（当時のナチスの住宅政策と共通する）思想があった。私はこの「持家主義」を攻撃する必要も感じた。これも関西と関東の環境の差がしからしめたところかもしれない。*

その後できた国民住宅規格でも住宅営団の標準規格でも長屋建は最低規模の型に許容されただけで，一段下の低劣住宅としてしかつかまれていなかった。最後の戦時標準規格になってはじめて長屋建が採用されたが，そのとき「ここまできたか」と観念ににた気持をもった建築家が多かったのである。

2. 裏店——貸家——長屋

長屋建は武家の足軽など小者の住居のほか，江戸時代の町家ではとくに裏店（うらだな）の形式として発達した。

「裏かべは隣でかえす江戸の町」

町家は表通りも軒をつらねていたが，その所々に半間ばかりのトンネルのような通路があって，そこを裏へぬけると，下水の蓋が通路となっている両側に9尺2間の裏長屋が棟を一つにして列んでいる。その通路のはしに井戸，惣雪隠，芥溜，稲荷社などがあり，裏長居の住人たちは同じ家主の店子としてきわめて親密な生活圏をつくり出していた。裏店では便所も水仕事場も共同だから各戸は踏み込みの土間と奥に1間のたたみ敷の部屋があるだけで，隣との境界は土壁一つ，粗忽者が釘をうちつけると隣の仏壇につきささる——といった具合である。

こういう裏店の発展はすべての繁華な都市ではみられた。出入の通路である細い空地は大阪では路次（ろじ），京都では厨子（づし），名古屋では閑所（かんしょ）と名こそかわっているが，その構造はきわめてよく似ていた。

むろん表通りの家でも，借家の場合は長屋建が用いられた。持家の場合は，一つの壁を両方で共有するという「長屋」ではないが，境界の壁は互に接していて前と後だけしかあいていない2面開放型で，平面からいえば全

*私はこれらの点で数度ものをかいた。それらは「国民住居論攷」に収録されている。

く長屋建と同じ型であった。関西文化圏では，その平面は「通り庭」型が基本形であった。

明治の中ごろから次第に都市への人口集中が進行すると，地主や小金をもった人たちは貸家をたてて利殖，蓄財のたすけとした。彼らは必ずしも1室住居ばかしでなく，2室や3室の通り庭型住居を建てたが，その場合も長屋建の形式をより経済的なものとして採用した。こうして貸家住宅の増加は，長屋建の表家への進出と普及をみるにいたった。平面の形も，はじめはほとんど通り庭型に限られていたが，通り庭に床をはって畳数を多くしたり，庭をちじめて建築面積を少くしたり，間口をせばめて裏店型ににた「前勝手」風の平面ができたりして，貸家としてより効率的な方向へとの変化も行われた。**

3. 長屋建の普及

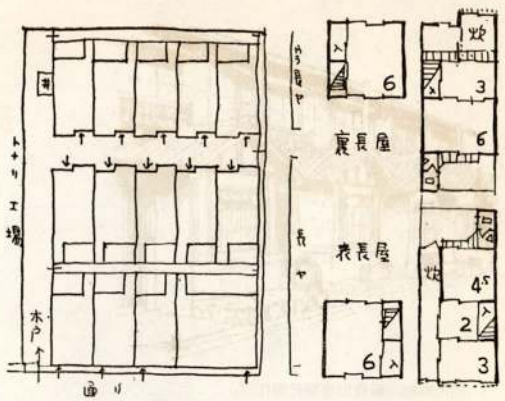
京・大坂は江戸時代から大都市であったが，天領で町人の町であり，当時から借家住居の人々は多かった。明治以後資本主義の発達に伴う都市の生長は，農村から入ってくる人々のための借家の発展を一そう必要とした。神戸も開港後は港都としてさかえ，六大都市のうち3つが関西——京阪神地方に成長したわけであるが，神戸も同様借家によって町を大きくしていった。

そうした借家居住の都市住宅のうちでの優位さは，大正時代の不完全な資料でもうかがえるが，昭和16年の大都市住宅調査は明らかにそれを示している。

	借家	持家	給与住宅
東京	73.3	25.2	1.5
横浜	63.2	35.1	1.7
名古屋	80.3	18.2	1.5
京都	78.7	19.9	1.4
大阪	89.2	9.2	1.6
神戸	88.3	10.4	1.3

つまり，阪神両市の借家率は，全国中最高を示している。

元来借家＝裏店として発達した長屋建の盛行には，その根底にこうした借家経営の普及がある。こうして，名古屋をふくめ関西の都市では長屋建住宅はきわめてありふれた形式の住居となった。東京では昭和6年3月の旧市域の住宅調査があるが，それによると全市で47.1%が1戸建であり，3戸建以上の長屋建は24.1%にすぎない。もっとも小石川（32.8%），下谷（29.8%），本所（28.3%），浅草（27.2%），深川（26.7%）などは長屋建が多いが，それでも全戸数の½に達しない。ところが，大阪では，住宅の圧倒的部分をしめる借家のそのまた圧倒的な部分が長屋建であったことは，昭和6年の借家住宅調査*** でも明らかで，全調査地域の専用借家の95.6%が2戸建以上の長屋であった。つまり長屋建が支配的であった。



大正8年ごろの長屋住宅の1例。（大阪此花区西九条）
表長屋は通りにわ型，裏長屋は表勝手型。
表家の一軒は家主の親せきがすむので2軒分の広さにつくられている。

昭和10年に私が行った大阪・京都・名古屋3都市の建設住宅の調査では，1戸建の比率は大阪12.8，京都54.2，名古屋31.7%にすぎず，大阪では4戸建が27.9%をしめ最も多かった。京都は1戸建が多いが，平面形からいうと長屋建と同じ前後2面開放型が圧倒的であった。

こうした事情は昭和16年の24大都市住宅調査の 1/500 抽出集計にもあらわれている。

		東京	(旧市)	(新市)	横浜	名古屋	京都	大阪	神戸
	1戸建	52.9	47.8	54.1	66.4	33.7	56.7	15.9	20.8
全	2 〃	30.4	29.6	30.6	25.6	26.8	16.7	17.6	29.2
	3 〃	4.6	5.9	4.3	2.1	10.0	9.0	9.9	13.0
住	4 〃	7.5	10.0	6.9	3.5	12.9	8.3	22.8	15.6
	5 〃	1.8	3.3	1.4	1.4	7.4	5.0	12.4	6.8
宅	6 〃	1.3	1.9	1.1	.7	5.3	1.3	13.9	7.5
	7以上戸建	1.5	1.5	1.6	.3	3.9	3.0	7.5	7.5
	計（実数）	1412	270	1142	289	380	300	848	308
借	1戸建	42	37	45	45	22	48	9	12
	2 〃	36	35	36	40	30	20	18	30
家	3 〃	6	8	5	4	12	11	19	15
	4 〃	10	12	9	6	16	10	25	18
の	5 〃	2	4	2	3	9	6	14	8
	6 〃	2	2	1	1	6	2	15	9
み	7以上戸建	2	2	2	1	5	3	8	8
	計（実数）	1086	212	874	151	310	239	761	262

〔備考〕「大都市住宅調査補遺」（S19.8厚生省）より算出した。

この数字は他の諸資料からみられる傾向とよく対応しており，東京に1戸建が多いのに対して大阪・神戸・名古屋では1戸建が少く，長屋建が過半をしめ，大阪では4戸建が一番多く，それ以上の多戸長屋が過半をしめていることを示している。

戦後は貸家企業が採算われのため後退したので，貸家そのものが減少し，しかもその大部分はより短期に資金を回収しうる木造アパート形式のものでしめられるようになっているが，普通住宅ではやはり大阪では長屋建が多い。また民間自力建設の重要な部分をしめている建売

**長屋建のプランの変化発展についてはくわしくは「住宅」1953．10参照。

***「実地調査の結果からみた大阪市内の借家住宅」S6．大阪府



昭和初期の前炊事場型長屋住宅。
突出しているところが炊事場。それがさまざまな意匠をこらしている。これは，ちょっとコッテーヂ風のデザインである。



昭和10年頃の長屋住宅。
（大阪・市岡）
ソデ壁と大屋根の箱づくりの軒が重々しく立派そうにみえる。表通りの長屋である。

り住宅でも，長屋建のものがかなり多いことを示している。昭和26年から28年にいたる大阪府下に建設された貸家住宅の調査****によると，貸家は全建設数の35%しかしめていないが，そのうち民間貸家についてみると80%がアパート形式をとり，のこりの普通の専用住宅のうちの87%は3戸建の以上の長屋建である。また建売住宅についても，74%が長屋建であり，4戸建が最も多い。戦前からひろくみられた建売住宅にも長屋建が圧倒的であったが，これは「家主」に売られたのであった。ところが住み手が1戸づつの所有者になる住宅で平然と柱と壁とを共有する長屋建が通用しているのは，居住者の多くがせっぱづまって家を求めていること，戦後多数の長屋住宅が住人に売られて長屋を所有するということに不自然さを感じなくされていることなどもあろうが，大阪における長屋形式に対する一般的な寛容度が大きいことを示しているともいえよう。

4. 長屋住宅の伝統

関西での，上にのべてきたような長屋建住宅に対する地についた需要とその発展の歴史は，日本の住宅のこれからの改善についてどのような意味をもつであろうか。

それは明かにせまい敷地に極度に住宅を押しこめようとする多分に貸家業者達の営利のための努力の産物であり，そのため居住性が圧迫されているという点では歓迎すべき住居形式といいえないかもしれない。しかし，この伝統的な住居形式の中に将来発展させていくべき遺産を全然発見できないということはあるまい。あるとすればその芽は何であるか。古い風俗習慣としてでなく，未来に眼をむける建築家の関心は当然ここにむけられるであろう。

そこで，すぐ思いつくのは，この長屋建と戦後新らしい不燃住宅の型として建設されている2階建連続住宅，いわゆるテラスハウスとの相似である。両者をみくらべてみよう。

現在建てられている多くのテラスハウスは，下階を居間・台所・便所にし，上階を寝室とする洋風の生活様式——昼夜上下分離型の考えで計画されている。これは在来の長屋建とは全くちがう。在来の長屋建は，平家建の平面が主体で，2階建の場合それに非常に開放条件のよい1ないし2室が附加されるので，生活は一応下階だけでも完結するが，上階の「よい」部屋は寝室になったり書斉になったり客間になったり，時に間貸し用の部屋につかわれる。テラス型はそうではない。

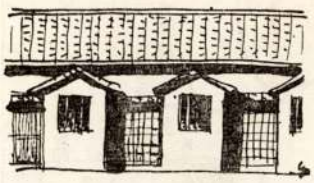
私は日本人の現在の生活様式と生活水準とでは，昼夜空間の完全分離という住み方には疑問をもっている。住宅公団の名古屋支所のテラスハウスの下階がタタミ敷になっているのは，イスザ式食卓が歓迎されないという点も関係していようが，こういう問題もからみあっていると思う。また多くのテラスハウスでのイタマの居間のつかい方の「型」をつくりかねている不安定さはそこからきていると思う。

私は今日のテラスハウスが，関西の長屋建住宅の豊富な発展の伝統をほとんど利用していないような気がする。これは非常にまづいことだし，関西の建築家の責任でもあるように思う。

5. 長屋建の生活環境

長屋の住人たちが，1戸建の住人たちよりはるかに隣同志近親な関係をもって生活していたことは当然である。とくに裏長屋となると，その通路は長屋の住人全体の共同の生活空間であり，社交場であり，「台所」である井戸端や「便所」，「入口」などへの通路をかねた「居

**** 「大阪府における昭和26—28年度着工民間貸家及び建売住宅実態調査報告書」S29.8 大阪府建築部



最近の建売長屋住宅の例。
デザインは簡単だが瓦の色，木部のペンキなどで美しくされている。

間」であった。

「夏の夕は格子戸の外に裸体で涼む自由があり，冬の夜は置炬燵に隣家の三味線を聞く面白さがある。新聞買わずとき世間の噂は金棒引の女房によって仔細に伝えられ，喘息持の隠居が咳嗽は頼まざるに夜通し泥棒の用心となる」（永井荷風・「日和下駄」）

隣の三味線がラジオにかわっても同じで，近所の夫婦喧嘩はもちろん，睦事さえも，耳をすませばきき得たろう，そういう互に知りあっている気安さがこの「居間」に安住する人々のよりどころであった。木造住宅が密集している京都の三条裏や神戸の番町で案外火事がおこらないのは，せまいところに人がウヨウヨいて火がでる前に人にみつかってしまうからだという話がある。日本の開放的な住宅構造は，ここでは宮殿造りや書院造りに内包されているものとはちがった庶民的な生活様式と生活感情をつくりあげていた。

都市への人口の集中と人口の流動化，職場と住居の分離による住居のねぐら化，隣人間の昼間の生活のつながりの喪失といったことは，古いゲマインシャフト的な結合関係をゆるめたばかりでなく，封建的なシキタリや統制をおしつけるそのようなすみ方自体もかえって批判されてき，多くの人々を隣人とのわづらわしい交渉からのがれたいと考えさせるようにした。

一方では裏長屋の伝統を土台にしてこれをさらに建築化し，低劣化したと思われる木造アパート形式が国民の住居水準低下の具体的なあらわれとして最近ふえてきているが，今日の集合的な住居形式の先端をいくとみられている公営・公団等の不燃アパートはこういう人々の要求によくこたえ，＜隣は何する人ぞ＞とすましておれる点で歓迎されるようになった。その反面，古い長屋建は「壁一重でとなりの話声がきこえる」プライヴァシイがないというような点で明らかに非難されてくる。

隣人にわづらわされずに住むということは，たしかに個人生活の確立という点からは必要な条件である。しかしそれが極端な形ですすむと，やがて居住者の居住地への無関心という方向へ流れていってしまいかねない。新らしい住宅団地が，新らしい共同施設の完備とそのたくみな運用管理によって，生命あるものとしてつくりだされていくはずなのに，共同施設の運営や，さらに大きくはいわゆる Bed town といった大都市周辺の住宅都市などの市行政が，住民の関心外のこととなってしまうという缺陥は随所にみられるようである。新らしいコミュニティの創造を目途しているものにとって，これは一つの問題である。むろん裏長屋的・庶民的な心安さと，「私生活の確立」をふまえたコミュニティでの人々の近親関係の育成ということとは直接につながってはいない。しかし現に生きている前者の生活を分析し，その遺産をうけつぐことは，新らしい住宅地の人々の正しいつながりを発展させていく上にかくことのできないみちであろう。

6. 都市的建築的生活様式の将来

関西の町家，その集約化した長屋住宅――これはきわめて建築化された都市をつくり出している。そしてそこにきわめて建築化された都市的生活様式がつくり出されているとみるべきであろう。それは将来の日本人の住居の創造にとって貴重な遺産である。

奥の間の前にある猫の額のような小さな前栽の向う側には裏塀と便所の下地窓，手水鉢がみられる。その小さな空間の中に植木をうえこみ，石を置き，緑と自然への郷愁を満足させた生活は，たしかに歪みをもっているといえようが，また都市生活の英知をひそめている。ル・ユルビュジェの屋上庭園などこれにくらべるとかなり粗雑なエスキーズである。

家々の前には広い庭があり，1日の勤労をおえて帰ってきたあるじは草花を手入れして余暇をすごす――こういう生活も一つのタイプである。しかしそれが窓台におかれた一鉢の植木，あるいは鳥籠になってしまう生活もある。そういう緑や自然との接触はたまの休日に郊外へのレクリェーションにだけとっておいて，日ごろはきわめて人工的な建築環境の中で快適にくらすという生活のタイプもある。その一つをすて一つをとるべしとも，一が理想像であり他が仮の像であるともいい得ない。

アパート群の配列に「隣棟間隔」の理論がある。私はこれをどんらんな，あるいは近視眼的な住宅経営者に対する防波堤とみとめることにやぶさかではない。しかしその硬直した「太陽神宗」的思考様式はやがてやぶられねばならないときがくると思う。

そういう意味で，都市的――集約的居住形式を新らしい技術的基礎の上に創造しょうとするとき，関西に開花した長屋住宅の中に展開されているくらし方の様々なディティールは，多くの示唆を私たちに与えてくれると思うのである。

（筆者　京都大学工学部助教授）

大阪近郊の農家

白木小三郎



大阪周辺地図

農家というといかにも旧態依然とした生活―住居の形式が考えられ勝だ。しかし風土的な相違はしばらくおいても，時代的な移り変り―農業経営の進歩の程度によつて種々な相違が生れてくる。とくに大阪近郊の場合は先進地域といわれているだけに他の米作地帯の農家に比べて非常に感じが違う。農家の間取を例にすると，他の地方と同じように四つ間取に土間のついた形式でも，大戸を入つてすぐの部屋を「上店」，「うまや」に相当する部分を「下店」と称しているところが多い。町屋風が感じられるとともに，米作農家のような畜力による耕作農家でなくなつていることを示している。一定の耕地を集約的に利用し，値段の高く売れるものを栽培する近代的な営農方法も昨日や今日のものではないことが感じられる。百姓というとただ米を作るものだという考え方とは違い，何時でも儲るようなものばかりを作り，商品化するという商人のような環境と気分が永い間に生活―住居の面ににじみ出してきたものなのであろう。これは，大阪という大消費都市のヒンターランドとしてだけではなく，大阪が封建時代をも通じて永い間，日本の商業活動の中心をなしていたことにもよる，売るための農業の発達の生活的な現われの一面である。

地域的に，大阪近郊の農家というと，まず昔の大阪三郷をとりかこんで，古来有名な蔬菜の栽培地帯をなしていた。天満の市場に出荷された蔬菜類は三郷に最も接近していた本田の村々や西成の中在家今在家今宮等八ケ村の畑場のものが主であつたようだ。また天王寺のかぶらや大根は市岡新田の西瓜などとともに，大阪の人々には懐しいものであつた。この蔬菜類の栽培地帯の外縁は京橋附近の旧大和川合流点を大体の境にして，北部は米の裏作として菜種の栽培が盛んであつたし，南部は棉作が盛んであつた。江戸中期の三島から北河内にかけては野崎参りの唄にもあるように「どこを向いても」一面の菜種畑であつた。また中河内，南河内から泉北泉南にかけては，各地の土産的木棉を圧倒して国内各地に出廻り，一部は明治頃までつづいた大規模な棉作地帯であつた。南北のこのような作物の違いはそのまま半湿田地帯と水不足の乾田地帯との相違を表わしていたともいえる。また宝永年間の大和川の付換により，それまでの河床は土砂が積つて天井川になつていたので，ほとんどが畑地にしかならなかつた。しかし年貢が低率の上に，作付の制限がきびしくなかつたので，砂地に適し，しかも儲かるようなものを自由に栽培することができた。ここも丁度棉作が土地柄に適していたし，交通などの地理的条件もよかつた。その上に平野郷などの棉商人がその大きな資力を開墾，その他の経済的援助にそそいだので，多肥作物であるにもかかわらず棉作が大いに促進された。その後，棉作は大和に拡まり，さらに瀬戸内沿岸地方にものびていき，次第に安い棉が大阪の問屋に入るようになると，大阪近郊の棉の作付も次第に少なくなつてきた。しかし泉南・泉北地方になると処々に織業地ができて，作られた棉が手工業，家内工業としてそのまま木綿に織られるようになつた。ただ問屋だけに依存していた棉作地域と違い，この地域は農村工業としての機織にも直接結び付いていたので，棉作の消長が少なかつたようだ。三島・北河内などで作られていた菜種からの絞油ははじめ三郷間で行われ，在地のものはきびしく制限されていたが，享保以来在々でも，絞油工業が行われ得るようになり，菜種作を一層安定させたのと似ている。耕作農民は儲かるような作物を栽培することによつて，大いに独立の気運をつかむとともに，地主層はその資力を利用した大規模な棉などの商品作物の売買と農産物の二次的生産によつて経済的な新しい立場を持つようになる。

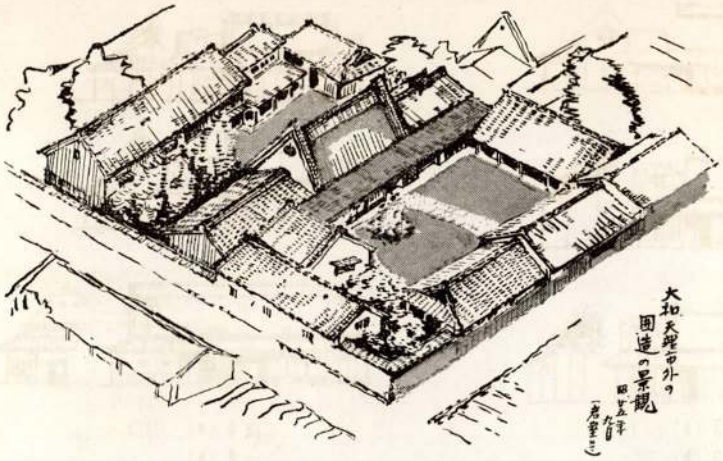


図1　大和の囲造の例

したがつて農家の経済は浮動のはげしい作物の，商品としての価格に左右されるので，自然と生活条件も商人的なものになつてきた。その上，綿織，絞油などの農村工業にも関連してくるので，これら農家では従来の，または他の米作地帯の農村におけるような，本家，分家という血縁的な従属関係も，地主小作のような地縁的な隷属関係も，次第に制約力の弱いものになる。大阪近郊農村の棉作は水不足と，入会の山林採草地を失うようになつたことから一層盛んになつたとされているが，このことはまた，村落共同体としての制約も意識をも薄くしてきた。大和には勿論，河内，和泉にも「垣内」が中世以来の村落共同体の単位として，時に濠をめぐらしたものさえあつた。しかし中世的な防禦上の必要がなくなつた上に，こうして村落の内部でも，その共同体としての意義を失つてきたので，垣内の意味が次第に忘れられて，濠をめぐらしたような聚落は大阪近郊には見られなくなつた。それとともに大和盆地や大阪の外縁山麓地区などにはまだ多少見られる**図1**のような「囲造」の屋敷構も大阪の近郊では，わずかに崩れた土塀の名残を時に見かける位になつてしまつた。

近世になると「鉱の土割り手づから畑うち，女は麻布を織り延べ，足引の大和機を立て……牛さえ持たずして角屋造りの浅ましく住みなし……」たような小百姓も，西鶴の日本永代蔵に出てくるように，時宜に適した作物によつて，次第に独立した。しかも，この小百姓が棉を作り，棉繰りの新しい方法を考えて，一躍，大きな棉商人になつたように，棉作を介して農民と商人の交流も相当活潑だつたようだ。棉だけではなく，大阪三郷で商工業が盛んになるにつれて，例えば新版歌祭文の久松の油屋におけるように，それら商家の丁稚として大阪に出される近郊農家の次男三男が多かつた。こうして商品作物の集約的な営農方法による従属農民の独立と，農業労働力の都市流入は，**図1**の囲造の長屋門，納屋などから，そこに居住していたような傍系家族，非血縁下人などを失つて，農家はほとんどが単一家族の自営体にならざるを得なかつた。生活条件のこのような変化によつて，大阪近郊農家は，他の米作地帯のように大規模でないのはもちろん，中世的な囲造の多棟式でもないが，一応平均した独立の家構を持つようになつた。**図2，3**のようにほとんどの農家は一様に釜屋を持つようになり，「くど」のない農家など，大阪近郊の農村には見られない。「くど」（釜）の持つ意味からすると，このことは，隷属的な名主と名子（被官）の関係，親方，子方の関係が消えて相当ながく経つた証拠とさえ考えられている。しかしこの近郊農家の形式には，大和あるいは河内，和泉，摂津など，大阪の外縁地域の農家形式に比べてみると，畿内農家の中世以来の変遷の過程を，少なからず止めていると思われる。すなわち，環濠はなくなつて，土塀はなくなつても，旧い垣内聚落には，左右に落棟を持つたいわゆる大和棟形式の母屋を中心にして，土蔵，納屋など多くの建物を持つた旧い構が処々に残つている。このような囲造に通ずる構を「クジ屋」といい伝えられていることからも，中世の名主―役屋につながるものと思われる。また**図4**のような屋根形式だけを指して「くじ屋」といつてるところもある。この「くじ屋」とは公事屋のことで，公事を負担し得るような家構のことである。中世における種々な貢租の内でも公事は，屋敷構―住居規模を基準にして割当てられたことからも明らかである。家構が公事などの負担の基準になつたのは，生産力の背景になる労働力（家族数）は屋敷―棟数―住居規模に端的に現われることによるのであろう。近世の初頭まで，このような名主層の屋敷には，血縁者は隠居または門屋，非血縁者は小屋または納屋の一部というように多くの家族を抱えていた。家父長の下に，建物は別で，一応別居の形式でも，いわゆる同財同釜の複合的な大家族構成であつた。**図1**のような構の右側の釜屋には，今でも「五つくど」「七つくど」といかにも大勢の炊事をしたと思われる大きなくどの残つている旧家がある。しかも農村において百姓株，宮座などが強い制約力を持つていた頃はこれらの従属的な家族はなかなか独立の機会をつかみ

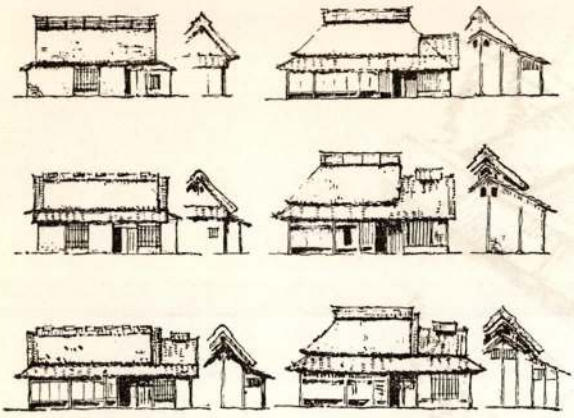


図2（a）　上より
図2（b）
図2（c）

図3（a）　上より
図3（b）
図3（c）

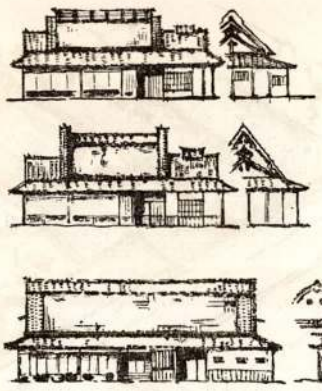


図4（a）　上より
図4（b）
図5

得なかつた。その後，太閤検地を契機にして，この従属小農民の本百姓化が促進されて，たとえ同一屋敷内におつても小作権は次第に確立され，いわゆる別居別釜にまで独立してくる。しかし別財となり，母屋（または主屋）に依存しないでやつていけるようになるには，商品作物の集約的な営農が本格化するのを待たなければならない。このような段階では，ようよう分家，または名子ぬけして，別釜を持つようになつたというだけだから，それまで住んでいた門屋または納屋に釜屋を付け下げした程度のものであつた。納屋作り（小屋作り）などといつて，梁間が1間から1間半で，棟方向に1間または2間だけの小さな住居の形式は，このような段階にできたものだろう。これらの小百姓も次第に本百姓に成長してくるのであるが，単一家族による自営百姓化，その他の新しい生活条件は，かつての名主層のような大きな構にまでは発展させなかつた。したがつて母屋の形式もその拡大の程度によつて「大和棟」にだんだん近い形式になつてはくるが，村役またはこれに準ずるような頭百姓層以外は，少なくとも封建社会において，落棟の座敷部分を持つようなことはなかつた。近世になつても辺境地域では夫役の負担基準を依然として間口7間以上を上役屋，6間以下を下役屋と住居規模においていたところもあつたようだ。しかし，大阪近郊農村では小百姓層の本百姓化は，他の地域に比して早く，かつ活潑であつたし，その条件も少なからず違つていたので，新しく貢租全体の基準になつた田畑一生産高への重点の移動も早かつた。本百姓を貢租の面からは高持百姓というようになつてきて，太閤の地検以来は役屋としてよりは高持として収取の対象にしたので，家構よりは持高がより大きな意味を持つてくる。このような段階で，新しく本百姓になつた農民は，その持高のみが問題であり，家構は二の次であつたから，農家としての形式も一定の類型にまで発展しないで，それぞれ，その拡大の段階に定着された。（図2，3，a～c）

大阪近郊の農家の形式には，このような段階に二つの系統がある。すなわち，一つは入母屋（寄棟）を原型とするもの，もう一つは，切妻を原型とするものである。（図2，a～c）（図3，a～c）この原型の差によつて農家の生活条件が同じような段階にあつても違つた形式になつている。大きく分けると，一つは山城，摂津などと関連する大阪北西郊と，紀州などと関連する大阪南郊の入母屋（あるいは寄棟）形式であり，もう一つの切妻形式は大和地方と関連するもので，大阪の東郊に多く見られる。この二つの原型に，まず右側に下屋を付け下げしたものから，それが前後の軒庇と連結した形式が別釜になつた直後のものであろう。つぎに落棟になつて，櫓煙出しの付いた釜屋ができてきて，別釜になつたことが住居形式にはつきり表われる。（図2，3—b，c）また，つぎに落棟の座敷部分もできて，いわゆる「大和棟」形式が完成するのであるが，この辺から高塀の妻が大棟にできてきて，防火的な実用もさることながら，いかにもその家の格を示すように見られる。少なくとも封建社会においては，頭百姓以上，村役層以外は持ち得なかつた家構の一側面を表わしていて，旧名主層の家格の表示につながつている。しかし，旧名主層の多くは，商品的作物の一般的な生産を背景にして，次第に地主的手作から離れ，在郷商人あるいは絞油，醸造など，農産物の第二次生産者に変つてくる。したがつて住居形式においても農家的なものが失われて町家的な性格を強くしてくる。（図5）この段階の住居には，規模の大きさもさることながら，昔の大阪の豪商を思わせるような質の高いものを持つているのに驚かされることがある。

大阪周辺には同じような距離に，早くも元禄頃までに多くの在郷町の成立を見たが，これは農民層の商品生産の結果，生れた在郷商人，あるいは農産物の第二次生産者を中心にして発展してきた。大阪近郊農家の変遷はこれら在郷町の町家の形成につながり，その特性は町家的な生活に関連する。（32.11.15）

（筆者　大阪市立大学助教授・家政学部住居学教室）

京都の施主・京都の手法

白石博三

私は学校の教師が本業で，設計の依頼を受けることは年に1～2回あるかなしかという有様であり，しかも京都に住むようになってから，まだ14年ほどにしかならないから，京都の施主について書くのは，いささかおこがましい気がする。また編集部から与えられた題目の後半分は，京都の建築の手法ということなのだが，それを京都の伝統的な建築手法を意味するのだと解釈させていただくことにしても，それについてとくに詳しいわけではない。ただ，私が今まで関係してきた施主の大部分は，先祖代々京都に生れ京都に住んでいる純京都人で，ある商社の社長さんは300年の系図を竣工式の際に披露されたし，ある施主の家には，その先祖が呉服商をしておられた頃，徳川幕府から受註した将軍家の衣裳，持物などの註文帳や，当時のお得意先の名簿と地図があったりする。また私の設計したのは，大部分が和風住宅か，さもなくば呉服関係の卸商などで，いわば伝統と縁の切れない種類の建物である。だから，京都の施主にも，京都の建築の手法にも，無縁ではない。しかしその縁がいささか頼りない縁でしかないのは，私の不徳，不勉強の致すところなのだが，御許しを願いたい。

京都の施主について感ずる根本的なことは，建築に対して実に慎重だということである。慎重さは，あらゆる面に及んでいる。平面計画も立面も，原案があっさり承認されたことは，今までのところ，ただひとりの施主についてだけだった。私の場合，施主はほとんど個人だから，住宅を建てるにしても商店を作るにしても，施主にとっては，その財産の内容を大きく変更することを意味し，従って真剣でもあり慎重でもあるのは当然のことである。しかも私は平凡な建築家で，建築の雑誌を華々しく賑したり，後世の歴史に残るような傑作を作れる見込はあまりないのだから，それよりも施主に満足を与え，しかも自分でも納得のできる建物を建てられたらよいと思っている。したがって施主が原案に対して，いくら註文をつけ直したり，変更を求めたりしても，あまり嫌な顔はしないで，何度でも直すことにしている。そうすると5～6回の変更は普通で，10回やり直したこともある。基本設計の間なら結構だが，中には構造計算も詳細図もできて確認申請もしてから，改めて2度やり直させられたこともあって，さすがにこれには参った。

聞くところによると，近頃は200分の1の平面図，立面図，断面図と主要部分の50分の1の詳細図とだけで着工することが，かなり行われているそうだが，うらやましいような話である。私の経験では，たいていの場合，着工前に詳細図を全部揃えなければ，施主が承知しないし，時には原寸の話が初めから出たりする。そのかわり設計期間は割にゆったりしている。あわてては良いものはできませんよといえば，施主は納得する。何しろ私の知人の漆器商は，受註後早くて5年，上物は10年たってから納入したりしていて，遂に廃業せねばならなくなってしまったが，そのような商売が，この間までともかくも成立していた土地なのだ。だから着工後も施主は細かに説明を求める。最近できたある茶道関係の建物では，図面をいくら描いても，現場で口頭でいくら説明しても，施主に承知して貰えないので，欄間には一々悪い板で現物どおりの形のものをはめてみせ，落掛の位置にはハリボテの落掛を入れて見せて，施主の承認を得て工事を進めていた。面倒といえば誠に面倒な話だが，それほど施主が慎重だということでもある。

その代り，施主は建築のことを随分よく知っている。とくに和風建築だったら，近頃の大学の建築科の新卒業生などは，京都の旧家の中年以上の奥さんの足元へは寄りつけない。感覚もなかなか良いのに驚く場合がしばしばある。人の移動の少い土地で，中流以上の人はたいてい自宅に住んでいるようだから，建物への愛情が深く，しかも茶道の盛んな土地で，自然によい建築感覚が普及しているからであろう。だから，こちらがうかうかして

いると，時にはやり込められて内心冷汗をかく。

勘定は細かく，見積書の内訳は詳細に書いてないと承知されない。一式いくらでは通らない。しかし他の都市に較べると，単価は割によいのではないかと思う。材料も施工も，他の都市よりは高いものを要求されているように思われる。京の着倒れと昔からいうが，住み倒れとまではいかないまでも，東京や大阪のような安普請は，一般に少いようである。あるいは構造的には安普請でも少くとも外見上は，一応品よく嫌らしくないといった方が正確かも知れない。私が以前から借りて住んでいる家は，初めから純然たる借家として建てられたもので，ほとんど米材でできているが，少くとも他の都市の借家と比較すれば，はるかに上品にできているように思う。それは施主の方にも大工の方にも伝統があって，それが恣意を防いでいるからであろう。伝統はまことに有難いという気がする。だから，普通の町家の建物はまだあまり形がくずれないでいるし，四条通や河原町通など市の中心部の商店で新しい洋風の店でも，主人がしっかりした京都人である場合は，東京のように小才が利いて斬新ではないが，嫌らしさは少いように思う。嫌らしく安っぽいのは，東京風を真似ている喫茶店やバーなどに多い。また東京で発行される建築雑誌を唯一の虎の巻とする若手建築家の設計した住宅，およびそれをさらに真似る建て売り大工の作った住宅などは，近頃だんだん増加しているが，バーなみで白昼見るに耐えない。

京都の施主は住宅を建てる場合，高級住宅を建てるのなら和風にする。上等のご馳走をするならば，日本料理で，洋食は安上りにすますためのものだと心得ており，洋装は実用品にすぎず，盛装するなら和服でなければならないように洋風建築は所詮安上りの実用品だという気持があるらしい。大工もはっきりそう思っている。和風建築なら一生懸命に鉋をかけるが，洋風だといくらやかましくいっても鉋に力がはいらぬらしい。

そして高級な和風の建物だと，建築家に設計を依頼するよりも大工に依頼する方がよいと施主は思っているらしい。予算があまりないから建築家に頼むのだという気である。つまり建築家は，よい建築を設計するために依頼されるよりも，安く建てる工夫をするために依頼されるのである。住宅，料亭，旅館，茶室などの場合は，たいていそうである。そしてしばしばそれが結果的にいって正しいのだから，残念ながら仕方がない。私より和風建築の表現に巧みな大工の棟梁は，過去に数多くいたし現在もいるように思う。また名声ある東京の建築家の設計よりも無名の京都の大工の建てた数寄屋の方がずっと上品な場合はかなりあるように思われる。私は近代の学校教育が伝統をあまりに軽視しているからだと思う。日本人でありながら日本建築を無視し過ぎているように思う。学校教育には，非日本化することが知識を広めるゆえんだという考えが根底にあるような気がする。こういうことをいったからとて，私を右翼扱いしないで頂きたい。私は，ただ，私たちは所詮どうしても日本人であるというにすぎず，またあまり日本を馬鹿にすると，やがて日本建築の勉強をするのに，ロスアンジェルスに留学せねばならぬようになりはしないかというだけのことなのだ。だから私は，アメリカ式日本趣味でなく，良い意味での保守的日本趣味をもっている京都の施主を支持したい。

同様な意味で，私は京都の職人のもっている伝統も支持する。彼らは，昔ながらの手法が一番よいので，新しい手法はたいていの場合簡便法だと思っていて，しばしば私たちを悩ます。新しい手法の意義を重々説いて聞かせても，容易に先入感を取り去ることができない。そんな気持でやるから，新手法はよく失敗する。だから京都では新しいことは，失敗承知の上でなければやり難い。伝統的手法でも，仕上げに巧みであっても，構造的にはあまり香しくない。小屋組には，京都の大工よりも丹波の大工の方がよく，京都の大工は造作だけに使う方がよいという人もある。その代り，上述したように京都の職人の感覚はなかなかよい。私たちの気持と違うことはあるが，彼らは彼らなりに良い感覚をもっているようである。大工もよいが，左官も瓦屋も，和風ならば多分どこよりも上手な職人が，まだ京都にはいるのではなかろうか。東京風にいなせなところなどはさっぱりなくて，いやにのんびりしていてじれったいが，お茶の心得などがあって風流を解している。ただし，図面はあまり読めない。図面の読める職人は，たいてい腕が悪いときていてうまく行かない。他人の引いた図面を見て，その通り作るように訓練されていないのだ。だから職人のなじみになって，こちらの気持を十分のみ込ませて，図面を見ずにやらせておいても，こちらの思う通りになるようにする根気がいる。結局，施主にそれぞれお出入の大工があって，それに委せておけば，施主の思う壺にはまっていた昔に較べて，私たち建築家がその間にはいって行こうとすれば，こちらもある程度その辺のところを念頭におかねばならぬように思う。こちらだけ一方的に，近代的に割り切って考えても，施主も職人もそうでない以上はひとり相撲になるのではなかろうか。

私も以前は，京都の保守的なところが嫌いで，東京式の新取の気風が好きだった。いまでも新しいことは大好きである。ただ何でも新しければよいとは思わなくなった。京都の施主の気持も職人の気持も肯定したい。建築界がこぞって新しがっているから，少しアマノジャクになりたくなった。但し以上申し述べたこと，むやみに本気にせずに御読み捨て願いたい。

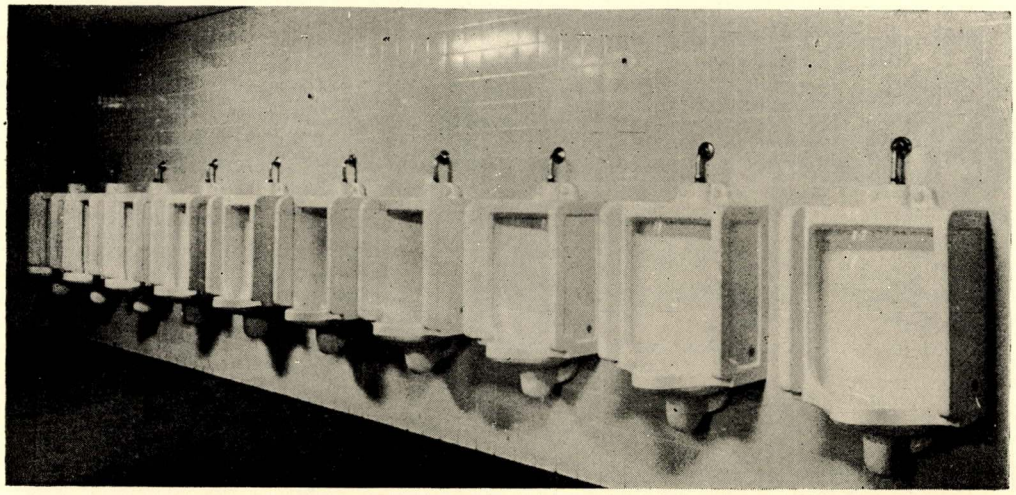
（筆者　京都工芸繊維大学助教授）

最高の品質・最大の生産を誇る！

伊奈の
タイル・衛生陶器

Inaseito 印 附属金具

伊奈の鳩印衛生陶器には Inaseito 印附属金具をセットで御利用下さいます様おすゝめ申上げます。



本誌で見たと御報知次第カタログ進呈

IS 伊奈製陶株式會社

本社及工場　愛知県常滑市扇面新田　電話常滑(代表)700
東京事務所　中央区西八丁堀2－8　電話築地㊺5261・5262

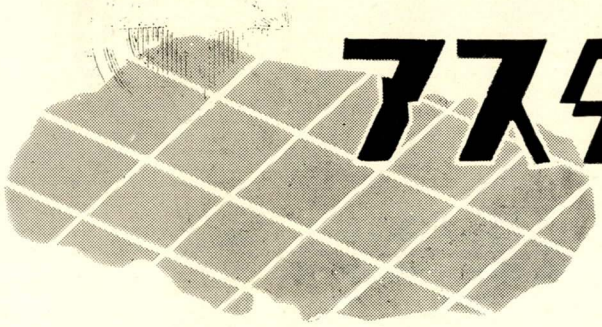
最も進歩した建築には最も進歩した床材

ビニアスタイル

(2粍厚)

アスタイル

を



藤森工業株式会社

本　　社　東京都中央区日本橋通1－2（大倉ビル3階）
専用電話　東京㉗（代表）6432－6435
大阪営業所　大阪市西区土佐堀通1丁目1番地（大同ビル709号室）
電話土佐堀㊹ 0225・7569・3527（直通）3131（ビル交換）

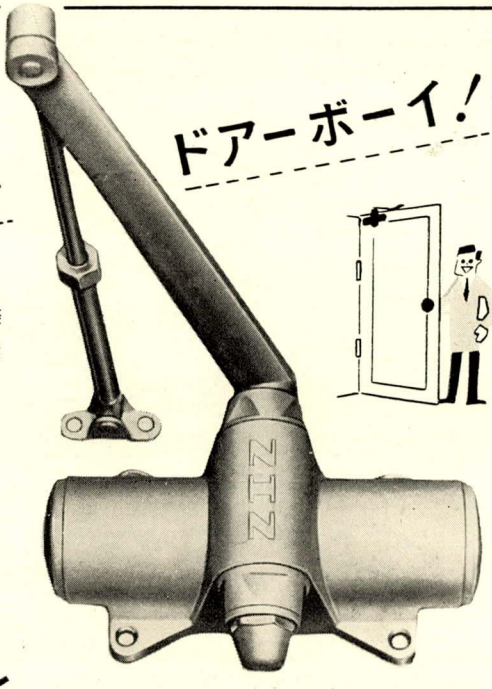
NHN

あなたの忠実な…

型状優美
故障絶無

日・米・英・独、各国特許

ニッカナ
ドアーチエック



ドアーボーイ!

日本金具製作所

製造元　ダイハツ工業株式會社

優秀機能ヲ誇ル

岩住式

シャッター

最新ノ機械設備

最高ノ設計ト技術

不撓ノ研究ト改良

ドアー・サッシュ・メタルラス　(JIS557)

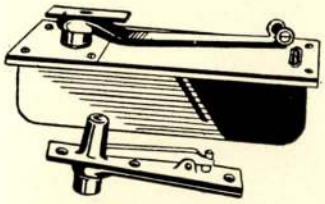
株式会社 岩住鐵工所

大阪市西淀川区千舟東二丁目三一番地

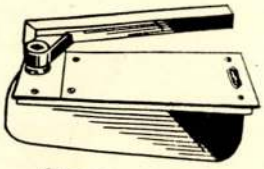
電話 淀川(47) 代表 4351. 4352. 4353. 0903. 0904

NEW★STAR

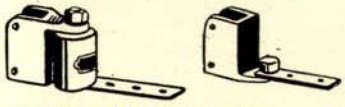
ドアーチエック



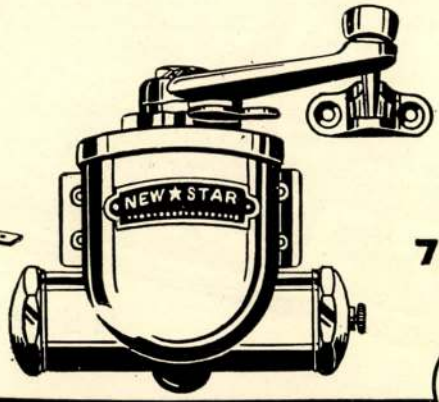
フロアーヒンヂ



フロアーヒンヂ



ラバトリーヒンヂ



輸出　好評

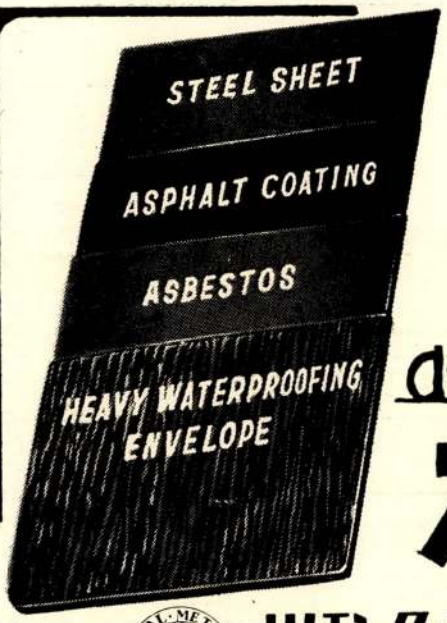
ニューヨーク・ロスアンゼルス・マニラ・台湾

日本ドアーチエック製造株式会社

取締役社長　出向井啓蔵

本社工場　布施市横沼町三丁目十一番地　電話 大阪 (72) 代表6666—9

東京支店　東京都千代田区神田錦町一丁目二十三　電話 東京 (29) 1920・4920



営業品目
特許　オリエンタルメタル製
屋根板・谷樋・軒樋・竪樋・呼樋
棟色・雨押類・ダクト並臭突類
特許　オリエンタル　スカイライト
特許　特殊屋根材「セラクタイト」
特許オリエンタル・アスファルトブロック

製造販売施設工計

asbestos protected metal

オリエンタル メタル

オリエンタルメタル製造株式会社

本社及工場	尼崎市長州字稲川新田44番地	電話	大阪㊽4947～4949
東京支店及工場	埼玉県北足立郡蕨町駅前	電話	川口5978　蕨252
九州支店及工場	福岡県八幡市東浜町16番地	電話	八幡723・2512
東北支店及工場	福島県郡山市外富久山町久保田142	電話	郡山267
名古屋営業所	名古屋市熱田区三本松町2の35	電話	名古屋⑧7674
延岡作業所	宮崎県延岡市北町45番地	電話	延岡3632
岩国作業所	山口県岩国市今津川口	電話	岩国776
宇部作業所	宇部市浜通り2丁目	電話	宇部511

ORIENTAL

三大製品

ポーライト（木毛板）
ネオユニオンボード（木毛石綿合成板）
アコニオン（防火浸孔の吸音板）

JIS許可工場

旭化工板製造株式会社

本社・工場　尼崎市下坂部久々地235番地
電話　尼崎㊽3082
大阪営業所　大阪市北区茶屋町38番地
電話　豊崎㊲1746・5068・8743

正 月 随 想

関西の建築歴史を語る

1. 初期の建築設計事務所について……松井貴太郎
2. 通天閣建設の頃……白杉嘉明三
3. 建築協会創立の頃……今林彦太郎
4. 創立の頃——第1回編集の思い出……佐藤　四郎
5. 大正時代の中の島・北浜界隈……竹腰　健造
6. 堂ビル建設の頃……鷲尾　九郎
7. 慶澤園と大阪市美術館……波江　悌夫
8. 伊藤邸——現近畿建築会館思い出話……大倉　三郎
9. 橋梁意匠十五年……元良　勲
10. 大阪府庁舎懸賞設計と堺市庁舎建設……加藤　善吉
11. インターナショナル建築運動……中西　六郎
12. 大阪城と黒田屏風……波江　悌夫
13. 大阪中央卸売市場建設の思い出……藤阪捨治郎
14. ブルーノ・タウト来日の思い出……上野伊三郎

初期の建築設計事務所について

松井貴太郎

上記の標題で何か書けというご注文で，設計事務所がボツボツできだした当時の模様を，おぼろげな記憶をたどって書いてみる。

僕が学校を出たのが明治39年で，考えてみるともう50年になる。われながらその間に何をしたかと考えると，誠に面目次第もない話だ。僕は学校を出ると，すぐ横河先生の経営する横河工務所にはいった。工務所は明治36年4月に開いたので，多分設計事務所の最初のものではないかと思う。辰野先生が辰野葛西事務所を始めたのが，ほとんど同時かあるいは少し後ではないかと思う。とにかく建築設計事務所が日本で開始されたのが，明治36年頃と考えて間違ないと思う。東京ではその後曽根中条事務所，遠藤於菟，真水，三橋などの事務所ができたが，やや遅れていたと思う。

当時大会社または官庁では，それぞれ建築部をもっていた。自然大きな仕事はそれらの設計部で処理されて，民間の仕事としては目立つほどのものがなかった。しかしその態勢は徐々に変化して，だんだんと建築部を解消し民間事務所に頼む気運になり，設計事務所がこの時代に勃興したのだと思う。

横河工務所は，36年開始の際に大熊喜邦，つぎには中村伝治，それから葛野，僕，笠原，大塚と毎年1人づつ大学出がはいった。当時としては一番陣容が整っていたのではないかと思う。それでも初の頃は所員の数も10人ぐらいで，僕のはいった時で20人ぐらいだったと思う。いまからみると甚だ貧弱なものだった。その当時の建築の学校といえば，東京大学と築地の工手学校だけで，いまから考えるとこれもうそのような話だ。

僕はまもなく大阪へ転勤した。当時大阪では，設計事務所が大分あった。むしろ東京より多かったかも知れない。神戸に河合浩蔵さん，大阪に河合幾次さん，それから工場を専門にやっていた茂庄五郎さん，これは横河工務所よりも古かったかもしれない。辰野さんの大阪事務所は片岡さんと共同で初められ，時期は東京と同じではないかと思う。そのほかには住友に野口，日高両氏，藤田には宗さんがおられ，翁会というのをやっていたが，なるほど老人ばかりだと驚いていた。その内に福田，長谷部が住友に，永瀬が片岡に，45年位には請負会社の大林組に，大林賢四郎，木子，石田の諸君が一度に来られて，だいぶ翁会も若やいできた。ここで当時の請負会社のことを述べると，請負というとなんだか陳きがあればゴマカシをやるように思われていたので，われわれの時代には学校を出ても就職するものがなかった。それが4，5年のうちにだんだんと向上して，会社もしっかりしたものになり，前記の諸氏も入社するようになって，社会的位置も信用もでき，現時の建設会社の基盤ができたので，諸氏などはそれに対して，大いに寄与するところがあったものと思う。

さて当時はどういう仕事をしていたかというと，他の事務所は知らないが，工務所では所主の横河が三井に関係があり，三井は慶応出身が多いので，そういう関係の仕事があった。まづ大熊君は最初に帝国劇場をやっていたが，そのうち退職されたので後は葛野君が引きついでいた。三越は初めから中村君が担当していた。最近まで中村君は三越各店の設計に関与している。この間50年になる。

これは余談になるが，一つの会社の設計監理をこのように永久継続してやっているのも，珍らしいことと思う。僕は初めに三井物産門司支店（これはその後改造され現存のものではない）鐘紡の工場その他の施設これまた戦争前まで同社のほとんどの工場に関与していた。それから少し遅れて三井銀行西支店，東京の銀行倶楽部，工業倶楽部など僕の初期の製作である。これらの建物はデテイルから，現寸まで殆んど総ての設計を一人でやったといっていいと思う。

別に現寸まで自分でやらなければならぬと考えたわけではないが，その当時幸いに全部自分でやることができた。その代りこれらの建物の設計に関しては，善いも悪いも全部自分が責任を負わなければならぬ。後からできたものをみるとたいていまずい処が多く，いやになってしまうが仕方がない。自分の才能が足らなかったを悔むより外ない。それから製図その他の方法だが，いまと別に変りはないが，いまのように鉛筆仕上で写真をとることができず一々トレースしたので，トレーサーがかなりの人数を要し，それをチエツクする手数に閉口した。青写真もいまのように人造光線ではなく，太陽光線で晴天でなければとれなかった。

以上甚だくだらない昔話で要領を得ず申訳ない次第だが，当時の設計事務所なり，建築家のようすが少しでも皆さんにお分り願ったら幸甚に存じます。

（筆者　横河工務所長）

通天閣建設の頃

白杉嘉明三

通天閣は，明治43年に，大阪土地建物会社が今でいうアミューズメント・センターとして企画建設した「新世界」の中心であり，文字どおり大きな表看板となるエッフェル式鉄塔で高さ180尺，エレベーターで上る展望台を備え，ルナパークの白塔まで観客を架空索道によつて運ぶ仕組であつた。亡くなられた設楽貞雄さんの設計，大林組の施工である。でき上つたときは全大阪人の目を見張らせた。後年戦時中の金属回収で解体撤去せられるまで永い間大阪名物の一つとせられていたことは御承知のとおりである。

この大阪土地建物会社というのはその以前明治36年，今の天王寺公園から新世界にかけての4万数千坪の広大な土地を会場として開かれた第5回内国勧業博覧会跡の一部を大阪市から払下げを受け，これを利用開発することを目的に当時大阪の財界で人に知られ，大阪電燈会社社長，大阪株式取引所常任理事その他を勤められた宮崎敬介氏を社長とし，武内作平氏や大林組の初代社長も参加して設立された会社である。

五十歳以上の方は御記憶のことと思うが，新世界というのはルナパークというコニーアイランド風の遊園を中心に，劇場，映画館，寄席，遊戯場などを建て連ね，さらにその外側に，商店，旅館，温泉などを集めた歓楽場で，明治44年の9月に着工，翌45年の5月末に竣工したという随分急な工事であつた。

掲載の工事中の写真は大林組の所蔵で稀覯と思われるがこれによつて当時の様子を御想像願いたい。工費も当時の金で70万円を超え，今から考えても随分思い切つた構想ということができようが，この企画は大当りで一躍人気に投じてたちまち大阪屈指の大衆的な盛り場となり会社の株価も暴騰し一時市場の花形となつたほどであつた。

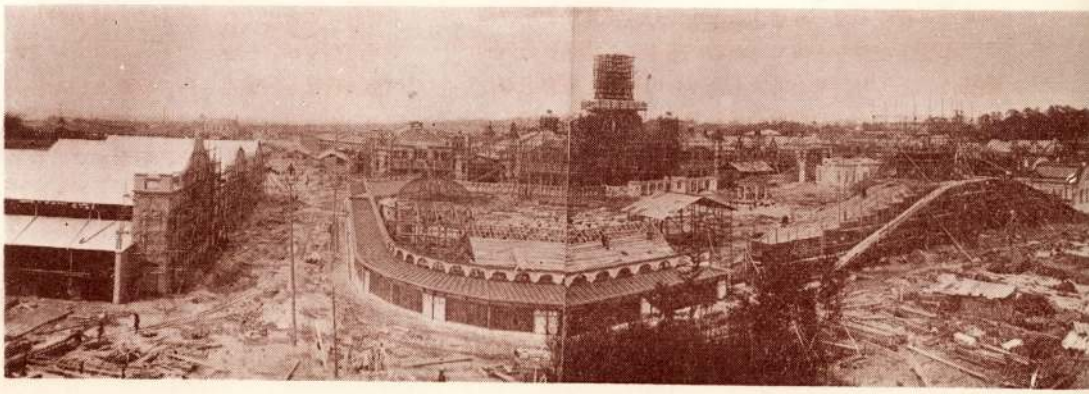
余談になるが，何しろこういう派手な事業のことであつたから，落成式を思い切つて大がかりに賑やかにやろうということになつていたが畏多くも明治天皇陛下の御大患，延いて御崩御のことがあつてこの計画はとりやめになつたことであつた。

通天閣といえば思い出すのであるが，天王寺のこの敷地は大林組にとつて忘れることのできない深い縁がある。前にも申したとおり第5回内国勧業博覧会は大林組の基盤を確立した工事であり，続いて37年の7月から10月にかけてその敷地跡に僅々3カ月で病棟120棟，附属家160棟を突貫で仕上げ世人を驚かせた陸軍予備病院工事。それからこの新世界工事という次第で，大林組の歴史で貴重な一頁を占めているのである。

茶臼山の一部を切り崩して博覧会の建物や各府県の物産館などを建設した当時のことや，陸軍予備病院の激しい突貫工事のことは今も私の記憶にアリアリと残つている。新世界はもう随分久しく訪れる機会を持たぬ。激しい変り方らしいが，もう50年近い年月が経つている。

（筆者　KK大林組相談役）

工事当時の通天閣（西南側より）



建築協会創立の頃

今林彦太郎

協会の創立は大正6年3月で，40年の昔であり，当時の記憶も年とともに薄らぎ，確とした思い出を述べ得る自信も実はないのです。協会雑誌の創刊当時のものでも見れば幾分の記憶を呼び起せるかとも考えぬではないが，古い雑誌も手元になし，幸に昭和28年12月号に創立35年記念史という特別号が見付かり，当時の記念座談会の模様が載つているが，それよりもさらに20年前の昭和7年6月に創立当時の懐旧座談会を催した記録があり，その際の出席者12名は大方はすでに世を去られ残つているのは僅か2名，その内の1人が不肖私であるのは当時若輩で新しく席末を汚していたためです。衆望を担つて創設の難事業を達成されたのは，今は亡きそれら諸先輩であり，今日会運の隆盛を見てこれら先賢に対して追慕と感謝を新たにする次第です。

当時は，第一次大戦のさなかで青島戦はすでに終り，米国参戦の直前のこととて，戦後の好況期にはまだ到らず，建築界も沈滞の時期だつたと思う。東京駅，大阪の中央公会堂などの工事中であつた頃で，鉄骨，鉄筋構造もようやく煉瓦造の補強とか屋根，床などの部分構造として採用された過渡期の状態で，構造全体が鉄骨，鉄筋に変つたのは協会創立頃以降であつた。大戦の影響はやがて経済界におよび，まず海運界をはじめて諸工業が漸次繁栄を呈し，遠からず大正8年以降の好況を迎える曙光がみえた時代であり，建築界もまさに画期的隆盛期に入る寸前であつた。したがつて大規模の永久建築がなんらの拘束もなく，各都市に野放しで乱立するばかりでなく，急速な都市人口の膨張にともなつて無統制に住宅などが建設される懸念があり，早急になんらかの規制を要するのは識者を待たずして明らかであつた。

その頃の京阪神在住の建築家は，協会の創立総会出席人員をみても分るとおり誠に小数で，これらが分立して小集団を作つていたので，われわれもオキナ会，建坊会，大正会などの集りを持ち，週1回位定期的に集合して先輩諸氏の高説を聴くといつた状態で，まず各自の親睦を計る程度のもの。要するに小党分立，各所に小グループが勝手な熱を上げていたのに過ぎず，建築界の内的関係はもとより，社会的にもなんらの権威も影響力もないのは当然です。片岡前会長をはじめ，諸先輩もかかる情勢に処するには速やかに建築家の綜合団体の有力なるものを結成して，対社会運動，建築思想の啓蒙普及などを実行に移すの要ありとして，まず京阪神を中心とする関西一円の建築家を動員すべしとあつて，大正6年2月会結成の準備会（出席39名）を開き，席上創立委員（片岡，武田，波江，池田，設楽）を選任，越えて同年3月創立総会（出席30余名）を開催，関西建築協会として生れ出た次第です。

当初の会員は100名以内，事務所も今橋の片岡事務所内に居候，波江，山本両氏が主として，勤務の片手間で会務を執つて下さつたと思う。雑誌は「関西建築協会雑誌」の名で編集は波江氏を中心に，佐藤，須藤両君の尽力で大正7年春頃に創刊，さらに小谷，岡部両君が応援しようやく毎月発行するなど，ここに最小限度の陣容が整つたわけです。創立当時百名足らずの会員も大正10年には500～600名に達し，事務所も京町堀の不動貯蓄ビル内に移転，事務も専任の江村，西谷両君を迎え45名の世帯となりまず一本立の姿ができ上つたのです。

大正8年会名を日本建築協会と改め，雑誌も「建築と社会」と改称，会員の増加につれて関西在住者のみに限れなくなつたこと，また会勢の伸展の上からもさらに広く会員を獲得すること，関西と銘を打つことがいかにも一地方に局限された感じであるなどが会名の変つた理由であり，雑誌の改称も創立以来の大方針である広く一般への建築思想の普及，啓蒙などまた高蹈独善をさけて社会と融合すべきであるとの主旨を表現したものと思う。

都市計画法，市街地建築物法の両法は大正8年春に発布されたが，これに先だちその制定に関する建議陳情を建築学会などと協同で行い促進運動を具体化しました。対外運動の第一歩だつたと記憶します。やがては実施さるべき法令であつたとはいえ，協会などの運動がその時期を早めたことは疑い得ない事実であり，協会としても創立以来の重要案件が達成されたのは誠に記念すべき事蹟だと思う。

博覧会はすでに数回開催されたが，桜ケ丘住宅博覧会は前後を通じてもつとも意義のあつた催しだ。大正11年9月あたかも第一次大戦後産業経済の飛躍的発展を呈した頃で，出品住宅30余戸，純洋風，和洋折衷など中には蒸気暖房まで備えたものもあり，1戸当り最高1万2，3千円位のものもあつたと思う。この種の企てはわが国でも未曽有のことで，住宅建築の啓蒙運動としても，協会の宣伝としても大なる成功であつた。建築も設備も当時の模範として恥かしからぬ充実した内容のものであつた。

当時を回想するといろいろと思い出もありますが，この辺で御免を蒙むることとします。一体この話は創立委員5名中の唯一の在世者波江先輩に願うのが最もふさわしいのですが，編集からの命もあり私が代つて執筆しました。

（筆者　大阪ガスKK嘱託）

創立の頃の話

——第1回編集の思い出——

佐藤四郎



創刊号表紙

私が家族をつれて初めて大阪の土を踏んだのは大正6年2月24日の朝であったが，東天下茶屋の松虫塚に適当な家を見つけてそこに引き移ったのが26日のことであった。あくる27日はじめて正式に事務所に出勤した。私は横浜市役所から大阪の我野村建築事務所に籍を移したのだが，その頃の我野村建築事務所というのは渡辺橋の北詰を西にはいったところで赤煉瓦造3階建の2階の川に面したとても感じのよい室であった。与えられた製図板に向ってちょっと煙草を喫っていると，片岡事務所の波江悌夫君がたづねてくれた。今夜片岡さんの招待で堂島の魚岩という料理店に大阪の建築家が大勢集るから君も出るといいのだ。2階の大広間に30人あまりの人が並んでいた。酒もうまいし，料理もうまいし，わけて芸妓がきれいなので，さすがに大阪は凄いなと感服する。このとき東京に建築学会のあるように大阪にも何か建築家の団体がほしい，建築学会はあまり学術的に偏しているから，こちらはもっと社会的な建築の面を開拓していこうぢゃないかという説が出て満場の喝采を博した。

それからこの話が各方面でいろいろと研究され，3月30日の夜中之島の大阪ホテルで関西建築協会の創立に関する議案を討議した。このときは魚岩のときよりもさらに大勢な位で京大の武田さんや住友の日高さんなども見えたのである。

4月10日の夜，堂島の電気倶楽部で関西建築協会第1回例会を開いた。それから毎月13日ごろにこの電気倶楽部で例会を開いたのである。このごろはまだ建築協会の頭に関西という文字をいただいていた。

この前後に，毎週水曜日の夕方から道頓堀のあまりはやらない珈琲店で水曜会というのがあった。10時すぎまで関西建築協会のあらゆる面について忌憚ない意見をたたかわしたもので，あるときなどは婦人の建築家が将来出現して入会を申込んできたときにそれを会員に認めるかどうか，ということで一晩中大議論をして結局まとまった結論を得られなかったこともある。水曜会に集った人々は池田実，葛野壮一郎，大林賢四郎，石田信夫，安井武雄，波江悌夫木子七郎，浜野三郎，今林彦太郎などの諸君でそれと私と位でいつも4，5人の顔は見えていた。

7月13日の電気倶楽部における例会で雑誌発刊のことが議決され，たまたま私がかって東大の木葉会雑誌を編輯しておったことから，波江君が編輯委員に私が編輯補佐というようなことに任命された。19日片岡事務所で第1回の編輯会議を開き，片岡さんの紹介でその日の中に内淡路町の大阪活版所にゆき雑誌印刷のことにつきいろいろ交渉したが，要領を得ないで帰える。23日片岡事務所で役員会だ。片岡，波江，池田，葛野，武田の諸先生と私とで，雑誌の表紙の図案は武田先生にお願いすることにきめる。24日大阪活版所に原稿用紙の印刷をたのむ，25日電気倶楽部で臨時例会を開いたが，天神祭なので8時になっても人が集らない定員に足らぬというので協議会とし専ら雑誌発刊のことについて協議することにした。

8月1日，南農人町の関西印刷所にゆき，岡本氏に面会して雑誌のことを相談したが，ここも要領を得ない，6日市田オフセットにゆき，長谷川氏に面会し表紙の印刷のことで意見をきき，そのかえりに谷田活版所に立寄る，ここも駄目だ。どこの印刷屋でも新らしい良い活字を充分に持っていないので，高級な雑誌の印刷は責任をもって引受けることができないというのである。大阪の文化面というものは他の生活面に対してずい分ひどくおくれているものだと嘆かわしくなる。8日に原稿用紙ができてきたが成績よろしからず。9日須藤まがね君と三有社という印刷屋へゆく。ここでポイント活字の新らしいのが沢山あるというので雑誌印刷のことが漸く軌道にのる。10日片岡さんの紹介で工業の日本編輯主任の江村君というのが訪ねてくれる。この人から大阪の印刷屋のことでいろいろ注意すべき有益な話をきく。11日片岡事務所で役員会あり，雑誌に関するいままでの経過を報告する。13日電気倶楽部にて関西建築協会の例会あり，武田さんから表紙の図案をうけとる。すばらしいでき栄えでとてもうれしく思う。3色版は東京の田中にたのむこととする。

このようにして原稿整理のことは波江君と江村君とにお願いし，校正その他の印刷所直接のことに私があたり，大正6年9月に，あの気品のある高雅な関西建築協会雑誌第1号がこの世に生れたのである。現在の「建築と社会」の前身である。

（筆者　佐藤四郎建築事務所長）

大正時代の中の島・北浜界隈

竹腰健造

明治，大正時代の演劇界を風靡していた市川団十郎，尾上菊五郎の名を知っている人は多かろうが，同時代に始めて孤々の声を挙げた新派劇の俳優川上音二郎，同貞奴の名は斯界に興味をもつ一部の人を除いては，今日ではもう知る人も少なかろう。とくに歌舞伎の盛んな大阪では，彼等の名前が忘れられるのも当然かもしれない。しかし，川上音二郎，貞奴といえば，明治，大正の頃は知らぬ者はなかったぐらい，演劇界では有名であった。彼等は名優であったばかりでなく，政界の大者に知己を得，歌舞伎俳優と違って学問もあり，当時の言葉でいえば洋行もしたというインテリであった。

その川上音二郎が建てた劇場の帝国座，しかも日本最初の洋風劇場が北浜に建築せられ，外郭だけではあるが，今日も厳然と残っているといったら不審に思う人が多いだろう。住友ビルの東側の空地に面し，巴里のオペラハウスを模したように正面1階にアーチが並び，上層に石のピラスターが立ち，側面の壁が赤煉瓦でできている建物が残っている。それが昔の帝国座であって，いまはカトリック・センターとなっている。

大正3年3月，大林組の設計施工で完成し，杮落しをした時は華々しいもので，附近は見物人や，車で通行も困難であったといわれていた。

こうして一時は盛大であった新派俳優の本拠も，数年ならずして歌舞伎に押されて，立行かなくなり，建物も処分せねばならなくなってきた。そして法外な安値で住友に引受けて貰ったと聞かされた。

その帝国座の赤煉瓦の建物に接し，東側に木造2階建の芝居茶屋が建っていた。ここがその頃，私たち住友総本店臨時建築課員の室になっていたのである。

大正6年，数年に亘る外国生活から帰国して，住友に奉職するようになった私は，この芝居茶屋の2階から私の建築家としての実社会生活を初めたのである。

当時住友の建築には，野口孫市先生の伝をうけて，日高胖先生が建築の技術部面を率いておられたが，課長は大阪市の助役から転じてこられた村上庸吉さんであった。

日高さんは東京の日本橋に立つ住友銀行東京支店の建築のために東京に常駐せられ，製図面は村井三吾先輩の許に，長谷部さんと私とが南側の日当りのよい隅に陣取っていた。課員は30人位いたであろうか。当時の建築家の卵たちは，今日と違い腕白でもあり，また俠気もあった。昼食の時などは，隣りの鶴屋の料理場から流れ込んでくる蒲焼の芳香を臭ぎながら，課長の村上さんを愚論で悩ましたものだった。

その村上さんも，日高さんも，また課員の大部分も，いまは亡いが，それでも，大阪建築事務所の池田宮彦君や作間日出生君などはまだ元気で仂いている。

その頃，内北浜で目立つ建物といったら，この帝国座の南にある大阪クラブと，帝国座の筋向うにある住友総本店の建物位なものであった。いづれも木造の2階建であったが。中でも大阪クラブは，住友の建築の最初の技術家だった野口孫市博士の設計によるもので，ハーフチンバーの実に瀟洒な建物であった。当時の大阪クラブは大阪財界の名士で作られたもので，その会員たることは大阪人の誇であると聞かされ，私はその一室で，住友入社の面接をうけ，胸を躍らせたものである。

住友総本店の建物も仮総本店といっていたけれど，相当に立派な洋風の木造建であって，この頃ようやく後の大住友財閥に育ち上っていこうとする基礎ができかけ，興隆の躍動が始めかかっていた時で，総理事鈴木馬左也さんがこの中に頑張っており，事業は人よりとのモットーの許に天下の俊秀を集めようと努力しておられた時であった。

その頃は今日の御堂筋という幅員が広く，立派な銀杏の並木で外人を驚かすような，素晴しい道路はできていず，まだ淀屋橋筋という幅員3間の狭苦しい商店街に過ぎなかった。当時の北浜では，これらの建物と日本生命の旧館（その一部は今日も残っている）とが，目星しい建築物というぐらい貧弱な姿であった。

その頃の大阪の主要道路といえば堺筋で，それに次ぐものは四ツ橋線といわれていた今日の南北線であった。したがって建築物も小さな木造の商店ではあったが，堺筋がもっとも多く立ち並び，その中にあって三越が大正4年から7年にかけて鉄骨の高層建築を始め，一際目立っていたものである。高層の洋風建築は大阪では三越が最初だといってもよいだろう。

中の島に入るとここの建築は商売の中心である北浜界隈よりは，少しは立派なものがあった。それは府立の図書館と日本銀行である。

日本銀行は今日の人の目にも，何となく地に潜り込んだような感じであるが，この建築のもともとの設計は，もう3尺地上に高く出ていたものであるが，施工の際測量の誤りで，低くなったのだそうだ。それは基礎面であるか，地盤面であるか，その何れかの測定を誤って，建物の壁体が地上迄積上った時に初めて過誤を発見したが，予算とか，請負とか，いろんな事情のためにその是正が許されず，3尺沈んだまま施工されていたと伝えられている。それがため設計監督の責任者である長野宇平治さんが，日本銀行に始末書を出したという噂もある。

図書館の方は住友が建てて，大阪府に寄附したものである。当時は大阪中でもっとも立派な建物とせられ，土佐堀川と堂島川に挟まれて対岸からは，水面に影を落した白亜の偉容がことさらに美しく眺められ，水都に相応しいよい設計の建築と思われていた。市庁の建物が前に出来，後には公会堂が建ったのであまり目立たないが，今日でも大阪の都市を飾るもっともよい建物の一つであろう。

東の堺筋に対して，西は今日の南北線が発達していた。それにしてもこの線の目星しい建物は中の島に限られ，東側に郵便局，西側に瓦斯会社，ともに煉瓦造りの2階建があるに過ぎなかった。

以上が大正中期の中の島界隈の主要な建物であったが，道路といえば舗装されたものは一つもなく，雨でも降れば泥濘や，水溜りで，靴カバーが流行した時代で三越などデパートは下足番がいて履物はぬいだものである。

道路もさることながら橋はさらにひどかった。水の都八百八橋といっても全部木造で，難波橋も，高麗橋も狭い木橋で，重い荷車などが通るとガタガタと橋板の音がしたものである。

市街地建築物法が議に上ったのはこの頃である。その案文がわれわれに示されたのを読んだとき，その難解の文句に悩まされた。その中でも，もっとも解釈に苦しんだのは，施工令第7条である。何とか，もう少し分りやすい表現のしかたがありそうなものと苦情をいったら，法制局の人は，法文作製の技術からいうと，はなはだ勝れたもので，当事者としてはもっとも得意とする処だと聞かされて唖然としたものである。

この法律が大正8年に実施せられた頃から大阪の建築も本格的な耐火耐震の建築になってきて，各所に続々と高層建築が建てられて，今日に及んでいる。

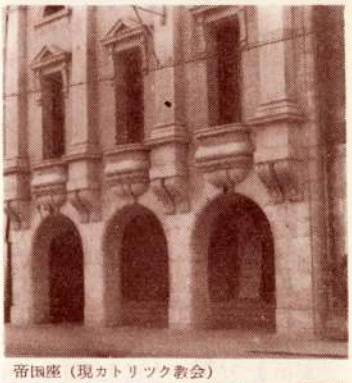
この法律で建物の最高は100尺と定められた。その最初にできたものが堂ビルであろう。竣工は大正12年7月であった。しかし大正の末期に法定限度の高さ100尺を越した建物が一つできた。それは朝日ビルである。これは新聞の力でできたものだが，当時の大阪府の建築課長の津田さんは，それがため譴責の処分に会い，知事は内務大臣から始末書をとられる始末であった。津田さんはその後府をやめ，久しく不遇であったが遂に若くして世を去られた。実に良い人だったがいまは悲しい思い出になる。

その頃からもう三十幾星霜，関東の大震災，第二次世界戦争による爆撃，と幾つかの試練も経てきたが，戦後の復興とともにここ2，3年は曽てない建築ブームに会い御堂筋から北浜中の島にかけて見事な高層建築が立並んできた。市街の様相の進歩をみると感慨無量なるものがある。

（筆者　双星社竹腰建築事務所長　本会会長）



旧大阪倶楽部



帝国座（現カトリック教会）



大阪府立図書館



日本銀行大阪支店



もとの大阪中央郵便局

堂ビル建設の頃

鷲尾九郎

上へ上へと伸びたがる建築の高さを100尺と押さえた「市街地建築物法」の施行後に竣工した建物で，その高さの限度を超えているものが，私などが関係しただけでも大阪と神戸に一つづつあつた。その一つの神戸の明海ビルのごときは最初はたしか14階建で計画が進められていたから，これが実現していたら55mくらいになつたであろう。8階建に変更したがそれでも限度を少し超えることになつた。他の一つは大阪の北浜野村ビルで，これも8階建で高さが超過した。ともに大正10年の竣工。

堂ビルはこの過渡期にまたがつての計画で，建築届は法の施行前で，着工が施工後という関係だつたと思う。あの船大工町の土地の買い取りが始まつたのが大正8年頃で，橋本汽船の社長橋本喜造氏が，そろそろ脚光を浴び出してきた貸事務所建築の計画に乗り出されたのがその発端である。

貸事務所建築ではなんといつても米国を手本にせねばならないというので，基本計画を在米の妻沼建築事務所に相談することになつて，竹中からは島本四郎を渡米させて計画を進め，平面図の青写真が届いたのが9年の秋である。ところが，その頃には，御堂筋の拡張が決定して堂ビルの計画もその前面を20mほど切り取られることになつた。換地も与えられずに切られっぱなしである。こんな事情から設計は妻沼氏の手を離れて，設計顧問に京大の武田五一先生を煩して私が担当することになつた。武田先生が名古屋高工の校長から，新設の京大建築学科の主任教授として第一講座（意匠）を担任されることになつた直後である。

杭杭2,200本を打ち込んで地下1階，地上9階，延面積約5,900坪，鉄筋量1,200屯，延工数128,000人，工期20ケ月という概数で竣工したのが大正12年7月であつた。この年の2月には東京で丸ビルが竣工した。

ビル建設は大正7年頃から本格的になつたようで，これは，第一次大戦後の影響も大きく，建築技術ではようやく鉄筋コンクリート構造が普及してきた結果であろう。その上に米国の建築業者が目の前で工事をやつて見せるようになつたことの刺戟も大きなものであつた。この間に市街地建築物法が都市計画法と同時に公布されて，ビル建築にも一応の限度が定められる見通しとなつたが，施行令，施行規則，施行細則が決定して実施されるまでに1年半以上を要した。構造上の技術が今日ほどに発達していたとしたら，あるいは経済力がそれに伴つていたとしたら，この1年半の間に限度を超える建築がもつと多く建つていたであろう。今日から考えると惜しいような気がしないでもない。

そこへやつてきたのが，あの関東の大震火災であつた。ビル建設もここで足踏みをすることになつた。その影響はもちろん東京が中心であるが，大阪でもその波及をのがれることはなかつた。

市街地建築物法がでた当座は，構造に地震を考慮するような条項がなかつたと思う。それが施行後に取り上げられて水平震度1/10以上となつたのが何年頃かは今記憶にないが，少くも上記の明海ビルや北浜野村ビルはもちろん，堂ビル時代でも法規上は耐震計算を要求されていなかつた。

堂ビルの頃，設計上で不自由だつたのは屋上突出物の制限であつた。個々の塔屋は，巾も奥行も高さも20尺までしかできないことになつていた。このために堂ビルが竣工検査を受けて使用許可を得ようとするとき問題が起きた。昇降機の塔屋が巾20尺を超えていたためである。昇降機は向い合つて合計6基だから巾20尺では納まらない。建築届ではそれが平面図に明示してあるが，この塔屋の前にも後にも別の塔屋があるので立面図では蔭にかくれて明確にされていない。だから，この塔屋は認められないというのが当局の見解であつた。どうしても許可が出ないので仕方なしに中央部で，巾1尺ほどコンクリートを斫つてしまつて，これで二つになりましたということにした。そしてその後で，この隙間にサッシを嵌め硝子を入れたが，これがあらかじめの諒解であつたかどうかは憶えていない。過渡期の笑い話でもあろう。また，高さが100尺と限定されると，採算面からどうしても階高が圧縮される。坪当りの貸室料が10円位の時代ではあつたが工事費との比較からして，これは軽視できない点であつた。建物の償却を20年と踏んでかかると，どうしても階高を圧縮して階数を増さざるを得なかつたようである。



最近の堂ビル遠景

堂ビルについでは野村ビル，大同ビル，大ビル，住友ビルなどが順次竣工していつたが，いわゆるビルの中心は西へ移つた感があつた。それから御堂筋が完成して地下鉄が通るようになるとここがまた中心的になり，さらに現在では建物高さの制限緩和などで中之島一帯が注目されるに至つている。

（筆者　KK竹中工務店監査役）



慶澤園と大阪市美術館

波江悌夫

池上四郎氏が大阪市長として名声天下を風靡したころの大阪市は，欧州大戦後の好景気に急激に市勢の発展膨脹が実現せられたのであるが，物価高騰によって，米騒動が起ったり．原内閣の普通選挙の断行から，国民の社会的思想にも急激に変調が起り，公設市場の開設や不良住宅地区の改善やら，都市計画並びに市街地建築法規の施行推進の運動など都市問題は識者によって研究せられつつあった。

この社会的状勢の変化を達観せられたか，大阪唯一の富豪住友男爵家は，その茶臼山本邸を須磨へ移転せられ，その邸跡一帯の敷地を挙げて大阪市に寄贈されたのであった。この本邸内の庭園は大正天皇が皇太子時代に台覧せられて「慶澤園」と命名せられたものである。住友男爵はこの庭園に10年の歳月を経致せられ諸方の珍石名石を収めて当時の名工に委嘱按配せられたものであった。住友家からの希望条件は大阪市将来の美術館敷地に当てて欲しいとのことであった。

当時大阪市は海外貿易の進展好況から為替相場の変動もあって，将来大阪市美術館の基金とすべき百万円を市長の裁断によって積み立てることとなったのを，住友男爵が聞知せられての美挙であったのである。

しかるに大正の末年，池上市長は招かれて朝鮮総督府の警視総監に栄転せられ，第一助役であった法学博士関一氏が市長に就任せられた。大阪市が大大阪市として，周囲の接続町村を併合したのは実に大正14年であるが，当時営繕課長に就任した私は膨大な各種の新旧建築の営繕経営に多忙であったが，第二助役の木南氏からの希望もあって，大阪市美術館の新設事業に没入しなければならなかった。幸にして当時の市会議長は美術愛好家の白川朋吉氏であり，また将来館長として沢村専太郎氏が嘱託となられたので，初年度の予算が市会を通過して美術館新設の実行期に行った。

すでに前市長時代に武田五一博士の議案があって．それぞれの資料が収集せられてあったのだが，武田先生の議案によると住友家10年経営の名園もその半分を破壊しなければならないような計画であった。沢村専太郎氏も「折角の名園を廃棄するのはいかにも残念であるのみならず，美術館後庭としてこの「慶澤園」を保存することができたらば，住友家の希望にはないが，むしろ喜ばれるのみならず，明治末年の名園として永く市民の愛顧を受けるであろう」ともっともな希望を述べられたので改めて設計案を工夫することになったのであった。

当時沢村氏と打合した条項は次のような数項であった。将来の大阪市美術館は，当時現存の東京博物館や奈良および京都の博物館から，その所蔵品を寄託出品を可能としても分与保管は不可能であった。従って近畿地方における古社寺の国宝級のものや，修理委託を要するものが相当数あり，かつ関西地方の富豪の貯蔵する名品またはコレクションを委託保管修理するの必要があるからどうしても，保護金庫風の委託倉庫を保有すること，また美術館としては，講堂，研究室，事務室のほか食堂，喫茶室などの設備も要望されていた。

（イ）建物は3階建として延3,500坪前後とする。第1階は半地中階とする。
（ロ）大小講堂を設けかつ研究室，休憩室を設けること。
（ハ）事務関係諸室は第1階とし，食堂，喫茶室を設けること。
（ニ）倉庫保管庫を完備して委託管理に便すること。
（ホ）陳列室採光については，特別の研究をすること。
（ヘ）彫刻室は広間ならびに大室を利用しかつ採光に注意すること。
（ト）電気暖房衛生昇降機などの近代設備を利用して遺憾なきこと。

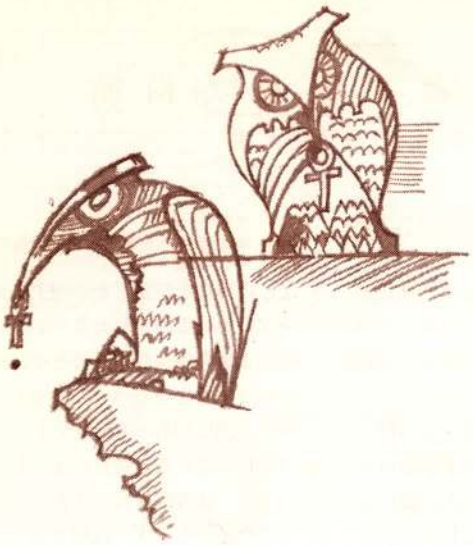
などの事項を協議したのであるが，住友家から委譲された3つの倉庫もそのまま利用保存することや，新美術館の位置をなるべく西に寄せて庭園との間に相当の空地を残したのは主として沢村氏の意見によったものである。私等は新採光法として「トップサイドライト」式採光が「シドニー」美術館や大英美術館新廻廊で採用実施されたことを知って，実物模型室を造って研究に従事し，わが国はじめての採光様式を実行し得たのであった。平面設備には米国における諸都市美術館の内容が大いなる参考となった。立体図案は伊藤正文氏の作である。完成までの諸工事については，私の後任であった富士岡重一君の努力に負うところが多い。

私は事情あって工事半ばにして職を離れたが上棟式の日参列して，白川議長から肩を叩かれ，君の努力を多とするといわれたときには涙の流失するのを止むることができなかった。故沢村専太郎氏は落成を見ずして早世せられたのは返す返すも遺憾であったが，戦時中氏の計画された保護金庫が大阪府市や裁判所ならびに軍部の重要書類の保護金庫として安全に保管されたに拘わらず，大阪市内にあった相当数の美術品が，委託利用せられずして戦災に遭遇したのは何というても残念千万であった

現在大阪市美術館が当初の目的を達成せられず，いわば絵画展覧会場としてのみ利用せられていることをはなはだ遺憾とするものである。大阪郷土の出身画家小出楢重氏の遺品のごときは「コレクション」として大阪市美術館に常時陳列して欲しいものである。また最近関西著名家が貯蔵愛玩する泰西洋画の名作のごとき，それぞれ委託品として，大阪市美術館に常時陳列保管的「コレクション」として市民に公開するかまたは模造品であっても近代画史の系統的陳列法によって常時市民の教養に資することができたらば，どんなにその使命を果すことができよう。

絵画展覧会場はもつと大阪市の中心区において近代美術館として誕生すべきものである。

（筆者　本会名誉会員）

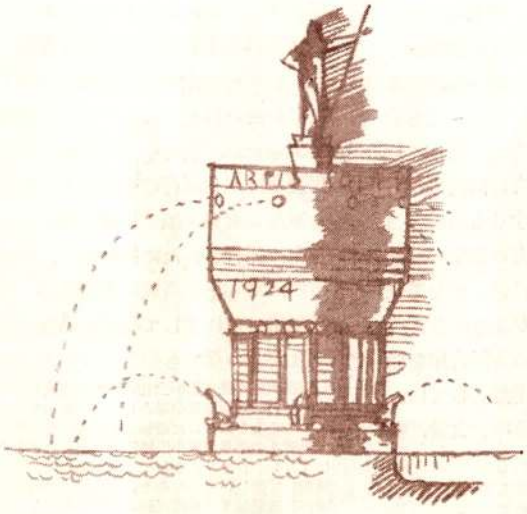


伊　藤　邸

——現・近畿建築会館思い出話——

大　倉　三　郎

スケッチはいずれも筆者自作



伊藤さんは，めがね印肝油商会の社長で，当時満州から帰られ，今の場所に事務所兼住宅を建てられた。宗建築事務所の設計監理で，大正15年10月に完成している。それから30数年たつた。うかつにも私は，話の起りを少しも知らなかつたのだが，ある日，東畑さんから〝あの建物は，君の設計ではなかつたかね〟と問われて，うなずいたとたん，それが近く関西の建築会館になると聞いて，今さら，穴にも入りたい気持になつた。

学校を出たばかりの青二才が，未熟の鉛筆をなめなめでつち上げた試作，その後，前を通る度に，汗顔のあまり，眼をそむけた建築，それが今さら，建築会館になろうとは，恥を上塗りの仕末というの外はない。しかし，失敗談として，聞いていただくことにしよう。

設計の話が起つたのは，たしか大正14年の秋であつたか，当時宗建築事務所のかけ出しの一所員であつた私に担当を命ぜられた。所長の宗兵蔵先生は，人ぞ知る明治建築界の元老，誰かが先生を評して，清軀鶴の如し，と至言を吐いたが，正に典型的な英国式紳士で，アーキテクトと呼ぶにもつとも適しい人格であつた。

先生の設計方針は断然，様式主義，いわば当時，近世復興式といわれた形式を主とするものであつた。それはそれでよいとしても，一番困らされたことは，先生が平面図を画かれ，それにスプリングコンパスで，いとも無雑作にオーダーの断面を記入される。それが下つてきて，立面や詳細を作るのが，私達の仕事となることであつた。したがつて，その平面の一部は，ときに先生の許しを得て，時にはこつそりと訂正せざるを得なかつた。またロマネスク風などを——当時個人的趣味として——取入れることも，しばしば先生のお許しを得た。これははじめは，先生の意に反したものであつたが，後には次第に，敢て喜んでいただいたことを，ほのかに記憶している。

ところで，伊藤邸の設計については，もともと小さい建物でもあり，はじめから任されて，細長い平面に，前後に室，中部に階段と便所など，これより外にどうにもならない。至極簡単にやつてのけただけである。当時1階の南面は店舗，北面は台所と食堂，2階以上が住宅で，とくに3階の北面はたたみ敷の室となつていた。工事は大林組さんに施工していただき，万事お任せした形であ

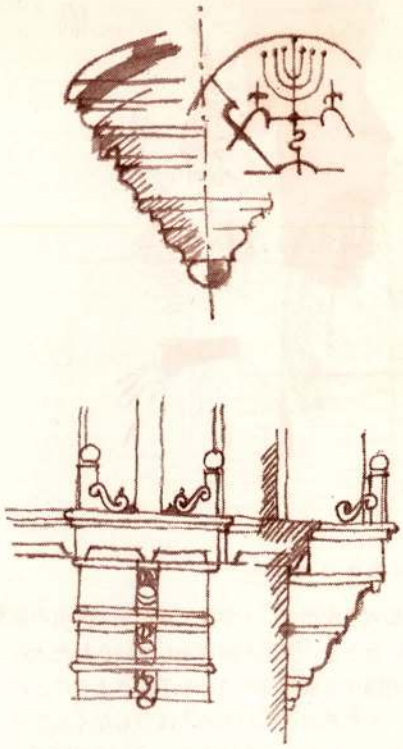
つた。宗事務所は通りの同じ側にあつて，現場まで一足の距離，絶えず往復したものだ。

仕上の最中に，面倒な注文が出た。満州での経験が忘れられない伊藤さんが，ペチカを造れというのである。ペチカの名前だけは聞いているが，第一見たこともない。参考書を繰つても要領を得ない。ついにかぶとを脱いで，助けを乞うたところ，それではというので，伊藤さんは早速，大連から専門の支那人左官を2人呼んで下さつた。その現場へ着いたのを見ると，2人とも雲をつくような大男で，威圧されることおびただしい，ばかりでなく，第一言葉がわからない。万事任せっ切りで，体のよい見学である。見ている間に煉瓦を積上げて，1階から3階まで突抜けの円筒型の大ペチカができ上つた。その表面をば，鉄板で蔽うことになつたのだが，それに絵を描くことになつて，大胆にも引きうけてしまつた。期日もなかつたためであつたが，結局，図案化した静物や風景を散模様にして，色華やかに仕上げた。それは南面室の西南隅に立つていたのだが，幸か不幸か，今はなくなつている。いつか取除かれたものであろう。

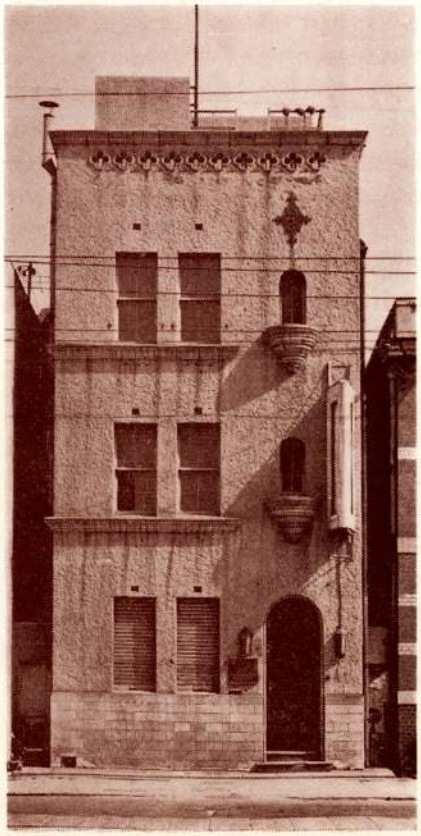
1階から上る段の親柱には，ふくろの彫刻をつけるつもりで，何度も現寸を書き，彫屋さんに世話をやかせたが，でき上つたものは，まつたく失望ものであつた。これは外部のテラコッタの繰型が，細かすぎたのと好一対で，未熟から出た失敗の跡である。失敗といえば，竣工近くなつてから，地下室に土佐堀川の水が浸入することを発見して，青くなつたことであつた。裏の水位が，時にこれほど上るとは気付かなかつたからである。早速川に面して擁壁の水除けを作つたが，気安めであることは当然。しかし，伊藤さんから幸い，地下室はほとんど使わないからという寛容の言葉をもつて，許していただいたことはなによりも冷汗ものであつた。今そこが材料陳列室になつているのが，いささか気がかりなのである。

あれから30余年の間に，人は遷り変つているのに，建物は少しも変らず，大正の表現をそのまま保つているのが，なんだかおかしいような気もする。しかしそれでよいのだとも思う。建物もいつかは改装されることがあるであろうが，それまでは失敗も恥しさもまた，思い出として，都市の片隅にほこりを浴びていくことであろう。

（筆者　京都工芸繊維大学教授）



伊藤邸（現在は4階に増築して近畿建築会館となる）



橋梁意匠十五年

元良勲



渡辺橋橋塔最初のスケッチ

大正13年京都大学を出て，大学院で武田五一先生の御指導を受けていたとき，先生が顧問をしていられた大阪市都市計画に附随する橋梁意匠設計を手伝うようにとの御内意を頂き，もちろん否応のあろうはづもなく喜んで御引きうけした。これがきっかけとなって，大学院を退いて後も引きつづき橋と取り組んで，前後約15年，橋，橋，橋で暮らすこととなった。

橋の意匠といえばまず勾欄，親柱，あるいは照明灯の設計と考えるのが常識で，また，事実初めのうちはその線に沿った仕事が主要であり，毎週大阪に見える先生に手を入れていただいて仕事を進めていた。もちろん先生もこんな装飾屋的な仕事のやり方がよいと思っていられたわけではない。構造的に合理的な形は元来美しかるべきものである点を常に強調していられた。たとえば鉄骨構造のピンとか支点とか文字通り扇の要に当るようなところを，以前の設計ではわざわざ隠すようにしていた誤りを指摘して，こんな「ふんどし」は外すべきであるといった類である。そうして何よりも倖いなことは土木技術陣の方々が少しもこだわりなく，このような構造美学とでもいうべき立場をよく理解し，進んでその方向に強く指向した点であった。現在大阪市の助役をしていられる堀威夫氏が洋行から帰って橋梁課長となられるとともに，構造と意匠の協仂という点が完全に実行されるようになり，私の仕事も大へん面白いものになってきた。戦争による資材不足のため橋の仕事がストップすることがなかったなら，私は今も喜んで橋と暮らしていたかも知れない。それにしても私の直接の担当であった装飾的な仕事の結果に対しては，後で見て，全くなくもがなの感を禁じ得ないものが多い。戦時中資源回収のおかげで大分撤去され，助かっているのである。しかしその構造的な形態についていえば，それはどこに出しても決して恥ずかしからぬものであることを断言して憚らぬ。でき上ってただ一つ存在し並べて比較すべきもののないとき，その好さはとり立てて意識されないかもしれない。したがって，構造設計の成功はとかく見逃がされ勝ちなのではあるが，終始その設計上の苦心を見ていた私にとっては，その成果を高く評価することができるのである。当時の技術陣，すなわち現在武智パイルの社長をしていられる土木部長福留並喜氏，前記橋梁課長堀威夫氏，そうして当時の若い潑溂とした技師の方々に対しては，いまなお心からなるなつかしさと敬意とをもちつづけているのである。

その頃の大阪の橋の総数は，さすがに水都の名に恥じず，1,200橋余，そのうち約150橋が第一次都市計画事業として新改築されることになっていた。数にしては僅かに1割強にすぎないけれども，名だたる名橋大橋を含んでいて，まことにやりがいのある仕事であった。都市美という観点から，大阪の橋には得失相反する2つの特異性がある。第一の得点というのは，橋の意匠を根本的に制約する川巾がまことに適当だということである。隅田川の橋のような偉観を望めないとしても，周囲の風景に溶けこんで都市景観を形造る上からはまったく手頃といってよいであろう。第二の有難くない点というのは，河岸の低いということで，しかも河心桁下高は河川法によって最低が押えられている関係上，橋の反りがどうしても強くならざるを得ない。極端にいえば太鼓橋みたいになってしまう。おまけに悪地盤の影響で支点の不同沈下や移動もあり，この曲線も結局はこわされてしまうのである。このもっともひどい例が渡辺橋，西国橋で，橋面が逆に下反りになってしまっている。都心部のこととてなんとかならぬものかと常々気にかかるのである。

橋は都市風景の大切な要素であろう。縦の方向に延びた建築群に対して横一文字の構造は，よく対照的な構成を形造る。といっても橋は建築ほどは目立たない。派手な高音部に対する地味な低音部とでもいうか蔭の役廻りをしているようである。また，それでよいのだと思う。それと気づかず，さればといってなくては淋しいと印象づけうればよいのだと思う。それにしても橋にたいしては，もっと建築家の厳しい，しかし好意ある眼が向けられるべきなのではないか。与えられた紙数で一人よがりの過去を語るよりも，進んでこの点を強く訴えて擱筆する。

（筆者　大阪工業大学教授）

随想：関西の建築歴史を語る 9

大阪府庁舎の懸賞設計と堺市庁舎建設の思い出

加　藤　善　吉

編集委員会から大阪府庁舎建設の思い出をかけとの御依頼であるが，私は当時都市計画課にあつて営繕に携つていないので書くことができない。しかしこの建築の懸賞設計に応募入選したので私事に亘つて恐縮であるが，それらの関係と，また直接衝に当つた堺市庁舎建設の思い出を綴つてその責を果したいと思う。

1．大阪府庁舎は，中川望知事のとき大正11年から4ケ年の継続事業として工費380万円を計上して実施のことに決定し，ついで設計は懸賞によることとなつて発表され，大正11年10月30日締め切りまで集つた図案は80通，片岡，武田，佐野の諸博士外数名の審査員の審査の結果，11月30日に入選者の発表があつて，1等平林金吾，2等笹倉梅太郎，3等1席私，同2席が橋本舜介の諸氏であつた。現在の庁舎は1等図案によつて建てられたのである。敷地は4,300坪，建築延坪9,200余坪，地下室付6階の鉄筋コンクリート造である。

この建築にはじめ専ら当られたのは，当時の営繕課長中村琢次郎氏それに井上新二，八木幸次郎，楠瀬徹その他の諸氏で，大正15年10月末に竣工を見たのである。中村，井上両氏は竣工を待たずに他に転ぜられたと記憶する。

この懸賞の発表は，私が前任地青島から大阪府に転任後間もないときであつたが，試に応募のはらを決め公務の余暇約1ケ月を費して図案を作り締切間際に提出したのであつたが，それが偶然入選したことは幸運というべきであろう。当選を機に中村課長から営繕に転課の交渉があつたが都合上御断りしたのであつた。

私がこの設計に応募した動機は，大正5年から青島守備軍当時官舎をともにした早大出身の竹内新七君が，後年陸軍東京経理部に帰任の後大正8年たまたま議院建築の懸賞募集が発表せられ同君がこれに応募し，予選を経て3等2席に当選したので私も何かやつてみようと思つていた矢先，それとは比較にならないが幸い府庁舎の募集が出たので早速応募する気になつたのであつて，まつたく同君に刺戟されたようなものであつた。

2．堺市庁舎は昭和9年の関西大風の災害復興事業として昭和13年6月に着工し，6ケ年の日子と130余万円の費用で建築せられたのであるが，起工早々支那事変の勃発，大東亜戦争の激化などで建築資材が極度に払底し労務資源の涸渇，物価の急昂など当初予期しなかつた幾多の悪条件に直面して工事も一時停頓の悲運に際会した。

この建築の設計は私が平面計画をして設計は久野建築事務所に依頼した。鉄筋（一部鉄骨）コンクリート造，地下室附地上3階，2,000余坪のもので，これを完成するには860屯の鋼材を要するのであるが，時局下資材統制強化のため，全量の鉄鋼工作物築造許可が認められず昭和13年5月に辛うじて536屯，全量の約6割しか許されなかつた。しかし工事請負は竹中工務店と全工事の契約を締結して，まず第一期工事として許可鋼材の範囲内で地下室および地上2階窓下までを施工することとして同年6月に着工し，翌年9月に前記限度の軀体工事を終了したのであつた。つづいて第二期工事に着手すべく残余の鉄鋼工作物築造許可の申請をしたが，当時福島県庁舎も同様中止の状態にあつたため，これと比較されて容易に許可されなかつた。16年4月に至つてようやく知事を経由して商工省から工事を延期するか，または他の資材で築造するようとの通牒があり，やむなく鉄骨部である市会議場と塔屋を止めて2階全部と3階の正庁を鉄筋コンクリートとし，3階の両翼を木造ヂベル構造として完成をすることとし，最小限度必要な鉄鋼133屯の許可申請をし，17年4月にようやく許可があつた。それから府の建築許可を受ける一方，鉄鋼，セメントの配給に非常な困難を排して努力の結果，入手の見込みがついたので同6月に再び着工する運びとなつた。その間実に2年9ケ月工事中止の状態に放置されていたのである。

第二期工事着工以来は大東亜戦争発展のため資材の逼迫，労力の不足，輸送機関の梗塞，制限法令の頻発および統制機構の改廃が烈しくなり，ついに18年4月に至つて鉄鋼統制の規則が変り，ために再び中止となりあらためて許可を受けねばならなくなつた。そこで改正法令によつて，改めて商工大臣に工事続行の許可申請をする一方，商工省に強力な接衝を行つた結果7月に許可を受け続行することができたのであるが，時局の進展はますます資材統制が強化され労力の不足も激化されひいて工費の暴騰となり，業界に深刻な影響を与え工事の進捗に極度の困難と支障を来たしたのであつたが，これらの障害突破のため東奔西走してこれを克服してついに昭和19年3月に完成をみたのであつた。この間市長をはじめ，私ども市当局はもちろん施工者の竹中工務店の献身的努力は非常なものであつた。

（筆者　堺市嘱託）



大阪府庁舎

インターナショナル建築運動

中西六郎

1926年の秋の頃であった。当時欧州の旅に出た私はとにかく巴里に滞留することにした。

第一次世界大戦の終戦後凡そ10年を閲した当時であって，世界平和を目途にスイス，ジュネーヴに本部を構えていた国際聯盟では，新しく会館を建設のため加盟各国からその設計図案を競技募集中であった。翌1927年2月その審査を終って，全応募図案を国際聯盟本部に陳列して一般に展示した。もちろん私も早速巴里から馳せつけた。応募図案は相当な数に上っていて，場内も多少ざわめいていた。掲示を眺めると審査員には，ウキンのホフマン氏の名がみられたし，ストックホルムのテングボム氏の名も読まれた。当選図案の内には，ファレンカムプ氏，ハンネス・メーヤー氏の作品もみられた。一際目立って参観人の足をとめ批評しあっていたのは，ル・コルビジェ氏の群を抜いた作品であった。伝統を脱し平素彼の主張するところを具現したものであった。彼が世界に訴えた最初の大作であり，力作であったろうと回顧される。

フランス人は第一次世界大戦を境として，アバン・ラ・ゲール（戦前）アプレ・ラ・ゲール（戦後）と物を区別して観察し，表現する癖が多かった。独乙でも同じような傾向が強く感ぜられたものであった。それほど大戦はいわゆる形而上にも形而下にも世間を一変させたものである。グロピウス氏は現代の建築は世界的に共通な建築技術により，個人とか国民とかが自らもつところの境界，相違を打越えて，すべての文化国では共通の性質をもつようになった，建築は常に個人的でありまた国民的であるとしても，しかし個人，国民，人類の3つの焦点の中では最後のものが他の2つを包含するために，ここにインターナショナル建築の語が生れると叫んだ。タウト氏も同様に新しい建築の分野開拓を主張してやまなかった。

日本においても，当時の建築界の歩みに飽き足らなかった関西の建築家たちが相集り，世界各国の建築界の新動向は次第に伝統を脱して，共通の性格をおび，しだいにその濃厚の度を増してゆくのを観取して，その波に乗ることにより，将来に悔を残さないようにせねばなるまいと一致結束して，日本インターナショナル建築会を創立して次のような発表を行った。

宣言（1927年7月）

1. 人類の生存に基礎をおいて建築の進路を根本的に解決せんとす
2. 人類の進展に伴い必然的に生るべき様式を建設せんとす
3. 日本における問題の解決に基本をおいて世界各国の同志と提携して共同の目的に向って進む

綱領（1927年7月）

1. 様式の建設には伝統的形式によることを排し狭義の国民性に固執せず真正なる「ローカリティ」に根底をおく
2. 研究及創作の範囲は建築を中心として人間の生活に関する総てを含む
3. 宣言の主義主張を実現せんがために随時展覧会講演会などを開催し常時研究および教養の機関を設く

創立当時の有様については中尾保氏がその著『インターナショナル建築』に，

『欧州ではすでに材料，構造の合理的処理と建築機能の純粋構成，機械的美観の意識化などの動的要素が注目されつつあった時に表現派から脱したグロピウス氏がデッソウにバウハウスの機能的校舎を完成していた。ル・コルビジェ氏は新しい提案としての著書や図案を世界相手に投げ出していた。建築の世界的動向が定まりかけたことに気づいた6名の建築家（本野精吾，上野伊三郎，伊藤正文，石本喜久治，新名種夫，中尾保の6名）は1927年の7月2日京都に会し，日本インターナショナル建築会設立の宣言と綱領を日本および外国に発表し，インターナショナル建築の日本における解決へと志した（当時中西六郎氏は巴里にあったが，発起人の1人として欧州建築家と意見の交換を試みて多大の賛同を得た）。宣言と綱領の発表が，日本では認識不足からずいぶん誤解もされ，抗議もされ相当敵もつくり，ナンセンスもあったが，欧州の新しい建築家たちは大いに祝意を表し，前記ホフマン，メンデルゾーン，タウト，ベーレンス，アウト，グロピウスの諸氏の応援をうけ，その後仏のリュルサ氏，米のノイトラ氏などはこの会に好意をよせ相提携して進むことを誓ってきた。一方日本では竹内芳太郎，本多正道，南信の諸氏を始め若き建築家十数名は，この会の趣旨に賛同入会して力を添え相当の活躍が演ぜられた。』

と記述している。日本インターナショナル建築会の設立によって世界的な技術への躍進の方向が明示されたのであり，宣言綱領を具現表示するためには，誤解されやすい「国際」という言葉を用いずに敢て「インターナショ

ナル」を冠して会名とした次第であった。ところが意外なことに，当時の国内の状勢は共産党的な色彩のものには弾圧のきびしかった頃であったから，日本インターナショナル建築会とは恐らくは建築により赤化を企てる徒輩ではあるまいかとの注視をうけ，会名の変更乃至は解散を促されたナンセンスもあった。しかし次第に実態が明瞭となるにおよび，反対に多くの共鳴をよび大阪三越において公募した作品を加えて5回にわたり建築展覧会を開催して気を吐いたものである。1929年8月に月刊会誌「インターナショナル建築」を創刊してより数年にわたり思索と主張を続けてきたものであるが，残念ながら1932年4月で発行が打切られている。恐らくは経済的な結果からだと記憶している。

1931年1月上旬には会員が緊急会合して東京帝室博物館の設計競技規定を検討して，時流に逆行するものとして不満を表明し，次の如き声明を発表，東京の建築家に激を飛ばし活発な運動を展開したものである。大朝，大毎をはじめ大阪の諸新聞には一斉に筆を揃えて報導の労をとってくれた。かくて大多数の賛意と応援とをうけたことは予想外の喜びであった。

声明　1931年1月15日

われわれは現に公募されつつある東京帝室博物館の懸賞設計にたいし応募しないことを声明する。

理由

(1) 偏狭なる個人的趣味を意匠の規準としこれによって一律の審査をなさんとする審査方針および募集規定の一部に反対である。

(2) 最近数回の建築懸賞設計の経過よりみて技術的立場から該競技の審査員会に信任をおくことができぬ。

参考条件

(1) 各新聞記者および各建築団体代表者を審査に立会わしむること。

(2) 応募図案の全部を審査前後2回にわたり公開すること。

(3) 審査員の選定にも，設計図案の選定にも公募の精神を徹底せしむること。

(4) 外観の意匠のみに重きをおかず建築機能を重要視すること。

以上

日本インターナショナル建築会

かくて会員19名，準会員14名，賛同者70名連署して当局に迫った。思うに審査員であった建築老大家からはいよいよいわゆる不逞の輩の烙印を押されたことであろう。

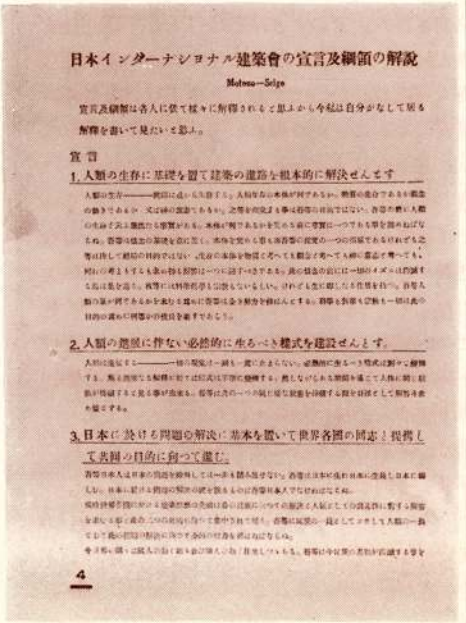
歳月は流れて創立当時の会員のうちからはすでに数年前本野精吾氏逝き，新名種夫氏また不帰の客となり，残余の各員もそれぞれに齢を重ねて白髪の人もいるが，いまだに元気は失わず，各自の分野に活動している姿を頼もしく眺めている。一層の精進と健康とを祈って筆を擱く。

（筆者　中西六郎建築事務所長）



上：1929年8月に発刊された「インターナショナル建築」創刊号の表紙。
表紙意匠は伊藤正文。この号に上野伊三郎氏設計の島津邸が紹介されている

下：同号に収録されている「宣言」と「綱領」解説


日本インターナショナル建築會の宣言及綱領の解説

Motono-Seigo

宣言及綱領は各人に依て様々に解釋されると思よから今茲は自分がなして居る解釋を書いて見たいと思ふ。

宣言

1. 人類の生存に基礎を置て建築の進路を根本的に解決せんとす

人類の生存――我國に於ける自分達の本体が何であるか。物質の集合である肉体の動きであるか，又は神の創造であるか。之等の問題も事は容易の問題ではない，吾等の前に人類の生命であり進化する實質がある。本体が何であるかを究める前に實質の一つである學を開かねばならぬ。吾等は進化の原理を茲に置く。本体を究める事も吾等の探究の一つの問題であるにすぎざる之等は共に終局の目的ではない。之等の本体を物質に考へても觀念に考へても人間に關係して居ても，同じの考とする点の指す目標は一つに結ぶ事である。其の焦点の前には一切がイズムは存在する点は無き迄も，吾等には何等拘束する点はないのである。されど之に對しては責任を持つ。吾等人類の進む所であるかを知る事に依て吾等は進む方針を得んとする。吾等を拘束し苦悩も一切は此の目的の達成に何等かの関係を有すべきである。

2. 人類の趣味に伴ない必然的に生ずべき様式を建設せんとす

人間は進化する――一時の現象は一時も一定にあるべからず。必然的に生ずべき様式に對する。無き時期なる転機に對しては既成主義の破壊する。然しながらある期間を通じて人間に對し社会が保證するに足る事が出来る。吾等は其の一つの現に最も妥當を得様する設計を目標として制作者を導くである。

3. 日本に於ける問題の解決に基本を置いて世界各國の同志と提携して共通の目的に向つて進む。

吾等の本人は日本の問題を解明して其の本を開き落すなり。吾等は日本に生れ日本に育成した日本に働らく。日本に於ける問題の解決の途を發見するのは吾等日本人でなければならぬ。

4



大阪城と黒田屏風

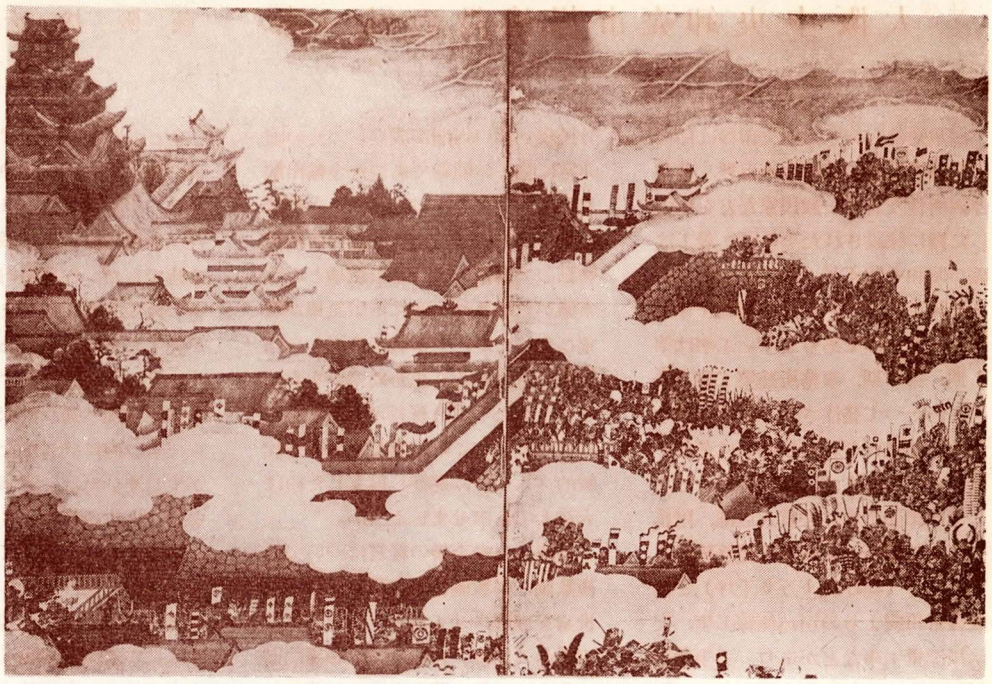
波江悌夫

昭和4年の初春，当時の大阪市長関一博士は市長公室に建築課長であった私を呼ばれて，「今度の御大典記念事業として大阪城天守閣の復興を計画したいのだがね，可能であろうか，実は市会の長老達の要望なのだよ」と微笑された。この突然のお話に面喰ったのであるが，当時の大阪市民は誰しもが，なにもない天守台を遠望して物足りなさを感じていることを知っておったから，「できると思いますが，現在の天守台は明治初年の戦火で，花崗石が傷んでいるし，本丸の地盤の耐久力も一応調査する必要があり，1週間検べさして下さい」と答えた。すると市長は「よろしい，でもこれは，極秘にやって貰いたい」と念を推された。そのとき，私は「もし実現可能とすれば，豊太閤時代の様式にしましょう。かつ耐火耐震の不燃建築に完成致したいですね」と申上げたところ，「大いに賛成だよ，しっかり調査してくれ給え，そして極秘ということを忘れずに」とまた念を押された。

当時構造方面の担当は川口一二君であったので，この調査研究とは好都合でもあり，君の意見と努力は一方ならぬものであった。現在の大阪城本丸は当時陸軍第四師団の管下に在って，一等三角点の移動処置についても，地耐力調査についてもそれぞれ許可と打合を充分にしなければならなかった。現存の天守台は寛永期の改築の際，秀忠将軍の検閲済みの後に積み上げられたものであり，本丸最高部の最硬地点であることも明かになって，近代架構の建築重量と地震耐力にも安全性があることが解った。

また文献史料ならびに桃山時代様式については，多少の予備調査を心がけておったことが大いに幸いした。ことに唯一の参考史料である黒田家所蔵の有名な「黒田屏風」についても，黒田侯秘書に友人がいてその紹介で親しく拝見ができたのはなによりであった。そして1週間後に実現可能であることの報告を聞かれて市長は大いに悦ばれたのみならず，創立調査委員会の顔触れについても，市長の御配慮があり，京大の武田五一博士に天沼俊一博士および片岡安博士を交えて，文科方面には西田直二郎博士や魚澄惣五郎氏や美術館長に予定されていた沢村専太郎氏などの人々を選んで，基本案の作成にそれぞれの御助力を願うことに尽力されたのであった。

ここに，唯一の参考史料である「黒田屏風」と申すのは，慶長元和の両度の大阪戦役後，黒田長政公が戦役記念として描かされた一双の屏風である。しかもこの戦役に従軍した江戸の絵師八郎右エ門という名工を見出されて，これに委嘱されたのであるが，彼は不幸にも功半にして病に仆れたので，さらに江戸の絵師で従軍したものを求めてこれを完成せしめたというなかなかに苦心の連作である。一枚は右方に茶臼山の家康公本陣があり，中央に黒田家一党の奮戦を画き，左方に大阪城の三天守閣が画かれてある。いま一つの屏風には落城から脱出する落武者女房などが淀川を渡渉する惨状を描いているのである。ところで明治末年にわが大阪市史編纂に従事せられた幸田友成文学士は，この黒田屏風に描かれた大天守閣は五層であるが，天正14年秀吉に招かれた毛利秀元や京都の公卿達の記録には階数「八重」とあり，これらの文献などから考察すると黒田屏風は五層であり，参考資料にならぬと考えられたようであるが，天正期の大天守閣は，外層と内階とが一致せぬものが多いことを知られな



黒田屏風の一部

かったためでもあるが，桃山期の大阪城大天守閣は五層八重であったのである。(織田信長公の築城した安土城天守閣は五層七重であり，現存姫路城のそれは五層七重であって，高知城の現存天守閣は三層五重になっている。)

さて創立委員会の審議会においてもこの「黒田屏風」の外観については，愼重なる審議が交えられた。沢村文学士はこの唯一の資料が現存する以上，外観はこれによるべきであると熱心なる論述をせられたのであるが，建築史上から研究すると，簡単にその儘の形を築造するは不可能であった。現存天守台は南北20間東西18間で正方形に近いが，「黒田屏風」の天守間は長方形で長辺が短辺の2倍位になっている，上部に画かれた飛鶴ならびに猛虎の彫刻など南面は一虎で西面は両虎になっている。また全体の結構はその高さが初層の巾の2倍位で徳川期の福山城天守閣（今次の戦火で焼失）のごとく，千鳥破風の配置手法なども慶長以後の形式を倶備しているのである。ことに最上層部の閣も長方形で，天正期の天守閣のように正方形になっておらぬなどの点から見て，絵師の記憶から描かれたものであろう。しかしながら上部の飛鶴および猛虎の絵画彫刻と高欄を廻らす雄姿は，文献の上にも伝えられており最も重要な部分であるが，各層の千鳥破風は形式美を整頓するために配置されたものと見られるのである。もしこの形体美をそのままに尊重すると全高35，6間となって，当時の建築術では不可能の高さとなるのである。

武田博士は沢村専太郎氏の熱論をなだめながら「とにかく，黒田屏風が唯一の参考資料とすれば，この意匠の遺図を尊重して，唐破風ならびに千鳥破風の配置基調に拠って桃山期の建築絵様その他の遺風を按配するのが賢明であり，かつ至当であろう」と発言せられて衆議一決することができ，設計の基本方針を決定することができたのである。

なおこの「黒田屏風」は昭和6年，天守閣完成記念展覧会のとき閣内に黒田家から出品を承諾せられ，その現寸写真の屏風がそのままに天守閣に保存せられているのであるが，当時第三助役であった滝山氏が，七重の膝を八重に折って黒田家の承諾を求むるのに苦心されたことも忘れられない。

私らは基本設計に関して，当時の現存天守閣を歴訪して天正慶長時代の高閣建築の遺法を学んだのであるが，今次の大戦でその半ばを焼失したことを遺憾とするものであるとともに，大阪城天守閣は焼夷弾の攻撃を受けたのに拘わらず，損焼せずかえって見学の地方学生の落書に困っているのはなんという皮肉であろうか。

最後に私は大阪城天守閣の復興事業が大林組の熱心なる施工によってこの難事業が無事に完成せられたこと，またその登閣料が現在大阪市の貴重なる財源となっていることと，さらにこの記念事業が天正慶長期の忘れられたる日本高層建築発達史上に識者の注目を喚起し，丸岡城（越前），犬山城（尾張），松本城（信濃），松江城（出雲），姫路城（備前）などの諸天守閣が相次いで保護建造物として国宝に指定され，かつそれぞれ修理を加えられつつあると，ならびに富山，岸和田，和歌山，小倉および名古屋などの諸市において復興天守閣の事業を実現しつつあることを慶賀するものである。

（筆者　本会名誉会員）

大阪中央卸売市場建設の思い出

藤阪捨治郎

御承知のとおり，中央市場は川口の船着場を前に敷地約4万坪，住友伸銅所住友倉庫一般民家などを取毀した跡に建設されたもので，着工は確か昭和4年6月，竣工したのが翌5年12月でしたからその間約1年半かかつたわけであります。工事は第1期，第2期，事務所建築工事と3回にわたつて発注され，激烈な競争入札の結果いづれも銭高組に落札したものであります。工事内容としましては卸売市場，仲買人店舗，附属売店，荷捌所，事務所の建築延約1万8千坪（建坪約1万3千坪）と西成線野田駅よりの引込側線工事，安治川岸壁工事などがあり，工事費約250万円，それに衛生電気などの附帯工事や支給材料費を含めますと総工費約450万円位だつたと記憶しています。今ならば20億円以上にもなりましよう。

工事はただ大規模というだけで，今日から見れば特殊な工法や目新しい材料とてなくその面からは格別取上げるほどのこともありませんが，30年前としては大変斬新な，世間に類のない工事として各方面の注目を浴びたものでした。なんと申しましても当時は，今日のように建設機械も発達しておりませず，また資材の調達輸送などにおきましても比較にならぬほど困難がともなう時代だつたので，短期間にこれだけの工事量を消化するについてはなみなみならぬ努力が必要でしたが，組員はじめ各職方もずいぶん奮闘してくれ，予定どおり完成をみたときの喜びは一入でした。

俗に禍転じて福となるということをよく聞きますが，この工事期間中確か第1期工事着工直後昭和4年7月民政党浜口内閣が成立し，その頃非常に喧しい問題であつた金輸出解禁政策が発表されていわゆる金解禁恐慌が到来いたしました。その結果物価の大暴落，失業者の激増という事態が惹起され一度に不景気風が吹荒びましたが，工事施工の面からは材料の買付納入に思わぬ幸いをもたらし，また下請労務者の募集も非常に容易となりこの相当な難工事も比較的スムースに進捗し得ましたのは天祐とでも申せましようか。

当時，中央市場の経営については複数制，単数制などの議論が大阪の世論を沸騰させており，また200万市民の（当時）台所を賄う市場だというので一般の関心を大いに集めた工事でもありましたから，その進捗とかでき映えについては大変な注意を払いましたが，それを施工者の立場よりみれば非常に仕甲斐のある仕事でもありました。技術的にとりわけ申上げることとてありませんが，ただ敷地の大半を占めていた住友伸銅所跡は，煉瓦やコンクリートの大きな基礎が輻輳し，これの取毀しにはまつたく一苦労させられました。またこの機械台の地下溝に銅屑のようなものが流込んでいて，それを拾集めると土工などの出面を上廻る収入があるというので，その鉱滓集めに熱中の余り不必要な所まで掘起す有様で出場人員の割に仕事がのびない状態となり困惑したことがありました。そのため専門の組員を配置して監督を厳にしますと，今度は深夜早朝に出てきて掘起すのでこれを阻止するのに手を焼いたものであります。その頃土工の日当は確か85銭，仮枠大工で1円20銭位だつたと記憶しています。また丸鉄の値段も着工当初80円位だつたのが工事の中期には55円位になつていたと思います。なににしても当今の労賃，物価に較べますと隔世の感がいたします。

今ともなれば笑話ですが失敗談を一つ罪滅しのため書加えておきましよう。それは工事もほとんど終りに近づき仮設物の撤去搬出を急いでおる時でした。作業場内の一隅に労務者の仮設飯場がありましたが，仕事が完了したにもかかわらず立退こうとしない，のみならずその飯場から他の工事場へ通う始末で親方に厳命しても一向に効目がないという事態が生じました。一方市当局から清潔を第一とする市場にさような飯場がいつまでも残つていては困ると厳しいお達しを受けますし，思案の揚句飯場居住者に対し老若男女を問わず1人につき金5円也（当時としては大金ですよ）を支給するという条件をつけてようやく立退かせることができましたが，退居後の建物の始末でまた一騒動起きたのです。と申しますのはこれを早速撤去しなければ再び他の工事場の飯場に利用して居坐りを決めこむおそれがあるので，飯場の床に石油を撒布し一斉に火をかけて焼捨てようとしたところ，あらかじめ消防署の諒解は得てあつたのですが，予想外に火の手が激しくて消防車が駆けつけるという騒ぎとなり，焚火程度だと思つて許可したのに何事だ！と大変なお叱りを蒙りました。それでも厄介物が一度に片付きましたしその場の訓戒だけで許して貰いましたが，これが今日なら到底お目玉位では済みますまい。若気の至りとでも申しましようか，思えば慙愧に堪えません。

中央市場は爾後30星霜，大阪市民の食品供給の中心として世相とその消長をともにしてきましたが，私にとつては思い出深い建物でありますし，また最近では焼失いたしました第5号卸売市場も銭高組の手で再建させていただき，ますます因縁浅からざる所となつたのであります。

（筆者　KK銭高組専務取締役）

ブルーノ・タウト来日の思い出

上野伊三郎



朝日新聞社にて記念帳に署名した折のタウト夫妻

1958年はタウトが日本を去つた年から20年目にあたる。1927年2月に創立された日本インターナショナル建築会は機関誌を発行したり，講演会や作品展覧会を開いたりして活躍していたが，在外会員に対して訪日の招待状を出したことがあつた。タウトはドイツ脱出の機会にこのことを思い出してくれたのであろう，1933年にシベリア鉄道から日本着予定の連絡があつたので，会からは中尾，中西，上野が敦賀まで迎えに行つた。——皆初対面であつた。

敦賀で新聞社の招待で午餐会をやつたが，これがタウトの日本ではじめての食事であつたが，ほとんどの外国人が気味悪がる刺身を平気で食べるのを見て，これは「イケル」と意を強うした。(——最近来朝したデッカー教授も同様な態度であつた。)京都へ向う車中でドイツ脱出の事情を聞いたが将来の方策は立つていた訳ではなかつた。

京都へ着くと大丸社長の故下村正太郎氏が車で迎えに来られて，同邸に落着かせてもらうことになつた。——下村氏は珍らしい温厚な礼儀正しい長者で，外国人に好意を有する人であつたからタウトの長期にわたる滞在を快く引受け，自ら各地を自家用車で案内するなど歓待至らぬところない有様であつた。——翌5月4日は丁度タウトの誕生日だつた。誕生日には居合わせる土地の最上の建築を見ることになつているので案内してほしいということだつたので下村氏を煩わして桂離宮の拝観許可をとつてもらつた。

桂離宮は学校からの見学の際一度観たきりであつたが，日本最上の建築であり現代建築と同質の美を有するものと信じていた。ただその歴史については当時は文献が至つて尠くことに歴史専攻家でない自分にとつては，小堀遠州の作であるとかないとかを論ずる資格もないし，また設計者の立場からみてそれは大した問題ではなかつた。良いものは良いのである。松琴亭附近の庭の石組がはじめて視野に入つたとき〝この庭には哲学がある〟というのを聞いて感心した。彼の日本見学は斯くして始まつた，近畿地方以北は一応見て廻つた，中国四国九州への旅行の計画もあつたが私の方の都合がつかなかつたので延期しているうちに日本を去ることになつてしまつたのは残念であつた。

タウトによつて日本美の再認識は一般に非常な広さで普及され，桂離宮は拝観者で満員の形となり管理者を悩ませるほどになり，昔風の日本工芸品は世界的に流行となつて，今年のトリエンナーレは日本的なものと，相似た傾向のフィンランドのものとで塗り潰されているといわれている。

仙台の工芸指導所，高崎の群馬県工芸所における工芸現代化への指導も日本に大きな影響を残している。銘仙の現代化の結果は現在キモノの柄に普及されてきている。日本古来の技術を現代生活に応用しようというのが，指導方針であつた——これは，当時主として農村経済振興の趣旨にしたがつたものであつた。彼はドイツでは建築の仕事に多忙で，工芸のデザインはほとんどやつていなかつたのであるが，建築的な合理主義と感覚で日本工芸を観察しまた創作もしたわけである。

都市計画は彼の得意とするところで，ドイツにおいても第一人者のうちに数えられていた位であるから，日本の都市計画に対する批判は手厳しいものであつた。〝日本に都市計画なし〟というのが結論であつたように思う。最近来朝したデッカー教授も同様の意見を洩らし，〝東京もこうなつてしまつては，手のつけようがない〟といつていた。都市計画は官庁の仕事であるので，タウトは批判以外に手の出しようもなかつたが，経験の多い彼からジードルングの講義を大学で依頼しなかつたのは痛恨事であつた，——焼き払われた日本の多くの都市の再建にもつとも必要な知識であつたのだが，——現在の日本のジードルングの不備を見聞するにつけて常にこのことが思い出される。当時の日本建築界は豪華な建築に目を奪われて住宅方面は影が薄かつたので住宅の研究者は少かつた状態にあつたし，様式主義が主流をなしていて，建築の大先生の眼は現代建築に冷たかつた。

日本の建築と工芸に多くの功績を残したタウトも当時の日本には満足に受け入れられず，彼の生活も最低限のもので，群馬県嘱託として彼の受取つた手当は月額100円（当時の知事給料は450円），他から100円という生活で建築の仕事も室内設計が二，三あつた位で，〝日本滞在の3年3ケ月は建築的に休暇の時期であつた〟と話していた。こうした彼にとつて方丈記はことに強い印象を与え，英文の本から自らドイツ語に訳した原稿を持つて寒い頃京都までワザワザ日本語原文との読み合わせにきたことがあつた。彼の名が日本人に一般に広く伝わつた頃には彼は日本を去つており，そしてイスタンブールで多くの仕事をしていた。

（筆者　京都美術大学教授）

彰国社新刊案内

新刊 **日本の庭園**

吉永義信著　本書は日本の伝統的庭園の成立を庭園史的に詳述すると共に，各庭園ごとに多角的にとらえた美しい写真による逸本です
A4変形238頁 特製函入 定価 ¥3,500 〒200

建築講座2　構法

執筆・圍部泰文　建築を構造的にみて，その要素の成立を説明し，設計・施工上の注意すべき点を理解しやすいよう解説した好著です
A5判　200頁　上製　　定価 ¥350　〒40

建築文庫37　ラーメン

鷹部屋福平著　世界的構造学者である著者が初学者にもわかりやすいよう，新しいラーメンの計算法まで詳述した手頃な入門書です。
B6変形判 168頁　上製　定価 ¥200　〒20

建築写真文庫84 新しい建具

彰国社編　本書は建築設計に決定的な要素となる建具のデザインを多種収録したもので，新築改装にすぐ役立つよう編集されています
B6判 88頁 総アート上製　定価 ¥300 〒30

初等境界値問題の解法
応用フーリェ級数

R.V.チャーチル著・洪四方次訳 本書はフーリエ級数およびその物理・工学の偏微分方程式における境界値問題の解法への入門書です
A5判　260頁　上製　　定価 ¥650　〒70

建築士技術全書4 構造設計
改訂・新版

坪井善勝・斉藤謙次編　建築士受験と実力養成に欠くことのできない本書は，ここに新知識を取入れて全面的な改訂を行ったものです
A5判　520頁　上製　　定価 ¥950　〒100

重版 **建築学大系4　日本建築史**
東洋建築史

建築学大系編集委員会編　執筆は，日本建築史—太田博太郎・福山敏男・藤岡通夫・渡辺保忠，東洋建築史—村田治郎，と最適者です
A5判 512頁 特製函入　定価 ¥1250　〒130

建築学大系5　西洋建築史

建築学大系編集委員会編　執筆は，古代—藤島亥治郎・小林文次，中世—堀内清治，近世—桐敷真次郎，と斯界の最適任の執筆者です
A5判 416頁 特製函入　定価 ¥1060　〒110

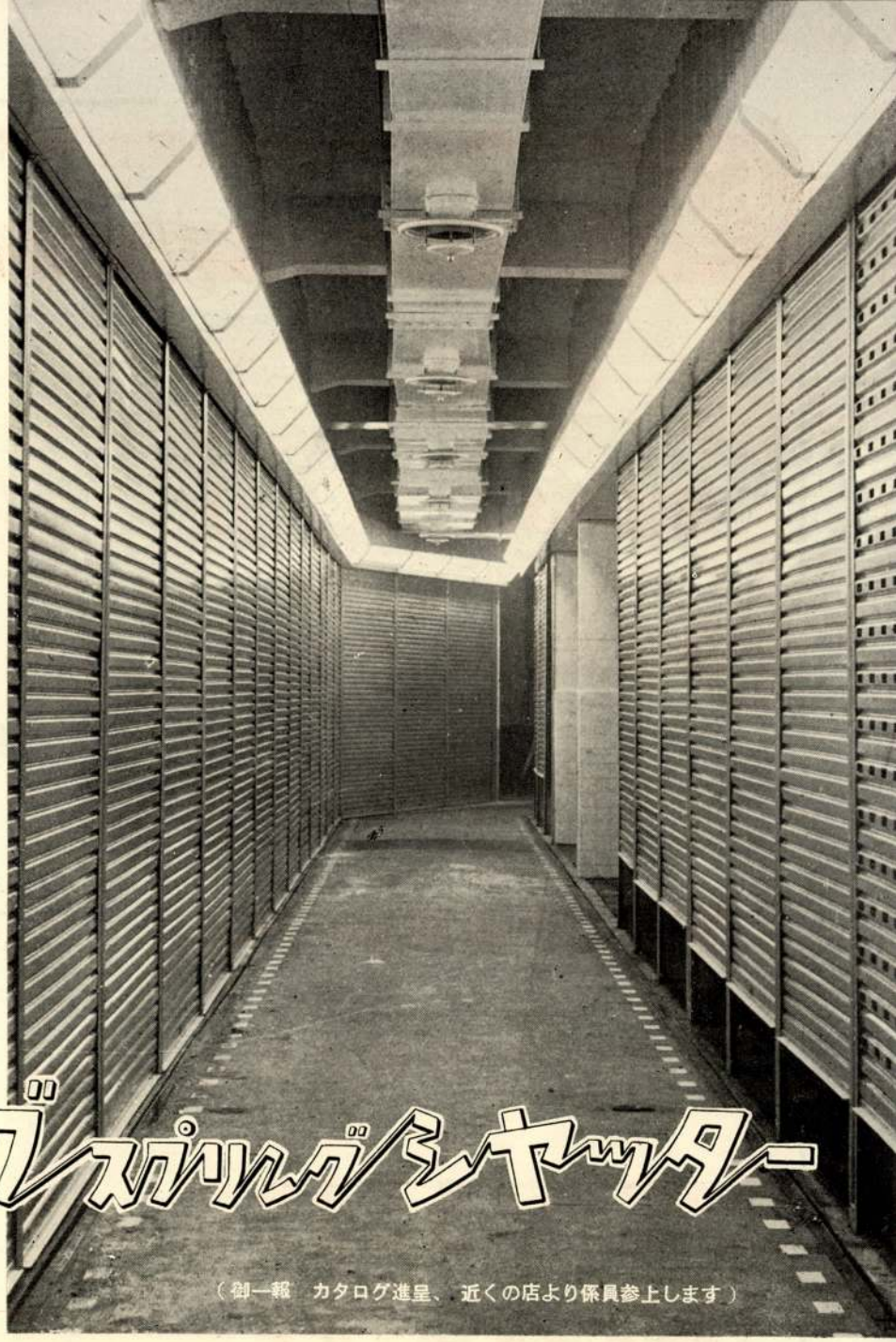
建築写真文庫6　床の間

彰国社編　好評のうちに版を重ねる本書は，新旧多数の床の間を収録したもので，和風建築の新築改装にすぐに役立つ写真図集です。
B6判96頁 総アート上製　定価 ¥300　〒30

東京都千代田区平河町2—11・電話(33)営業—0293・2851　編集—1745・4523　振替東京173401

戸締りは
これで安心

火も！
風も！



キレクスパルグシヤッター

（御一報　カタログ進呈、近くの店より係員参上します）

大阪　**東洋シヤッター株式会社**　東京

本社・工場　大阪市西淀川区佃町4－33
電話㊼2812～3・3116
東京支店　東京都大田区新井宿5－547
電話㊻2947
名古屋支店　名古屋市中区正木町2－27
電話㉜0388
京都支店　京都市左京区東大路三条上ル東門前町
電話⑦3581
神戸支店　神戸市生田区加納町4－1
電話葦合②8843

マルエス印

床の色彩調節は

特許
プラスリューム

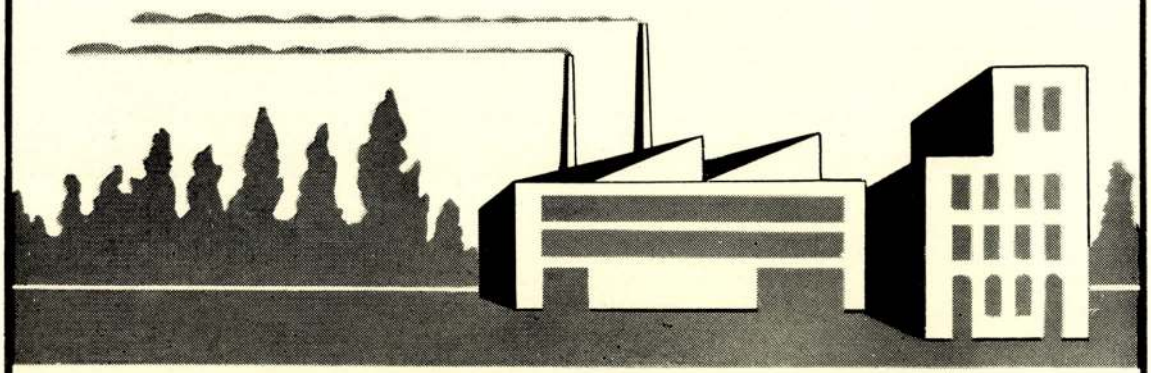
エスタイル

屋根材

ルーフィング

完全な防水工事をするためには

マルエス印石綿ウエルドルーフィング
マルエス印石綿エアーフリーフエルト
マルエス印石綿ノーコルーフィング（特許31408）
マルエス印ガラス網状ルーフィング



日新工業株式會社大阪支店

大阪市西区新町北通一丁目四〇番地　電話(53) 5281 5282 5283

会　合　便　り（11月分）

理　事　会

13日　4時—5時半　　於会館会議室

出席者　竹腰会長，東畑副会長外11理事，中西監事　　事務局２名

議　事　(1) 忘年懇親会開催の件　例年に倣つて実施のことを諮りこれが承認決議を得た。(2) 新年合同交礼会開催の件　関係６団体共催で実施することを承認。(3) その他（イ）大阪市主催「都市と建築展」後援の件（ロ）軽量鉄骨建築協会外主催「熔接講習会」後援の件両件とも後援することに決定。(4) 入退会者承認の件。(5) 報告事項。なお会長から５会長午餐会における懇談内容について報告があつた。

編集委員会

幹　事　会

11日　5時—7時　　於会館会議室

出席者　足立幹事，鬼武委員　　事務局2名

２月構造特集号の企画について協議し，本文の内容項目，座談会の企画などを一応決定した。なお正月号に32年中に竣工した関西の建築の PR 写真を特集する企画を承認した。

委　員　会

12日　2時—4時　　於会館会議室

出席者　佐野委員長外6委員　　事務局3名

議　事　(1) 12月「建築生産」特集号経過報告。(2) 正月「関西の建築」特集号経過報告。(3) 2月「構造」特集号の企画　幹事会案を基に審議して具体案を協議決定した。(4) その他。

座談会企画打合会

25日　5時—7時　　於会館会議室

出席者　佐野委員長外4委員　　事務局3名

２月「構造」特集号の座談会企画として，構造の進歩について語つて戴くこととし，そのテーマ，出席予定者，日時などを協議決定した。

教育委員会

小委員会（建築設備講習会）

1日　5時半—7時　　於会館会議室

出席者　浅田主査外3委員　三村，真砂野氏　事務局2名

講師予定者に御出席を願つて，浅田主査から講習会開催の趣旨を説明し，講習会実施についての意見を伺つた。ついで協議の結果講師予定の三村，真砂野両氏に，一応講義内容の項目を選定していただくこととし，講習会の実施時期，時間などについてその予定を打合せした。

小委員会（建築設備講習会）

13日　5時半—7時半　　於会館会議室

出席者　浅田主査外2委員　三村，真砂野氏　事務局2名

三村，真砂野両氏から提出された講義内容の項目について協議し，両氏に講師をお願いするとともにその他の講師を項目により適当にそれぞれ推薦願うこととした。

委　員　会

21日　3時半—5時半　　於会館会議室

出席者　竹内委員長外7委員　　事務局2名

議事　(1) 建築設備講習会について　経過報告の後，浅田主査転任のため後任に中原委員を委嘱した。なお建設業者より小委員２名を追加委嘱。(2) 造型に関する座談会について　従来の座談会の記録の発表の可否につい

杭

株式会社　武智工務所

取締役社長　福留並喜

大阪市西区西長堀北通四丁目一〇細野ビル三六号

電話新町㊿九九五～九九八

間仕切天井・には軽量鉄骨を・軽量鉄骨は日進式を御採用下さい・

耐震・耐火・軽量・堅牢

防錆完全・中空防音

合理的工法・責任施工

株式会社　奥村重兵衛商店

大阪市北区木幡町五六番地

電話北㉞四一三一～四

て審議し，発表は取止めることとした。なお第3回は明春開催のことに決定。(3) 報告事項。

事業委員会

12日　5時半—7時半　　於会館会議室

出席者　鷲尾委員長，岩崎副委員長外11委員　　事務局2名

議　事　(1) 忘年懇親会の企画について　小委員会案を基に審議して実施方法，予算などを決定した。(2) 若い会員の集いの企画について　三品主査から経過を報告し，企画に関し各委員の意見を求めたが，なお当分従来の方針にて進めることに決定した。(3) 33年1月以降の事業企画について　合同新年交礼会，見学予定建築などについて協議した。(4) 座談会開催について　15日に関西の建築界を語る座談会を開催することとしてその出席者などを選定した。(5) 報告事項。

小委員会（忘年懇親会）

12日　4時—5時半　　於会館会議室

出席者　尾亀幹事外3委員　　事務局2名

忘年懇親会の実施について詳細検討審議の上一応具体案を決定した。

法規委員会

14日　3時半—4時半　　於会館会議室

出席者　恒岡委員長外6委員　　事務局1名

委員長から，基準法改正に関する中央の情勢について報告があり，前回に引き続き建設省提示の問題点「違反是正の手続きの簡素化と命令の強力な確保の具体策」について意見の交換を行つた。

座　談　会

若い会員の集い

14日　6時—8時　　於会館談話室

第5回の集いで，足立孝，岩本博行，笹川季男の3氏にゲストとして出席をいただき，「日本の建築ジャーナリズムについて」のテーマで開催した。各建築雑誌に対する忌憚のない批判から，「建築と社会」に対する感想，希望など広い範囲にわたつて活潑な意見が熱心に述べられた。当日の出席者15名。

関西の建築界を語る座談会

15日　5時半—8時　　於会館談話室

事業委員会の主催，鷲尾委員長の司会により，大学，建築事務所，官庁，建設業の各界からの出席者6名で，本会の事業を中心にして関西の建築界について語り合つた。昔の協会の状況，友好団体との関係，地方に対する事業のこと，「建築と社会」に対する希望意見などなかなか短時間には語り尽せぬほど豊富に話題が出て，定刻過ぎに散会した。

講　習　会

現場管理実務講習会

3月目を迎えて，本月は下記の講習を行つた。

11月 5日　8日　左官工事，塗装工事の施工と管理　　銭高組　七尾　健三氏

13日 15日　現場に関する諸法規とその手続　　大林組　浅野　繁雄氏

19日 22日　設備工事の施工と管理　　大林組　高橋　誠義氏

26日　建築工事の着工から竣工までの業務総論　　大阪府　宇治　村樸氏

29日　特別課外講義　　竹中工務店　中出　定夫氏

29日講義終了後，鴻池副会長，教育委員，各講師列席して終講式を行い，鴻池副会長から聴講者に終了証書を授与した。式後講師を中心に午餐をともにして本講習会についての感想，意見，希望などを述べ合つた。

左官工事講習会

昨年第1回を開催した本講習会を，本年も下記のとおり実施した。受講申込者108名。



会　場　大阪建設会館　　毎夜　6時—8時
11月19日 20日　洋　壁　大林組　谷口　尚武氏
21日 22日　日本壁　大阪市大　山田　幸一氏

工高生設計コンクール表彰式

27日　2時—3時半　　於会館集会室

昨年同様遠く神奈川からの出席者もあつて，入選者7名準入選者3名の出席があつた。竹内教育委員長から各人に表彰状と日高賞を授与し，激励の挨拶をされた。ついで鳥田審査委員長が審査報告を行い，審査結果についての感想を述べられて式を閉じたが，引き続き教育委員長，審査員および入選校の2先生も列席されて一同で座談会を開いた。審査員諸氏から，設計に際しての一般的注意や応募図面に対する詳細の批判などがあり，入選者からも質問があつて一同にとり何かと大変参考になつたことと思われる。

見　学　会

大阪建材工業K.Kと昭和アルミニウムK.Kの工場見学会

22日　1時—5時　　参加者25名

大阪建材工業K.Kよりバスのご提供を受け，まず昭和アルミの工場に向う。見学に先立つて概略の説明を受け，各工場を案内された。アルミ板圧延，箔の製作から日常馴染深い家庭用具のアルマイト製品工場と広い構内の各工場を一巡見学する。目下建設中の押出工場には，屋根，外壁，間仕切などに全部自家製品のアルミ板が使用され，調合の異つた各種のものを使用して比較試験を行うようになつているが，なかなか美しい外観を呈していた。同社で予想外に時間を費したので急いでつぎの見学先大阪建材工業に向い，ただちに工場の見学を行う。福田社長自らのご案内により，サッシュ，シャッターの製作工程を一巡見学した。原材料の切断，枠のプレス，加工仕上，防錆処理，塗装と平素取扱いの多い建具の製作を一見して大変参考になつた。とくに当工場では防錆処理としてパーカー法によるボンデライト作業を実施して防錆の完全を期しておるが，サッシュの錆の問題は重大な問題であるのでとくに注目された。見学後同所会館において茶菓の饗応に与りながら，社長の関西におけるサッシュ製作の発展に対する努力と将来の抱負を伺つて大いに敬意を表した次第である。なお防錆の問題に関して種々説明を開き質疑応答を重ねた後見学会を終つた。

委員会懇親ソフトボール試合

2日　2時—5時　　於北稜中学校々庭

本会には8つの常設委員会があり130余名の方に委員をお願いしておるが，各委員会はそれぞれ独立して運営されることが多いので，一部委員の方には他の委員会委員熟知の機会も少いので，委員懇親の機を作るため事業委員会の主唱でソフトボールの試合を行つた。土曜の午後老若30余名の方が参集し，混成チームで2試合を行つたが，老童連も若返つて大活躍し，美技，珍技，妙技の連発で大変楽しい会合であつた。終了後，大阪建材工業K.Kのご好意によつて梅新アサヒ・ビヤホールで懇親会を催したが，歓談笑声尽くることなく，次回は災害委員会の当番を決定し，充分所期の目的を達して散会した。なお後援者大阪建材工業K.K殿に誌上を借りて厚くお礼申上げます。

展覧会後援

大阪市において，建築基準行政一周年を記念し，都市不燃化の促進と建築関係法令の普及徹底を図る目的で下記のとおり展覧会を開催したので，本会においてもこれが開催を後援した。

記

1．名　称　　都市と建築展
1．会　期　　自11月26日 至12月1日
1．会　場　　大阪大丸百貨店7階催場



謹賀新年　昭和33年元旦

編集委員会　(50音順)

委員長	佐野　正一	委員	石堂正三郎
幹事	足立　孝	〃	岩本　博行
〃	千原大五郎	〃	鬼武　信夫
理事	諫早　信夫	〃	川上　貢
〃	内田　成之	〃	絹谷　祐規
〃	小栗　賛吾	〃	島田　儀
〃	高橋　慶夫	〃	菅田　豊重
〃	竹中　錬一	〃	鳥田　家弘
〃	布施　忠司	〃	福田　朝生
〃	室谷　山水	〃	政岡　基次
〃	山本龍太郎	〃	増田　太郎
〃	吉田　信武	〃	松原　孝史
委員	浅尾　正敏	〃	光安　義光
〃	伊藤　克三	〃	渡辺　禎己
〃	石黒　次郎		

謹んで新年のお喜びを申しあげます

昭和33年元旦

事務局一同

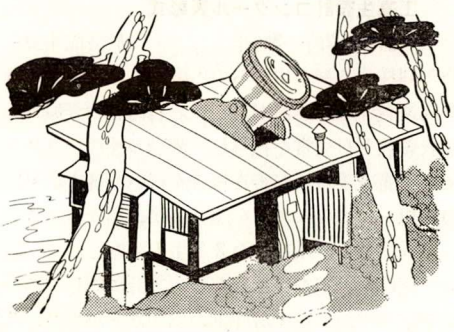
追補

32年11月号「建材特集号」の「仕上別による建築材料名の索引」のうち，72頁記載の「ヒッターライト」の取扱店欄につぎの会社を追補します。

日製産業K.K.大阪営業所

大阪市北区神明町16（日製ビル）電㊱1854・6178

建築漫画二題　山口ゆうこう



58年型ハウス



やもめの初夢

＝特許＝
氣光式通風器　製造販売
開閉式レヂスター
特許第一五一三八号
カタログ進呈
大阪市西区江戸堀上通1の5
田辺工業株式会社
電話土佐堀㊹7437－9

絶讃!!壁材
高尚脱色変色せぬ
趣味の壁砂
富士印
カラーサンド
汚れぬ耐火保温防暑防音
塗るテックス
カラーサンドの石綿質
ダンネツオール
合名会社
浜岡商店
兵庫県津名郡一宮町郡家港
電話郡家二〇番

社団法人 関西建材協会・11月分会報

会勢部会 4日 正午～2時 於御堂筋生野

戸田，青木両副会長，室谷，笠原正副理事長，大和常務理事，志垣，若井，鈴木，井場，田村，平田，旭ガラス（伊藤），日本板硝子（木村総務部長）出席。

会勢発展に関する諸項検討，意見交換，会員増加方法会報単独発行，新名簿調製の件，本部会の事業分担と経費など協議した。

展示場出品者会 9日 3～5時 於4階



常設展示場出品者会

室谷商店外30社出席，大和常務理事司会にて下のとおり協議した。

理事者の外展示場委員制を設ける展示場宣伝外活用増進など積極化に進むことを決定，下記10社を第1回委員に互選す。 東洋陶器，ゆたか木材，東洋シャッター，柏原，日東商会，林ベニヤ，大日本硝子，東亜ペイント，関西タイル，ナニワスレート，毎月第一火曜会合申合せた。

理事会 14日 3～5.30時 於談話室

室谷理事長，田村，水島，越田，山本武雄，若井，鈴木，山本潔，大和常務外 9委任状出。

諸報告。保全部会秋の大会，奈良女大，京都繊維大文化祭，建材出展，総会終了，会勢初会，特別会員依頼，ダイジエスト外出版経過10月会計報告など。

議事。会員募集ならびに入会勧誘宣伝文案，忘年会建築協会合流の件。新年名刺交換会1月4日協会ほか他団体と連合開催の件，本会単独新年会1月15日ごろ催す，総務部一任，電話増設，会報単独発行，入退会承認など。

会勢部会 18日 2～3時

志垣，井場，村石，若井，田島代人，山崎代人，大和常務出席。会員募集運動具体的検討したすぐに実行に移ることとした。

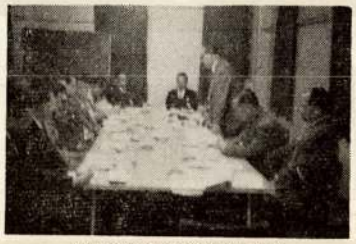
保全部会 21日 3～5時 3階

当番幹事小綠商店，浦谷，山崎(代)，不二(横山)，大和理事。部会活用方と新年催事意見交換，12月休会申合す。

特別会員第1回会合 26日

4～7時 於4階

青木副会長，室谷理事長，大和常務，田村，井場，中山，金光，村石各部長。足立，井上，後川，池田，川村，竹内孝，谷口，若木，佐々木，竹内成夫，山田，各特別会員出席。

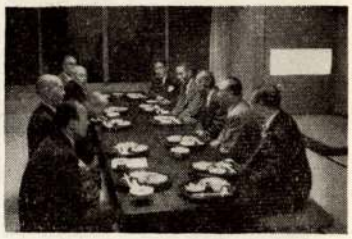


特別会員初回室谷理事長挨拶

大和理事経過と協力を乞い列席者紹介後，青木副会長謝辞と将来指導方を乞い挨拶，つぎに室谷理事長会の近情と事業概要を報告，今後の援助を依頼，部門別改正企画を述べ内容検討後，後川，竹内孝，川村，谷口4氏に托した。

会長と部長懇談会 28日 5～8時

中村会長の招集の下に青木，戸田副会長，室谷理事長，大和常務理事，志垣，井場，田村，鈴木各部長など出席，



会長，副会長，部長会

会員増加方法，会務進捗方その他につき懇談。

家具装飾部会 29日 1～3時30分 3階

当番幹事亀井商店田村社長司会下のとおり協議した。

部会を意義あらしめること検討，ダンピングなどお互に競売をなくする件，意見交換後建材会名において各メーカーに進言することを理事会に提案申合す。次当番栗山，サンエス，三和プラス3社とする。次回は2月上旬協議項目を示し通知することとし散会。

第1回 特別会員紹介

今般本会定款第10条による特別会員として下記各位に入会お願したところ全員より入会御承諾を得た。今後本会の事業企画その他につき何かと協力御指導をいただくこととなった。

足立孝，井上滉，伊藤幸一，池田達雄，大井弘治郎，岡村実，川村統之，佐々木保，後川春雄，松本宇一，竹内孝，竹内成夫，谷口尚武，津村重一，中野順次郎，福田朝生，村尾栄，山田幸一，若木望太郎 (順不同敬略)

関西建材協会11月日誌

7日 全会員に会員増加運動着手方依頼発す。

15日 大和常務理事，川村統之，岡野パイト三人事務上につき協議。

18日 京都繊維大学生に文化祭出展建材を渡す。

20日 9時～11時 高松，松山，宇和島方面建築士会員玉岡周三郎氏ほか一行13名，展示場見学来館，地下にて昭和化工ほか新材説明会後高島屋新館ほか見学。

午後2時～4時 商工会議所都市不燃化促進協議分科会開催，大和常務理事出席。

27日 KKケントクゼミナール，商店界倉本新保，両主幹による広告ならびに商社発展策講演ならびに研究会，大和理事出席。

30日 新材ダイジェスト本日できそれぞれ配本着手。

会告

電話増設の件

会務輻湊のため今般下のとおり電話1個増設した。

北浜㉓ 9908番 3階事務室（一般会務用）

尚在来の㉓ 7172番 1階展示場にあり

（1階地階専用とする）

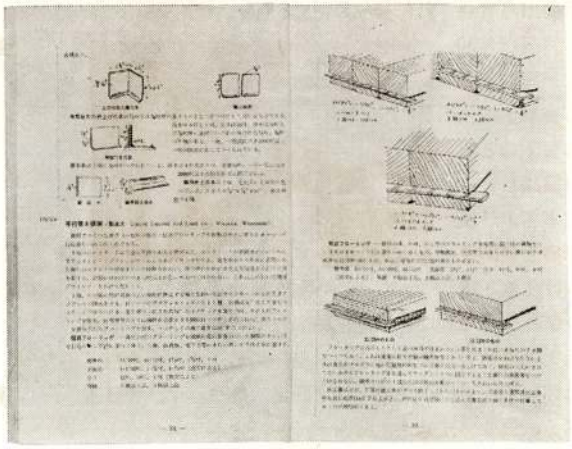
新材料ダイジェストでき配本中

今春来予告中のダイジェストは漸くなり11月末発行目下各方面に配布中。一部送料共実費 ¥200. で分つ，ただし本会員には割引あり。御希望の向は本会宛お知らせ乞う。本書は1956年スキートカタログ中より新材新構法などおよそ17部門にわたり80項目に割ち抜萃飜訳したものに国産品およそ28種を加えB5型約120頁に納めたもの。

社団法人 関西建材協会

新材料ダイジェスト紹介





内　　容　（主たる項目）

型枠，床版。カーテンウオール。組積造。
メタル，ガラス，プラスチックス。屋根および壁。
防水防塵。断熱，吸音，防振。床壁仕上材。ドアー。
窓。ドア，窓附属品。厨房とフードサービス設備。
浴室，洗濯室，設備。焼却炉，排水器。
エヤーコンディションニングとヒーチング。
配電，照明，通信。エレベーター。
以上スキートホンヤク80頁。

国産の部

板硝子，新らしいベニヤ製品，錦壁，エスコンスチール
エスロンリブと樋，オーシスライト，C型カーテンレール，ルーフィングとタイル，ステンレス辷り止，スロール，セラプレート，吸音テックス，ラスボードとプラスター，スーパーアルソイド，ユニオンボード，サンドウィッチ，インシユライト，ハードボードプライウッド，菱印特種ガラス，ビニローゼとテラックス塗料，ビニシート，リグノイド，アルミンとシングル，モルトプレン，ヨドウオールなど42頁。

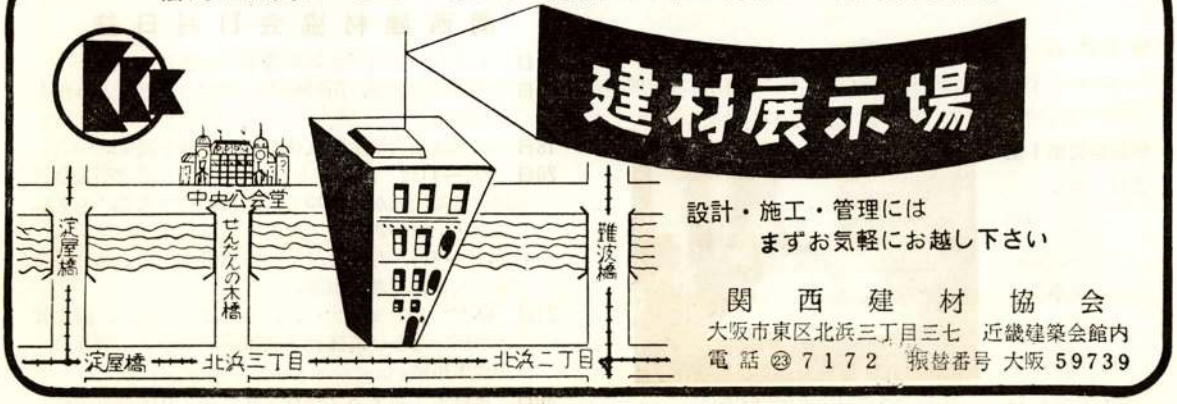
謹賀新年

1958年元旦

本年も一層の御支援と御利用と御引廻し賜りますようお願申上げます。

社団法人　関西建材協会
同　常設展示場
理事会，展示場，委員，事務局一同

信用と誠実をモットーとする・建材100社の見本が一目で見られる



設計・施工・管理には
まずお気軽にお越し下さい

関西建材協会
大阪市東区北浜三丁目三七　近畿建築会館内
電話 ㉓ 7172　振替番号 大阪 59739

広告目次

(50音順)

青盛建材kk ……90
浅海電気kk ……11
旭化工板製造kk ……中挟
麻村サッシュ工業kk ……36
朝日石綿工業kk ……表紙4
伊奈製陶kk ……中挟
泉石綿工業kk ……27
井田商事kk ……32
井上浄夫商店……23
kk岩住鉄工所 ……中挟
岩元工業kk ……30
靱興産kk建材部 ……31
宇部興産kk ……19
宇部スレート工業kk ……85
kk栄興商会 ……13
オリエンタルメタル製造kk …中挟
大阪建材工業kk ……38
大阪コンベス建材社……26
kk大阪城口研究所 ……12
kk大阪電気暖房商会 ……12
大阪防水建設社……23
大阪耐酸工業所……32
大阪窯業セメントkk ……17
大島応用化学工業kk ……26
kk奥村重兵衛商店 ……83
奥山化工業kk ……36
小野田セメントkk ……18
織本特殊構造研究所……29
樫野石灰工業kk ……13
火曜会……10
kk川岸窯業 ……25
亀井kk……26
関西ペイントkk ……目次対抗面
川口ゴム工業kk ……前付
近畿建材工業kk ……13
近畿電気工事kk ……14
近畿車輛kk ……24
工藤電気kk ……11
kk久保商店 ……90
黒川化学工業所……26
kkケントク ……38
kk建材社 ……12
建材信和会……22
神戸材料kk ……表紙3
kk金剛商会 ……25
斎久工業kk ……12
kk斎藤省三商店 ……12
坂本商会……27
佐村木商店……26
三機工業kk ……12
kk三幸商会 ……13
kk三興社 ……11
kk三晃商会 ……12
三宝電機kk ……11
彰国社……82
新晃工業kk ……15
新興建材工業所……34
新鋼建設工業kk ……24
新日本電気kk ……1
須賀工業kk ……12
鈴木シヤタア商会……32
住友金属工業kk ……表紙3
住江織物kk ……23
田島応用化工kk ……表紙2
田中工業kk ……1
田中風呂製作所……28
田中屋本店……7
田辺工業kk ……86
田村商会建材部……26
谷山製作所……27
第一工業kk ……13
大信ペイントkk ……18
大日本硝子工業kk ……30
大仏組……25
大和ハウス工業kk ……20
高砂熱学工業kk ……13
kk武智工務所 ……83
kk立花商会 ……11
耐酸化学工業kk ……37
淡陶kk……前付
中央電気工業kk ……11
朝陽電気kk ……11
東芝商事kk ……19
東京鋼板工業kk ……28
東洋キヤリア工業kk ……13
東洋シヤッターkk ……中挟
東洋陶器kk ……前付
東洋リノリュームkk ……前付
東洋レーヨンkk ……目次対抗面
ナニワ瓦kk ……25
内外工業kk ……27
内外土木建材社……31
浪速合板……28
浪速建材工業kk ……37
日本エレベータ工業kk ……24
日本金具製作所……中挟
日本サッシュ協会大阪支部……16
kk日本シヤッター製作所 ……30
日本セメント防水剤製造所…表紙3
日本セメントkk ……18
日本ドアーチエック製造KK……中挟
日本ハードボード工業kk ……21
日本レーヨンkk ……表紙4
日宝蛭石kk ……30
kk西原衛生工業所 ……12
三星西日本アスファルト事業協同組合……35
kk日本動力安全機製作所 ……20
日本ペイント……33
日新工業kk ……中挟
kk野上工業所 ……11
kk林塗装店 ……13
kk汎建製作所 ……29
浜岡商店……86
kk日立製作所 ……前付
平田建築構造研究所……31
kk平田タイル ……23
平川鉄工所……前付
藤本鉄工kk ……28
福屋工業kk ……13
富士製鉄kk ……17
藤森工業kk ……中挟
二葉屋装備工業kk ……28
kk不二製作所 ……33
フタバ黒板……9
豊国セメントkk ……31
星金属kk ……24
kk松重電機商店 ……11
松平白蟻殺滅予防所……28
水谷ペイントkk ……84
kk水島商店 ……33
kk三高製作所 ……29
kk三谷製作所 ……前付
峰岸商店……32
kk室谷商店 ……25
明正社……27
矢橋大理石商店……25
山田工業kk ……12
山武ハネウエル計器kk ……14
kkヤマト電気商会 ……11
油脂化工社……表紙3
kk吉田芳雄商店 ……25
吉野石膏kk ……25
kkライト製作所 ……1

(註) 正月号特別掲載の五日会・十日会の目次は，紙面の都合上，割愛させていただきますので御了承下さい。

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事

専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　電話大阪(34)207～8・4836～7

Aomori

中国総代理店

田島応用化工株式会社
奥山化工業株式会社
日瀝化学工業株式会社
関城化学工業株式会社

青盛建材株式会社

本　　社　広島市鉄砲町108　TEL中②2281－3
福岡営業所　福岡市万行寺前町14　TEL東③1225－6
岡山営業所　岡山市東田町3　TEL②7911・8169



国際観光会館ロビー

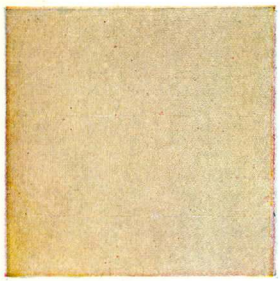
特許

三星プラスタイル

田島応用化工株式会社

三星プラスタイルの色調

CN－1



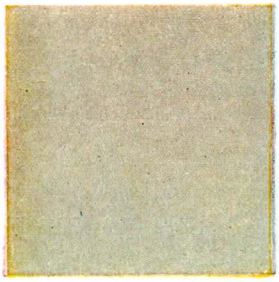
White
N 8/

CN－2



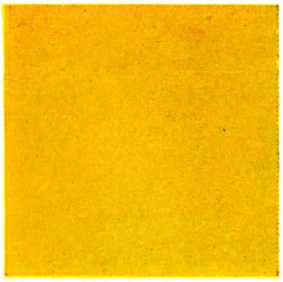
Pale Gray
N 6/

CB－1



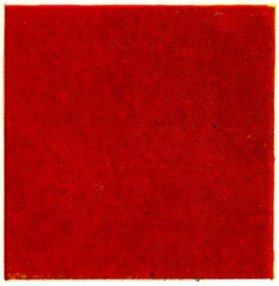
Pale Capri Blue
2.5PB6/4

CA－2



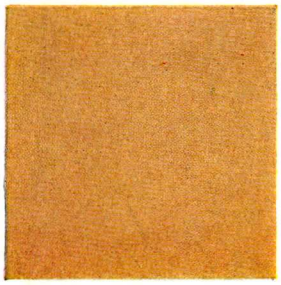
Sunlight Yellow
2.5Y7/4

CA－4



Garnet Red
5R3/8

CD－1



Peach
7.5YR6/4

CO－1



Pale Eye-rest Green
7.5GY6/3

CG－1



Pale Forest Green
2.5G6/4

三星プラスタイル……

三星プラスタイルは最も近代的な高級床材でビニール系樹脂に特殊樹脂、可塑剤を添加し充塡剤として石綿其他の成分を高温高圧下で混合成型したVinyl Asbes-tos Tileであります。

最新の床材料は長年月に亘る激しい通行量に耐へ、摩耗に強く傷がつきにくいこと、美しい鮮明な色彩で明るい環境を生み出す事、弾力性に富み足触りが快適であること、又大きな荷重が加はっても凹みが残らないこと、耐水、耐油性且不燃性であること等が不可欠な条件であります。

三星プラスタイルは以上のどの条件をも具へて居ります。

三星プラスタイルは商店、事務室、劇場、百貨店、レストラン、病院、学校及び一般家庭の応接間、ホール、廊下、食堂、厨房、脱衣場等どんな場所にお貼りになっても、必ず皆様の御満足が頂ける事と確信して居ります。最新の建築には之を使用する事が常識となって居ります。

三星プラスタイルの寸法

12″×12″×$\frac{1}{8}$″ 又は 9″×9″×$\frac{1}{8}$″ の二種類が標準ですが厚さは此の外 $\frac{3}{16}$″ のものも出来ます。

三星プラスタイルは米国聯邦規格L－T－751(1952)に合格し更に当社研究室の独自の試験により管理製造されて居ります。

特　徴

1．色彩が床材料として最適の色相、明度、彩度であり、鮮明な感じを与えることが出来る。
2．弾力性に富み、足触りが快適である。（性状表4及び6）
3．表面硬度が高く、傷がつきにくい。
4．静止荷重に強いから、大きな荷重をかけても凹みが残らない。（性状表7）
5．耐摩耗性があらゆる条件下でアスファルトタイルを含めた他種の床材に比べて遙かに強い（性状表9）
6．耐油性、耐薬品性に於いてアスファルトタイルの欠点を完全にカバーし、特に耐油性は極めて優秀である。（性状表8）
7．耐水、耐湿性が極めて良好である。（性状表8及び11）
8．耐火性で燃焼を持続せず、タバコのすいがら位では焼跡が残らない。
9．寸法が安定してゐて、収縮は微少である。（性状表10）
10．極めて強靱である。（性状表5）
11．施工が容易で下地になじみ易く、且つ施工時の加工（切込み、他の色種との組合せ）が自由に出来る。
12．維持管理が簡単でカラ拭きか、水拭きで清潔で美しい光沢を保っている。

● 下の色見本は勉めて現品の色調に近く印刷してありますが或は多少異るかもしれません。御使用の節は現品見本を御利用下さい。

CN－1M



White Marble

CN－2M



Pale Gray Marble

CB－1M



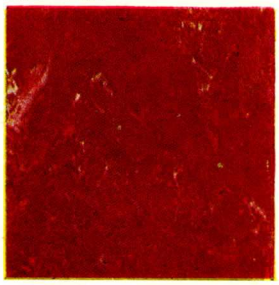
Pale Capri Blue Marble

CA－2M



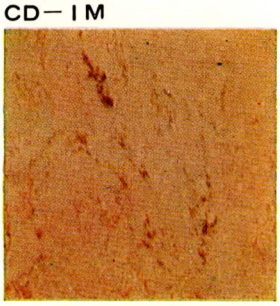
Sunlight Yellow Marble

CA－4M



Garnet Red Marble

CD－1M



Peach Marble

CO－1M



Pale Eye-rest Green Marble

CG－1M



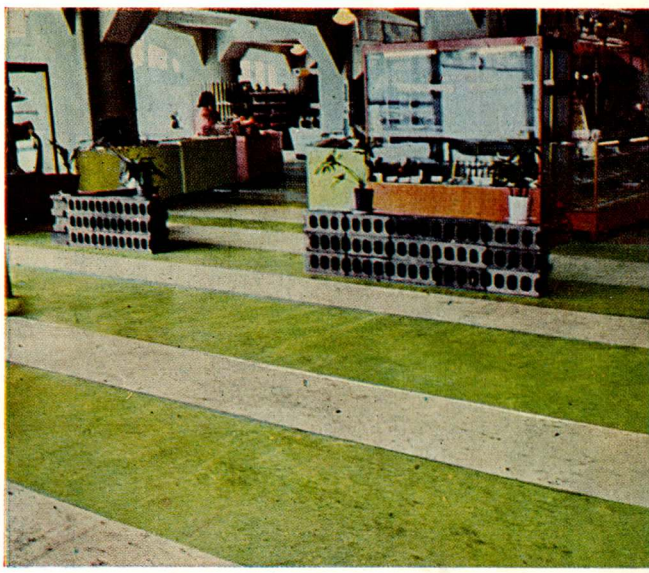
Pale Forest Green Marble

プラスタイルの性状

（アスファルトタイルとの比較）

	試験項目			プラスタイル	アスファルトタイル(明色)
1	厚み			1/8″－1/1000″	1/8″ ± 0
2	寸法		縦	12″ ± 0	12″ ± 0
			横	12″ ± 0	12″+2/1000″
3	重量			590 g	559 g
4	可撓性 (25°C)		縦	2.2″	1.5″
			横	2.2″	1.6″
5	衝撃試験(高さ4½″, 0.35封度球)			12～13回で亀裂 20回で割れない	2回で亀裂6～8回で割れる
6	凹み試験 (荷重30封度, 0.25″の鋼球)		25°C, 1分	0.0096″	0.0075″
			25°C, 10分	0.0142″	0.0112″
			46°C, 30秒	0.0222″	0.0195″
7	凹み抵抗(72kg/cm²)			33.0	4.8
8	耐薬品性試験	耐水試験	46°C, 48時間	変化なし	変化なし
		耐油(植物油, マシン油)試験	25°C, 48時間	優秀	軟化す
		耐酸(5%硫酸)試験	25°C, 48時間	良好	良好
		耐アルカリ(5%苛性ソーダ)試験	25°C, 48時間	優秀	優秀
9	摩耗試験	サンドブラスト法		20	100
		吉岡式試験	乾燥状態	19	100
			加湿状態	88	212
			加油状態	64	———
10	収縮試験		縦	−0.00%	−0.01%
			横	−0.02%	−0.05%
11	反り試験			0.001″～3″	0.003″～5″

規格は： プラスタイル……米国聯邦規格 L-T-751 (1952)
アスファルトタイル…… 〃 SS-T-306-6 (1952)



（大阪駅前阪神デパート3階売場

■ プラスタイルの手入法

泥やホコリを箒ではきとり、水をしぼったモップか雑巾で拭けで常にキレイな光沢が出てゐます。一ケ月に二～三回三星印性ワックスで磨けば理想的です。汚れが、特にひどい時は中性鹸を微温湯に溶かした水で洗って下さい。油拭き（油はゴミを着して反ってキタナイ感じを与えます）はしないで下さい。





田島応用化工株式会社

東京・東京都足立区小台町 633　Tel.代表王　子(91)1181

大阪・大阪市西区京町堀上通 1 —14　Tel.代表土佐堀(44)0810

昭和32— 12 — 5000双葉美術印刷K.K.納

新しい機構と感覚

ブラインドは

ライト



株式会社 ライト製作所

大阪市城東区野江東之町３－７８

ＴＥＬ（33）1183・3638

営業所・東京・広島

田中式 スカイライト

スチールサッシュ
スチールシャッター

オペレーター
スチールドァー

ベンチレーター

田中工業㈱大阪出張所

設計施工

大阪出張所　兵庫県尼崎市南竹谷町2ノ89　電話 ㊽0545

本　社　東京都墨田区吾嬬町東4ノ122　電話 城東㊽0870・0970

錦糸工場　東京都墨田区錦糸町1ノ25　電話本所㊸0790・5133

小倉工場　小倉市赤坂上の宿37　電話 小倉0653・2833

川崎出張所　神奈川県川崎市東渡田3ノ43　電話 川崎②4540

札幌出張所　北海道札幌市北三条東7ノ4　電話 札幌③0515

盛岡出張所　岩手県盛岡市木伏 179　電話 盛岡2554

名古屋代理店　名古屋市西区西菊井町2ノ12岡田建材店　電話 西㊸0121



お子様でも上手においしく炊ける！



NEC

100V—60W NK—610型

正価 ¥ 3,980

NEC 自動電気釜

特　長

★感温部に独特の考案（実用新案出願中）を加えた内釜スイッチ式ですから炊き損いは全くありません。

★直熱式ですから熱のロスが少く600Wで1升が炊けますので経済的で、電気代はわずかに３円50銭です。

★準圧力釜のクランプ（締付金具）でふたを押さえますので温度上昇が早く、むらしもゆつくりできて、ご飯がおいしく炊き上ります。

★従来の三重釜より電気代が20%少なくてすむので、3～5年のご使用で釜代がタダになります。

新日本電氣株式會社

本社　大阪市北区梅田二第一生命ビル

大阪・東京・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

新潟・松本・静岡・金沢・岡　山・高松・熊本

技術雑誌・NECニュース無代進呈・申込は雑誌名記載本社宣伝課へ

株式会社 浅沼組

取締役社長 浅沼猪之吉

本　社・大阪市天王寺区石ケ辻町・電話代表南730・737～9番
支　店・東京都新宿区荒木町五番地・電話四ツ谷4141～4番
名古屋市中村区 太閤通リ一丁目・電話笹島4020・4021
営業所・鳥取・広島・福生・郡山・奈良・京都・神戸・仙台
札幌・静岡・津・岐阜・沖縄

株式会社 新工務所

取締役社長 新順一

本　店・大阪市北区曽根崎中一丁目四三・電話 代表 大阪 (34) 9151番
支　店・東京都千代田区神田猿楽町二丁目七・電話(29)2714・2715・5228・9157番
出張所・神戸・広島・静岡

株式会社 安藤組大阪支店

取締役支店長 瀬川博

大阪市西区江戸堀上通一丁目十八番地
電話 土佐堀 (44) 3788 (代表) 3789・3780番 福島 (45) 393番
本　社・東京都中央区八重洲四丁目七番地
支店・出張所・名古屋・仙台・静岡・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸

株式会社 大林組

本　社・大阪市東区京橋三丁目七五・電話東 (94) 861～6・1151～4・1251～5
東京支店・東京都中央区新富町三丁目五・電話 (55) 1191～1197・2121～2129
其他ノ支店・札幌・仙台・横浜・名古屋・岡山・広島・福岡
出張所・神戸・京都

株式会社 奥村組

取締役社長 奥村太平

本店 大阪市阿倍野区松崎町一丁目五一
営業所・電話 大阪 ㊼ 代表 337・1500
支店・東京・広島・高松・八幡
出張所・千葉・名古屋・奈良・西宮・光・松山・福岡

鹿島建設株式会社 大阪支店

大阪市阿倍野区阿倍野筋二丁目三三
電話 天王寺 (77) 3730・3737～9・3677番
本　社　東京都中央区八重洲五丁目三番地
支　店　札幌、仙台、横浜、名古屋、大阪、広島、四国（高松）、九州（福岡）

株式会社 勝呂組大阪支店

大阪市東区石町二丁目五十番地ノ二（電話東 (94) 3146・6863番）
本　社・静岡市日出町一ノ二（電話静岡 (2) 7171～5）
支　店・東　京・名古屋・大　阪・福　岡・函　館
営業所・若松・宇都宮・川崎・清水・甲府・沼津・浜松・岐阜・滋賀
出張所・広島・小倉・佐賀・長崎・八代・熊本・鹿児島・宮崎・札幌

株式会社 神崎組大阪支店

取締役支店長　大　西　繁　市

大阪市北区曽根崎新地1丁目21
電話北 (34) 7837
本店・姫路市北条口86—3（電話代表姫路2020）

株式会社 熊谷組大阪支店

大阪支店　東区備後町一丁目十三番地（電話大阪㉖1726・1926番）
本　社　福井市豊島上町一番地（市外専用12・4800～2）
営業所　東京都新宿区築土八幡町二二番地（電話 九段㉝5280～9番）
支　店　東京・名古屋・広島・福岡・札幌
出張所　横浜・仙台・静岡・佐久間・下関・神戸・岡山・福井・長野
小又川・青海・大鳥川・高知・宮崎

株式会社 鴻池組

本　店・大阪市此花区伝法町北三丁目六七番地
電話　此花 (46) 2631～9番
支　店・東　京・名古屋・福　岡・松　江
営業所・広島・神戸・京都・横浜・札幌・仙台・水戸・富山
四日市・和歌山・米子・鳥取・宮崎・鹿児島・戸畑

佐藤工業株式会社 大阪支店

取締役支店長　北村平作

大阪市東区北浜一ノ二五　電話北浜(23)6731～3
本　社・富山市総曲輪二三〇　富山支店・同左
東京支店・東京都中央区日本橋本町一ノ二　本社分室・同左
名古屋支店・名古屋市中区仲ノ町一ノ一　富山工場・富山市稲荷元町九六
札幌支店・札幌市南七条西一一丁目　営業所・京都
出張所・神戸・横浜・岐阜・三重・椿原・札幌・仙台・沖縄

清水建設株式会社

社長　清水康雄

本　社・東京都中央区宝町二ノ一
常務取締役支店長　小栗贊吾
大阪支店・大阪市西区土佐堀通リ二ノ二
電話 土佐堀 (44) 1531 (10)
夜間専用 土佐堀 (44) 1531—32

株式会社 銭高組

本　店・大阪市西区京町堀上通一丁目三三番地・電話 大阪 (44) 2431～7番
東京支店・東京都中央区銀座東五丁目二番地ノ一二
名古屋支店・名古屋市中区材木町一丁目五番地
福岡支店・福岡市箔屋町一六番地
出張所・札幌・盛岡・仙台・京都・神戸・岡山・広島・徳島・松山・沖縄

大成建設大阪支店

常務取締役支店長　石井源一

大阪市東区釣鐘町二丁目二十九番地・電話 東 (94) 208・321～325番

大日本土木株式会社 大阪支店

大阪市北区堂島北町九番地
電話大阪 (34) 5931 (代表)— 5934 番
神戸営業所　神戸市生田区下山手通八丁目四二番地ノ一 電話元町 (4) 2114番
本　社　岐阜市長住町二丁目三番地 電話 岐阜 (2) 6141 (代表) —6145
支　店　東京・名古屋

株式会社 竹中工務店

本　店・大阪市北区堂島中二丁目30番地
電話 大阪 34局、 代表 4751 代表 7351
営業所・札幌・仙台・東京・横浜・静岡・名古屋
京都・神戸・広島・高松・岡山・福岡

鉄道建設興業株式会社大阪支店

取締役支店長　西　島　尚　義

大阪市大淀区天神橋筋六丁目五番地（天六阪急ビル七階）電話堀川（35）883・2427・2693
本　社　東京都千代田区神田三崎町二丁目六番地
電話（九段）代表 8411－8415

株式会社 戸田組大阪支店

常務取締役支店長　石　丸　正　名

大阪市北区真砂町三二番地・電話 ㊱ 5951～8番
本　社・東京都中央区京橋一丁目三番地
支　店・札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡
大阪支店営業所・京都・神戸・福井・金沢・富山

西松建設株式会社関西支店

取締役支店長　高　橋　勝　雄

本　社　東京都港区芝西久保桜川町十三番地
支　店　大阪市東区釣鐘町二丁目四十一番地
電話代表 ㊹ 8431

株式会社 間組大阪支店

取締役支店長　牧　村　利　勝

大阪市東区横堀二丁目七〇番地（電話 北浜（23）代表 5035）
本　店・東京都港区赤坂青山南町一丁目一番地（電話赤坂48代表2171）
支　店・仙　台・名　古　屋・大　阪・福　岡

株式会社 **藤木工務店**

本　店・大阪市東区両替町一丁目一七 電話 東 (94) 451～4番
支　店・東京都新宿区三栄町二三番地
岡山県倉敷市旭町六六〇
香川県高松市内町一〇七番地ノ三
出張所・津・岡　山・新居浜・徳　島・京　都

株式会社 **藤田組大阪支店**

取締役
支店長　村　島　良　雄
大阪市北区堂島中二丁目三八番地電話 ㉞ 757 (代表)
本　社・東京都中央区八重洲四の五
支　店・横浜・仙台・名古屋・大阪・広島・九州・札幌

株式会社 **眞柄組 大阪支店**

大阪市天王寺区生玉前町九五番地　天王寺㊼1521、6381番
本社 金沢市弓ノ町二五番地 電話 (金沢) ③1266番
支店 東京・大阪・名古屋
営業所 金沢・富山・福井・大津・京都・岡崎・神戸・和歌山

株式会社 **松村組**

大阪本店・大阪市東区京橋二丁目二八番地　電話 代表 東 ㉞ 3173
東京支店・東京都千代田区内幸町一丁目一番地　電話代表東京 ㊾ 2226
札幌支店・札幌市南一条東三丁目九番地　電話代表札幌 ④ 9151
広島支店・広島市大手町七丁目三三番地　電話 代表 西 ③ 6151
福岡支店・福岡市上市小路二二番地　電話 代表 東 ③ 3667
営業所・水戸・名古屋・京都・福知山・岡山・呉・高松・八幡・大分・沖縄

三井建設 株式会社 **大阪支店**

取締役
支店長　伊　豆　倉　武　一
大阪市西区江戸堀下通一丁目五三番地　電話大阪 (44) 代表4020
本　社 東京都中央区日本橋室町二ノ一 (三井ビル)　電話日本橋 (24) 代表3261
支店所在地 札幌・横浜・名古屋・広島・福岡・大阪
大阪支店管轄営業所 京都・神戸・和歌山・奈良・岡山

建設工事一式請負

大鉄工業株式会社

大阪市北区茶屋町38番地
電話大阪(36) 1711～5番
支店 大阪・姫路・天王寺・松阪・福知山・米子

株式会社 岡組

取締役社長 岡 三郎

本店 大阪市北区堂山町八九番地 電話大阪(36) 2967・2984番
支店 京都市右京区嵯峨明星町一 電話 (86) 415・218番
出張所 枚方市伊賀七七五番地 電話枚方655ノ2番
工作所 大阪市大淀区中津本通二丁目 電話 豊崎(37) 5493番

長谷川組株式会社

取締役社長 長谷川為一

本社 大阪市天王寺区大道町四丁目七九
電話 天王寺(77) 4148・7322・9929
工作場 大阪市天王寺区大道二丁目三
電話 天王寺(77) 9044番

水野建設株式会社大阪支店

取締役副社長 水野久市
支店長 梅沢正一

大阪市北区太融寺町120 電話大阪(34) 2107・2816・(36) 3987
工作場 同北区鶴野町71 電話大阪(37) 1921
本店 京都市下京区西七条市部町17 下8052・8277
営業所 横浜市・平塚市

万年煙突・波型スレート・各種ラス・ルーフィング・ベンチレーター・クレオソート
コールタール・エラスタイト・ターフエルト・避雷針金具・樋受金物製造卸
伸銅品・和洋建築材料一式
万年スレート株式会社代理店

田中屋本店

大阪市南区高津一番町七一番地
電話 南(75) 3836・3837番

井上組

組長　井上福蔵

本店　大阪市都島区東野田町二丁目一五番地　電話㉟0530(代表)2823・4782
出張所　神戸市生田区相生町四丁目九三番地　電話④0485

株式会社 今西組

取締役社長　佐藤音松

大阪市天王寺区上本町七丁目（上六ビル内）　電話㊼8231～3

鍵仲建設株式会社

取締役社長　鍵仲定一

本社　大阪市阿倍野区阪南町中一丁目九番地　電話㊻0261～2
営業所　大津市膳所北浦町一四一一番地　電話大津6514

栗本建設工業株式会社

取締役社長　村上勇

本社　大阪市西区北堀江通一丁目二二番地　電話㊸代表5801
工作所　大阪市城東区森町二番地　電話㊼6554
出張所　東京・和歌山・福井・徳島

株式会社 小坂井組

代表取締役　川崎盛治

本店　大阪市北区曽根崎中一丁目一九　電話　㉞9331～4
出張所　京都市上京区寺町今出川下ル扇町二六七　電話　③3928

大洋建設工業株式会社

取締役社長　木戸口　信義

本　店	大阪市天王寺区北河堀町五四番地	電話 ㊼ 2672・3880・7113
営業所	和歌山市南材木町三丁目二番地	電話 和歌山 ③ 3225
〃	京都市下京区七条通西大路東入	電話 下京 4395
出張所	泉大津市我孫子六九番地	電話 泉大津 1675

株式会社 大末組

取締役社長　山本末男

大阪市南区大和町一九番地　電話 ㊺ 0555（代表）
出張所・東京・奈良・神戸

株式会社 長谷川工務店

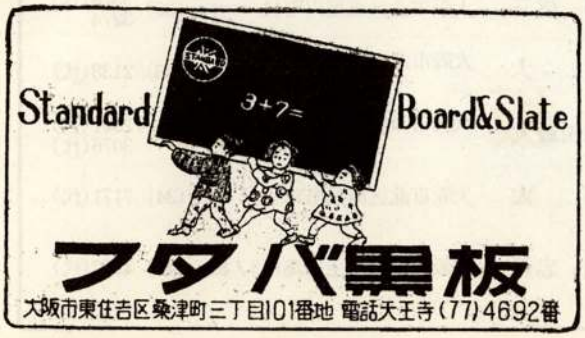
取締役社長　長谷川武彦

本　社	大阪市東区淡路町五丁目二番地	電話 ㉓ 7646～9
東京支社	東京都千代田区大手町二丁目四番地	電話 ⑳ 3474・4478
神戸出張所	神戸市葺合区八幡通五丁目六番地	電話 ② 4847

不動建設株式会社

取締役社長　庄野勝

本　社	大阪市南区鰻谷仲之町五七番地	電話 ㉗ 4771～7
東京営業所	東京都港区芝新橋四丁目四八番地	電話 ㊼ 7322
神戸営業所	神戸市灘区大和町一丁目六番地	電話 ⑧ 9605
出張所	広島・石川県小松	



会員名簿

昭和33年版
附録：業者案内欄

日本建築協会

A5版・約400頁

謹賀新年　火曜會

株式会社 星屋電気商会	山上　孟男	大阪市北区堂島浜通1ノ80	(34) 1575(代)
株式会社 紅屋商会	唐住　侑	大阪市天王寺区上本町6ノ1	(77) 6636(代)
株式会社 東亜電気商会	平山　勇	大阪市北区神明町40	(34) 4677(代) 9127
東光電気工事株式会社 大阪支社	姉川　正男	大阪市東区高麗橋5ノ28	(23) 360 447 569
中央電気工業株式会社	今村　騰	大阪市北区曽根崎町上1ノ41	(34) 8131(代)
株式会社 大阪電気商会 大阪暖房商会	菅谷　三郎	大阪市西区江戸堀南通1ノ37	(44) 5231(代)
太陽電設工業株式会社	古谷庄太郎	大阪市此花区恩貴島南之町73	(46) 4651(代)
株式会社 野上工業所	野上清二郎	大阪市東区北浜3ノ47	(23) 771(代)
栗原工業株式会社	栗原　信虎	大阪市北区永楽町8 日産生命館内	(34) 1234(代) 3583
工藤電気株式会社	工藤　寿男	大阪市北区太融寺町54	(36) 2891(代)
株式会社 ヤマト電気商会	山本竜太郎	大阪市北区西堀川町15	(34) 3056(代)
八千代電設工業株式会社	梶本　秀尾	大阪市東区森之宮東之町高架下	(94) 6531(代)
株式会社 山川工業所	山川　義夫	大阪市北区曽根崎上1ノ10	(34) 8374(代)
株式会社 松重電機商店	松本芳太郎	大阪市東区今橋2ノ16	(23) 6951(代)
江東電気工業株式会社	猪飼幸次郎	大阪市生野区勝山通9ノ72	(73) 4035(代)
近藤工業株式会社	近藤　義明	大阪市西成区東四条3ノ3	(64) 1713
浅海電気株式会社	浅海　正雄	大阪市東区北浜2ノ69	(23) 5273(代) 4241
三和電気土木工事株式会社	助野　信三	大阪市北区東堀川町11	(35) 3378(代) 3274
株式会社 三興社	坪井　大	大阪市北区絹笠町50 堂ビル内	(36) 2138(代)
三機工業株式会社大阪支店	下山田政友	大阪市東区高麗橋3ノ1 東棉ビル内	(26) 2951(代) 3076(代)
近畿電気工事株式会社	佐藤　太	大阪市北区南扇町12	(34) 7171(代)
株式会社 明和工務店 大阪営業所	馬淵　忠義	大阪市福島区上福島南3ノ89	(45) 4772(代)

電気工事設計施工
変圧器電動機電気冷蔵庫
電気洗濯機販売修理
工藤電気株式会社
大阪市北区太融寺町五四
電話・大阪㊱2891—5番
工場 大阪市西淀川区御幣島東一丁目二〇
電話 淀川㊼3477・3478
営業所 東京・名古屋・神戸・岡山・広島

各種電気工事設計施工
淺海電気株式会社
取締役社長 浅海正雄
大阪市東区北浜二丁目六九
電話北浜㉓5273—5275・4241
営業所 東京・神戸・岡山・小倉・札幌

電気設備工事
設計・施工
朝陽電気株式会社
本社 大阪市北区中之島三丁目三 朝日ビル6階
電話 大阪局㉓9531(大代表)
営業所 大阪市西区土佐堀通り四丁目十一番地
電話 大阪局 ㊹5201番(代表)~3

電気工事全般設計施工
中央電気工業株式会社
取締役社長 今村騰
本社 大阪市北区曾根崎上一丁目四一
電話 大阪㉞8131代表~4
営業所 東京・新宮・御坊

電気工事設計施工
株式会社 野上工業所
取締役社長 野上清二郎
本社 大阪市東区北浜三丁目四七 電話北浜㉓770~3
支店 福岡市上東町十五 電話東③5010
支店 松阪市本町 電話2480~2
出張所 東京・名古屋・神戸・直方・田川・大分

電気工事設計施工
株式会社 **ヤマト電気商会**
取締役社長 山本龍太郎
本社 大阪市北区西堀川町15番地
電話 ㉞代3056
東京営業所 東京都中央区銀座東8丁目4番地
全国燃料会館502号室 電話㊺7464
出張所 名古屋・防府・福岡

電気工事設計施工
三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納傳三
本社 大阪市大淀区浦江北二丁目五一
電話 ㊺5148・6460・6646
営業所 大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル八階)
電話 ㊱3862・1141
出張所 東京・名古屋

電気工事全般設計施工
株式会社 **三興社**
取締役社長 坪井大(タケシ)
本社 大阪市北区絹笠町50番地(堂ビル703号室)
電話 大阪㊱2138代表
支店 東京都中央区日本橋箱崎町三丁目二番地
電話 兜町㊼1478・1479・1470番
出張所 大阪堺・名古屋・下関

電気工事各種設計施工
株式会社 **松重電機商店**
取締役社長 松本芳太郎
大阪市東区今橋二丁目十六番地
電話 北浜㉓6951(代表)~3

三菱電機製
NFノーヒューズ分電盤 NFノーヒューズ配電盤
螢光灯・モーター・変更器・冷暖房・エレベーター
三菱電機株式会社元扱店
株式会社 立花商会
大阪市東区南本町二丁目四三番地
電話本町㉖0323・1575—9

暖冷房・水道・衛生設備
設計施工
山田工業株式会社
取締役社長 山田文次

本社 大阪市西区京町堀上通一丁目七 ㊹代2613・2061
営業所 神戸市灘区福住通二丁目一の五二 ⑧ 4996
出張所 名古屋市中区宮出町四七 ㉔ 5721
〃 東京都北区上十条一丁目一〇 ㉛ 2346
〃 岡山市桜町七六 ② 295

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工
株式会社 **三晃商会**

本社 大阪市北区堂島北町一四 ㉞代表7031
出張所 東京都港区芝琴平町四〇 ㊿9278
名古屋市中区新栄町二丁目一 ⑨1820
福井市宝永上町一〇五 1596
広島市石見屋町五五 ②1938
福岡市柳原一丁目七 ④1158

給排水・衛生
暖冷房・換気 設計施工
株式会社 **大阪城口研究所**
代表取締役 城口庸平
大阪市北区高垣町一・電話豊崎㊲7575～7
京都市東山区大和大路大仏前・電話祇園⑥4945～6
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話元町④5892

電気・暖冷房・水道・衛生
設計施工
株式会社 **大阪電気商会**
株式会社 **大阪暖房商会**
取締役社長 菅谷三郎
本店 大阪市西区江戸堀南通一丁目三七番地
電話代表土佐堀㊹5231番
東京支店 東京都中央区銀座東二丁目一三番地
電話代表銀座東㊺4391番
名古屋支店 名古屋市中区南武平町二丁目一番地
電話代表中㉔4491番
出張所 京都・神戸・岡山・広島・福岡・熊本
札幌・仙台・新潟・金沢・福井

水道・衛生・煖冷房・其他管工事
設計並施工
特許YM式ルーフドレイン製造販売
(旧斎藤久孝事務所)
齋久工業株式会社大阪支店
大阪市南区順慶町通一丁目四四番地
電話本町局㉖代表4496～8番
本店 東京都千代田区丸ノ内2ノ8仲12号館5号
電話28局6505～8番
金沢営業所 金沢市高岡町三五 電話金沢本局②2074
福井出張所 福井市城之橋下町一〇 電話 福井2436
高松出張所 高松市中新町一〇六ノ三 電話高松5195

創業 大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生
株式会社 **齋藤省三商店**
東京店 東京駅前丸ビル6階676区
電話和田倉⑳3761・3762・3763・3764
大阪店 大阪市西区土佐堀通大同ビル714号
電話土佐堀㊹1568・1569・2594
札幌店 札幌・北四・西四(札幌駅前)
電話札幌②0010・0956③4661
名古屋店 名古屋市中区南大津通一丁目千代田ビル522号 電話中局㉔1766

暖房・冷房・衛生・水道・電気・厨房・築炉
鋼製建具・軽量間仕切・工事設計施工
電縫鋼管・荷役機械・製造販売
三機工業株式会社大阪支店
大阪市東区高麗橋三丁目壱番地・電話代表26局 2951 3076
本社 東京都千代田区有楽町壱丁目十番地
支店・出張所 名古屋・福岡・札幌・広島
工場 川崎・鶴見・中津・六郷

暖房・冷房・水道・衛生工業設備
設計施工
須賀工業株式会社
大阪市福島区堂島浜通4丁目
電話㊺{代表1171番 / 代表1351番}
東京支店 東京都港区芝田村町6丁目 電話㊸代表7151
名古屋支店 名古屋市中区材木町1丁目 電話㉓ 2780
京都支店 京都市下京区烏丸通松原下ル電話⑤ 1989
神戸支店 神戸市生田区北長狭通2丁目 電話③代表5101
福岡支店 福岡市千代栄町 電話②代表4735

給水・排水・衛生設備・暖房設備
汚水浄化装置・都市廃物処理装置
株式会社
西原衛生工業所大阪店
大阪市大淀区中津南通二丁目五一番地
電話福島㊺3416～8番
東京事務所 東京都港区西芝浦三丁目一番地
電話三田㊺9371番

空気調和装置及衛生設備
設計施工
株式会社 **建材社**
大阪支店
大阪市北区中ノ島三丁目(朝日ビル九階)
電話北浜㉓6041(代)
本社及東京支店 東京都中央区八重洲三丁目七
営業所 名古屋市中区西万町二丁目一

温湿度調整装置、煖房、冷房、水道、搬送機設備　設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町三〇番地　電話大阪㉞ {(代表)0977 / 0978～9・0970

本　　社　東京都千代田区丸ノ内二ノ一〇　電　話　㉘　2631—4
仙台支店　仙台市新伝馬町六〇　電　話　7332
名古屋出張所　名古屋市東区東門前町三ノ六　電　話　⑨　2893

暖・冷房・空気温湿度調整装置

設　計　施　工

高砂熱学工業株式会社大阪支店

大阪市北区中ノ島3丁目3番地（朝日ビル7階）
電　話　北　浜　㉓　7641（大　代）
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和装置、各種冷凍機
設　計・製　作・施　工

東洋キヤリア工業株式会社
大　阪　支　店

大阪市北区堂島船大工町五三番地(毎日大阪会館内)
電　話　大阪㉞局8356　(代表)
本　社　東京都中央区日本橋兜町三丁目二四番地
出張所　名古屋・九州　工場　東京都足立区

煖冷房・水道衛生工事
設　計　施　工

株式会社 **栄　興　商　会**

取締役社長　中　山　俊　人

本　社　大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電　話　福　島　㊺　3391　～　4　番
支　店　東京都新宿区荒木町一九番地
電　話　四　谷　1324　番
出張所　神戸市生田区下山手通八丁目三三
電　話　元　町　④　5377　番

工業用及建築用各種石灰製造販売
小野田セメント特約販売店

樫野石灰工業株式会社
大　阪　支　店

大阪市北区曽根崎新地三丁目五十三ノ一
(市電桜橋停留所前)　電話大阪㉞1274～6
支　店・徳　島・神　戸・姫　路・東　京

PAINTING　CONTRACTOR

塗　装　工　事　請　負

株式会社 **林　塗　装　店**

TEL. 大阪 ㉕ **1756—7**・東京 ㉙ **1335**

陶管・ベンチレーター

株式会社 **三　幸　商　会**

大阪市北区曽根崎上一ノ四一
電　話　大　阪　㉞　3145

ヒ　ュ　ー　ム　管

リグノイド床・床材料

製造・販売・施工

福屋工業株式会社

本　店　大阪市西区南堀江上通一丁目卅一
電　話　新　町　㊸　3426～7

アーマーコート近畿総代理店

近畿建材工業株式会社

営業種目　防水美装塗料……アーマーコート
特殊防水パテ……パルカテックス
ラテックスペイント…スプレッドサテン

販　売　並　責　任　施　工
大阪市北区茶屋町33　電話大阪㊲3003番

電氣工事・土木工事
設計・施工

近畿電氣工事株式會社

取締役社長　佐　藤　　太

本　店　大阪市北区南扇町十二番地
電話大阪㉞7171－8番
支　店　大阪北・大阪南・京都・神戸・姫路・奈良・和歌山・滋賀
支　社　名古屋・広島・東京

HONEYWELL　YAMATAKE

冷暖房の
オートメーション

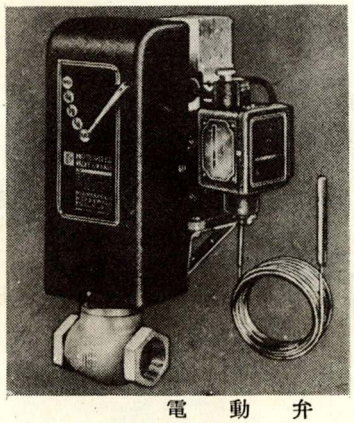
―営　業　品　目―

空気調和用調節機器（輸入）
温度調節器，湿度調節器，圧力調節器，動力弁，リレー等

マイクロスイッチ（輸入）

工業用計器・自動制御機器（製作・輸入）
流量計，温度計，液面計，圧力計，比重計，パルプ濃度計，
ダイアフラム，調節弁，バタフライ弁，パワー・シリンダー等，
計器盤，図示計器盤．

その他ハネウエル製品（輸入）

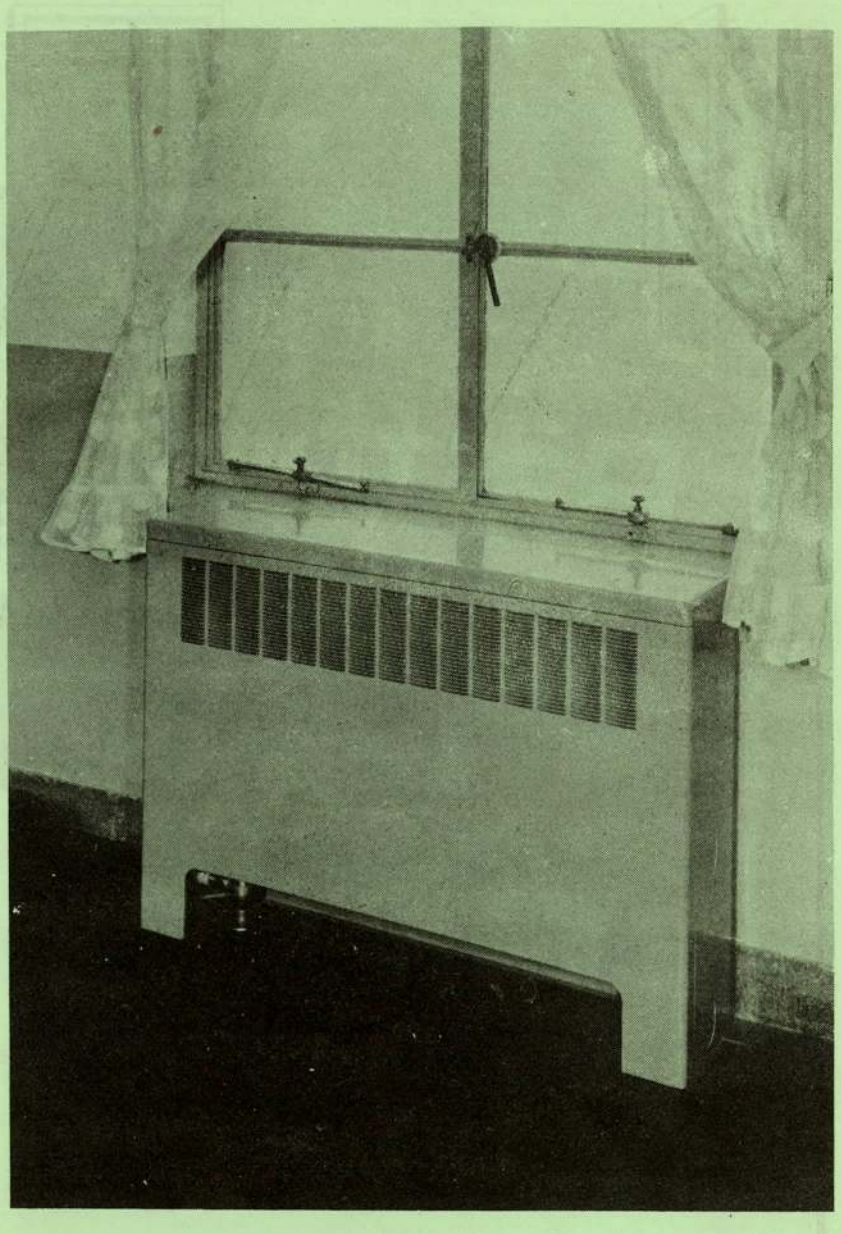

電　動　弁

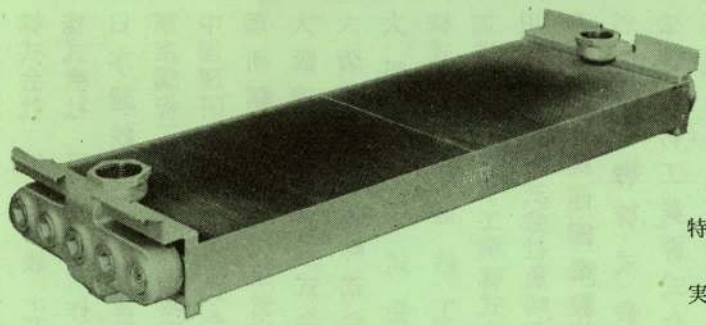
東　京・大　阪　**山武ハネウエル計器株式会社**　小　倉・名古屋

SINKO

CONVECTOR

（型録贈呈）





特　　許　No. 183929

実用新案登録　No. 451048
No. 464749

大阪市北区絹笠町 大江ビル－**新晃工業株式会社**－電話大阪㉞0136・0137・6749

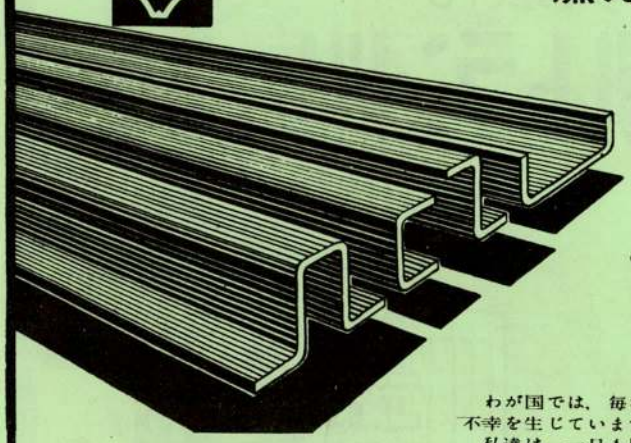
東京都千代田区丸の内三丁目仲四号館六－**東京新晃工業株式会社**－電話東京㉗5009・8809・6861



大阪支部　大阪市東区道修町1—3（花房ビル）　電話 北浜 ㉓ 4975番
支部長　岩住幸治郎

西日本規格サッシ株式会社
株式会社 岩住鉄工所
株式会社 汎建製作所
日本建鉄（株）大阪営業所
東京鋼板工業（株）大阪支店
中国理研サッシュ株式会社
理研鋼機（株）大阪営業所
大阪理研工業株式会社
大阪建材工業株式会社
大阪機工株式会社
株式会社 大阪鉄工所
加地シャッター工業株式会社
川鉄商事株式会社魚崎工場
合資会社 関西鋼業製作所
谷山鋼機株式会社
浪速建材工業株式会社
不二製作所大阪支店
栄進鋼業株式会社
麻村サッシュ工業株式会社
尼崎建材株式会社
三機工業（株）大阪支店
近畿車輛株式会社
昭和鋼機（株）大阪支店

燃えない家を造りましょう





わが国では、毎年火災のために400億円に近い莫大な損失と、大きな不幸を生じています。

私達は、一日も早くこのようなことから解放されなければなりません そのためには燃えない建築材料が必要です。

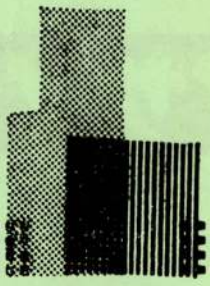
当社では、この要望に応えるために、最適の建築材料として、すでに欧米で大量に使用されている「軽量形鋼」を、当社川崎製鋼所の新鋭設備で生産しております。

この「軽量形鋼」は、軽くて丈夫な「薄鋼板」を冷間成型して、各種の形鋼を大量に生産するもので価格も低廉です。

富士製鐵の輕量形鋼









ヨーギヨーセメント

大阪窯業セメント株式会社

本社 大阪・支店 東京・名古屋・工場 大阪・伊吹

小野田

ONODA WHITE
PORTLAND CEMENT
白色ポルトランドセメント

建築の美装化

白色ポルトランドセメント

用　途
建築の内外面の仕上塗
装飾用・採光用
標識用・各種加工品



小野田セメント株式会社

社長　安藤豊祿

本　部　東京丸ノ内1ノ1・鉄鋼ビル
大阪支店　大阪梅田・第一生命ビル

アサノ　セメント

日本セメント株式会社

関西事務所　大阪市北区梅田町47番地　新阪神ビル6階　電話大阪（36）3351～6

本　　社　東京都千代田区大手町2丁目9番地
事務所　北海道・東京・関西・九州
出張所　仙台・名古屋・広島・高知
包装所　釧路・函館・青森・下板橋・横浜・新潟・名古屋・小倉

宇部セメント

普通セメント
超高級セメント
中庸熱セメント



（混合セメント）
宇部ポゾランセメント
（セメント混和材 Fly-Ash）
宇部ポゾラン

御一報次第
説明書急送

宇部興産株式會社



マツダ
高圧水銀ランプ

Toshiba

電球にない味　蛍光ランプにもない味
近代を彩る照明のパレットに
新たな一色を加えたもの……
それはマツダ高圧水銀ランプです

マツダ



マツダ高圧水銀ランプ用
投光器

水銀灯の投光照明は……

水銀灯独特の爽快な光色は，建物壁面に投光照明を与える時，ネオンやその他の電飾看板等とは別な，上品で常に新鮮な感じのすばらしい美的感覚が得られ，都会の美しさと品位を高めるに是非必要なものとなっています。

また水銀灯のもつ高い発光効率は，例えば400Wのもので一般照明用電球の1KWのものに匹敵するので，広場や鉄道操車場，その他屋外作業場の投光照明に，明るく経済的な結果が得られます。

東芝商事株式会社　大阪支店 大阪市北区堂島浜通1の15　電話大阪(36)1101

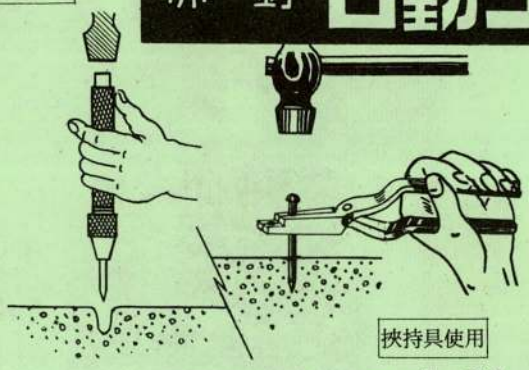
コンクリートに！煉瓦に！

PAT.P 31376 33452 32153 他10数件

ハンマーで簡単に打込める釘

赤い釘 日動コンクリート釘

F式打込チス



挟持具使用

日動コンクリート釘はコンクリートや煉瓦に，木材に打込むと同様にハンマーで簡単に打込めるもので，その能率のよいこと，碇着の確実，そして経済的なことは実に驚嘆の的で正に革命的な釘の出現です。

「詳細については御一報次第カタログを進呈致します」

製造元 株式會社 日本動力安全機製作所

	本社工場	大阪市北区東堀川町25（三原ビル内）	電話 大阪（35）6331～3
	東京事務所	東京都千代田区神田佐久間町3の32（内善ビル内）	電話東京下谷(83)3831・7311・9954
	仙台出張所	仙台市元鍛治町2番地の3（小河原会館）	電話 仙台（3）1529・(2)5413
代理店	株式会社日垣本社	大阪市南区安堂寺橋通2の3	電話 大阪（26）5091～6
	日動電工株式会社	大阪市北区東堀川町15～5	電話 大阪（35）6334～5
	湯浅金物株式会社	大阪市南区末吉橋通2の10	電話 大阪（26）1831～6
	太平商事株式会社	大阪市東区北浜3丁目5	電話 大阪（23）5831(26)2037

大和式組立

特許登録弁409476号

パイプハウス

特徴

- 組立解体に特別の技能を必要としない。
- 簡易不燃構造である。
- 軽量鉄骨構造なので費用が低廉で、耐久年数が高い。
- 骨組、外観が美麗である。
- 種々の建築に利用でき工期が短い。

軽く・・・
強く・・・
簡単に建つ

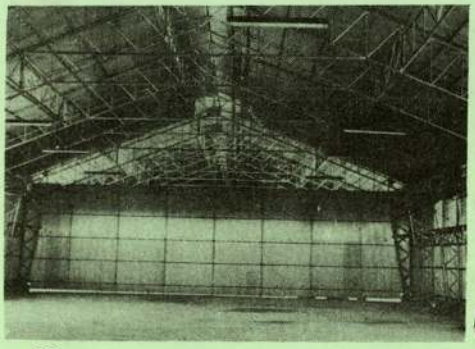
最近の主なる納入先

日本国有鉄道公社
日本電信電話公社
建設省
農林省
東京都庁
大阪府庁
電源開発株式会社
石油資源開発株式会社
松下電工株式会社
株式会社間組
大成建設株式会社
其ノ他

主なる用途

倉庫、ガレージ、工場、事務所、工事現場事務所、飯場、簡易住宅、ビーチハウス、バンガロー

本パイプ構造を使用した240坪の倉庫内部



大和ハウス工業株式會社

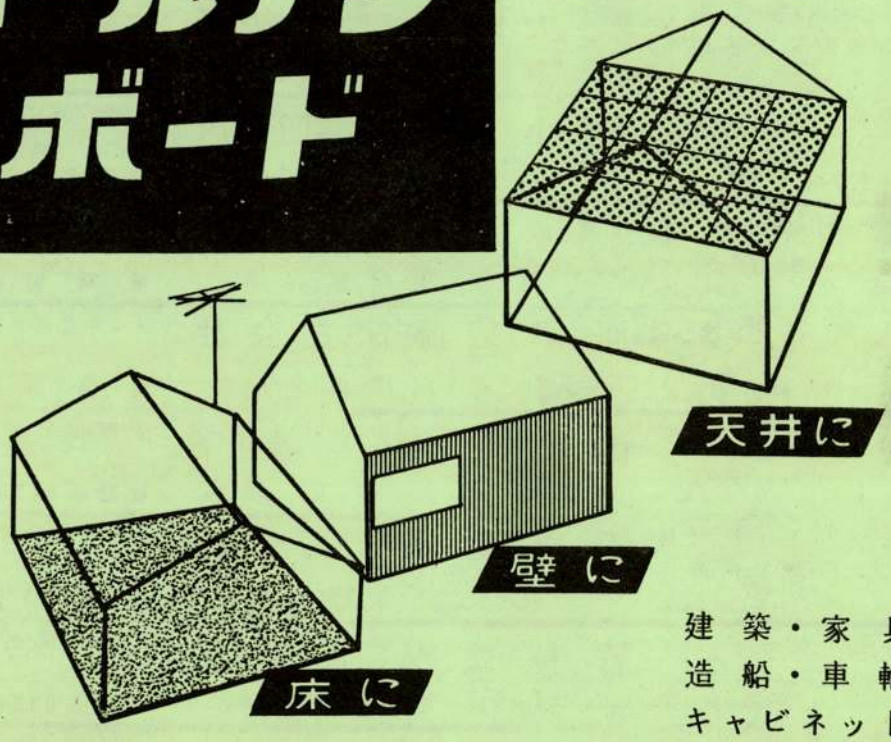
本社	大阪市南区日本橋筋2丁目39	電話(64)3966・8886番
工場	大阪市都島区中野町1丁目1	電話(35)1140・6373番
東京出張所	東京都港区赤坂青山高樹町6	電話(40)2327・5802番
名古屋出張所	名古屋市中区南久屋町2丁目7	電話（24）5508番

▶ 新しい設計には丈夫で使いやすいハードボード

JISA 5907　1957　1号

ゴールデンボード

最新の設備
最高の品質
最大の生産量



建築・家具
造船・車輛
キャビネット

・カタログ御入用の節は御遠慮なく御申越下さい

日本ハードボード工業株式会社

本社　名古屋市中区広小路通6.—3　住友銀行名古屋ビル　電話本局㉓代表1281
工場　名古屋市港区汐止町　電話　築地局 ⑥ 1970・2665

代理店（イロハ順）

伊藤忠商事株式会社・安宅産業株式会社
三菱商事株式会社・住友商事株式会社

Golden BOARD NB

謹賀新年

昔からの建材店ゆるがぬ信用　　建材信和会（いろは順）

岩元式スカイライト
岩元式通風装置（ベンチレーター）
その他建築材料

岩元工業株式会社
社長 岩元熊雄

大阪市東成区東今里町四丁目40
電話 ㊽ 0616～7

Ⓢ印ルーフイング・フエルト
Ⓢ印砂付ルーフイング
Ⓢ印石綿ウエルドルーフイング
陸屋根・地下室防水及耐酸工事　責任施工

日新工業株式会社大阪支店
支店長 井場績

大阪市西区新町北通一丁目40
電話 ㊸ 5281～3

衛生陶器・同附属器具
製造販売

東洋陶器株式会社大阪営業所
所長 増田宏

大阪市東区伏見町五丁目3
電話 ㉓ 4518～9・1424

東洋フレンチ瓦・S型瓦
東洋スパニッシュ瓦
東洋日本型瓦・陶器瓦
製造販売・責任施工

東洋洋瓦株式会社
社長 青木友一

大阪市天王寺区大道三丁目125
電話 ㊼ 3076～8

暖冷房・給排水・換気・衛生
汚水浄化装置・大正便所
設計・施工

株式会社大阪城口研究所
社長 城口庸平

大阪市北区高垣町1
電話 ㊲ 7575～7

建築金物
鉄板・棒鋼・型鋼
ガス圧接

株式会社小野弥商店
社長 小野甚蔵

大阪市西区立売堀北通一丁目29
電話 ㊸ 1212・1667

日進式軽量鉄骨
日進式リブラス
日進式メタルラス
日進式クリップ

株式会社奥村重兵衛商店
社長 奥村重兵衛

大阪市北区木幡町56
電話 ㉞ 4131～4

室内装飾設計施工
窓掛・リノリューム・アスタイル
オリエンタルクロス・ニッポンクロス
カラークロス製造発売元

河津装飾株式会社
社長 河津喜之助

大阪市北区堂島上一丁目24
電話 ㉞ 1351～3

耐酸防水工事
ポリエステルレヂンライニング
エポキシレヂンライニング
耐酸塗料

耐酸化学工業株式会社
社長 松井邦彦

大阪市北区高垣町80
電話 ㊱ 0178～9・4161

石灰・セメント・壁材料
大阪窯業セメント（株）代理店
コガネライト（蛭石）製造販売

玉置産業株式会社
社長 玉置孝太郎

大阪市南区鰻谷仲之町25
電話 ㉗ 6675～7

一般塗装工事
請負業

竹林塗装工業株式会社
社長 竹林昭二

大阪市北区茶屋町38
電話 ㊲ 0564～5・9932

各種硝子工事一式
建築用特殊硝子工事一式
請負

株式会社村田硝子店
社長 村田経政

大阪市南区北炭屋町7
電話 ㉗ 4580・3367

艶出ケントク（白木・家具・塗物用）
液体ケントク（フローリング・アスタイル・リノリューム用）
フロアオイルケントク
床清掃請負・掃除器具販売

株式会社ケントク
社長 鈴木清市

大阪市東淀川区新高南通一丁目14
電話 ㊴ 0864～6・1416・1658

建築金物・建具金物
サッシュ金物
製造販売

株式会社日垣本社
社長 日垣太市郎

大阪市南区安堂寺橋通二丁目3
電話 ㉖ 5091～6

タイル工事一式

株式会社平田タイル
社長 平田伊三郎

大阪市西区阿波座中一丁目5
電話 ㊽ 1003～5

専売特許　ウカ式化学防水工事　グラウチング防水工事
グナイト工事　アスファルト防水工事
専売特許　薬液注入土壌硬化工事

株式会社 **大阪防水建設社**

本　社　大阪市天王寺区餌差町42番地　電話南㉕2595番
出張所　名古屋市中区和泉町一丁目九番地　電話本局㉓5075番
〃　神戸市兵庫区神田町四三九番地　電話元町④6930番
〃　東京都渋谷区千駄ヶ谷二丁目四八〇番地　電話青山㊵2432番

防水・防熱
石綿スレート工事

株式会社 **井上淨夫商店**（シズヲ）

本　社　大阪市西区江戸堀下通り一丁目七　電話㊹3520・4564・1005
出張所　東京都中央区日本橋室町一丁目一五　電話㉔5715

最古の歴史・最高の品質

カーペット・タフトン　緞通・ドレープ

住江織物株式会社

本　社　大阪市南区安堂寺橋通四ノ五五　電(25)0081～7
東京支店　東京都港区芝西久保桜川町　電(43)7406～9
出張所　札幌・名古屋・広島・福岡

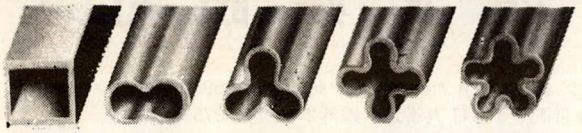
タイル・衛生陶器・附属金具

株式会社 平田タイル

本店・大阪市西区阿波座中通一　電話新町(53)1003・1004・1005番
支店・京都・神戸・広島　営業所・芦屋・岡山

近代感覚と安くて丈夫な異型鋼管

デザインパイプ



建築．家具．装飾．スズラン塔．柱

HOSHI PIPE

▷軽さと精度と美しさに優る

▷丸型に較べて縦，横の力が強力である

▷材質は引抜鋼管，電縫管，瓦斯管

▷自⅜～至6吋迄製作在庫豊富

星金属株式会社

大阪市西区立売堀北通二丁目二〇

電話 ㊸ 5563・2469

軽量鉄骨
軽量鋼製窓枠
の
設計・加工・販売



新鋼建設工業株式会社

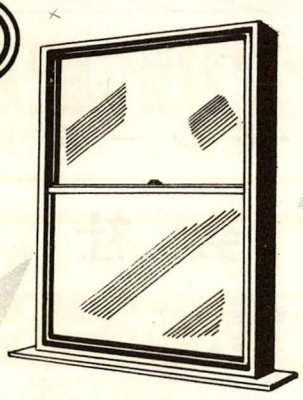
取締役社長 吉田信武

大阪市西区新町通2丁目25 電話 ㊸ 609・6575

工場 神戸市東灘区本庄町青木古堂町53 電話 神戸⑧616

広島県御調郡向島町立花3010 電話 尾道2868 向島西19

大阪市西区阿波座中通2丁目 電話 ㊸ 504・6478



STEEL DOOR SASH

営業品目 鉄道車輛の製造
土木建設機械の製造
建築用鋼製建具扉の製造

布施市橋本一番地の一

近畿車輛株式會社

TEL ㉒ 2231代表直通 ㉒ 2434

輸送機製作

エレベータ・コンベヤー
ホイスト・リフト・クレーン

設計・製作
据付・修理

日本エレベータ工業KK

大阪市大淀区天神橋筋六丁目 天六阪急ビル

TEL 大阪 ㉟ 3812・4987・9339・7071～9

風雨に強く
和瓦より安い
だいわ
大和洋瓦
発売元
大仏組
大仏瓦・各種和洋瓦
工事請負一式
本店 京都市東山区今熊野池田町九 ⑥3555
大阪営業所 大阪市東区内淡路町一丁目 ㉔ 975

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売
建築陶器の百貨店
株式会社 吉田芳雄商店
大阪市北区南森町交叉点
電話堀川㉟3402・9034

タイル衛生陶器
販売と施工
奉仕感謝の店
株式会社 川岸窯業
大阪市西区靱南通二の二五（市電靱南通電停前）
電話 ㊹ 2571・2764 番

株式会社 矢橋大理石商店
大阪出張所
大阪市東区高麗橋二丁目九 野村ビル五階
電話 北浜 ㉓ 4257 — 8 番

特許植物性 型枠離剥塗料
サンヒット
関西代理店 株式会社 金剛商會
大阪市西淀川区野里町1231 阪神国道電車 野里電停前
製造元 東京 坂巻サンヒット商会 電 淀川㊼0417・4091

雨水浸入剥落防止
耐震耐風
安定軽量
ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町二丁目七三 電話(64)五六五
ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾配最適軽量 水止付(空葺)瓦

Acoustic Tex
吸音テックス
株式会社 室谷商店
本社 神戸市生田区長狭通四ノ一地産ビル
TEL 三宮 ③ 0881 ～ 3
支店 大阪市北区絹笠町五〇 堂ビル5階
TEL大阪 ㊱2021・3486・1141

燃えない建築資材
タイガー印
耐火ボード
石膏デスボード
タイガートーン
絶対に亀裂を生じない劃期的下塗壁材
Y.N石膏プラスター
キーンスセメント
各種焼石膏
吉野石膏大阪支店
大阪支店 大阪市西区土佐堀通1—1(大同ビル)
電話（44）3694・0131
本社 東京都丸ノ内・三菱東九号館四号
電話千代田（27）0701—2・7482—3
九州営業所 福岡市大字麦野260 電話西(2)7420

標準セメント防水材・特許ニッポン
特許ニッポン防水液・急結液一号（噴水急止）
二号（湧水防止）・姉妹品粉末ニッポン
施工指導並ニ責任模範施工
黒川化学工業所
（国立大阪工業試験所創製）セメント防水材特許権実施工場
（大阪営業所）北区芝田町六八　電話北㉞7916
（本社・工場）神戸市灘区住吉町反高林1876・
御影 ⑧ 2723

風雨に強い 平安瓦
合資会社
佐村木商店
実用新案
営業所　大阪市東区京橋前之町二　各種瓦葺工事請負業
電話 ㉞ 1528

耐久力鋼板に勝る耐酸被覆鋼鉄板
浪板・谷樋・水切 軒樋
排気ダクト・ベンチレーター
PATENT Standard
ニュースタンダードメタル 日本建築協会優良証明受領
大島応用化学工業株式会社
STANDARD METAL
本社・大阪市城東区野江東之町4丁目 電話 城東(33)4481
支店・新居浜市・電話 新居浜327・938　出張所 四日市市 電話四日市65 ・広島市 電話南(4)2473

ヨツメアコスボード
日本楽器製 高級合板
タムテキス
ヤハズラス
フローリング
田村商會 建材部
神戸市生田区栄町通2ノ39(安田火災ビル)
電話 神戸 ③ 0591～3番

窓掛、緞帳、日除、壁紙 室内装飾 絨氈、舗床材一般
東洋レーヨンのナイロン緞通と絨氈 発売元
亀井株式會社
大阪市東区南久宝寺町四丁目(心斎橋筋)
電話船場 (25) 1353～5番

経験と技術
Y.C.コンベス(リグノイド)
ゴムタイル
プラスチックタイル
スポンヂシート
アスファルトタイル
大阪コンベス建材社
大阪市北区浪花町三五　電話豊崎㊲6760・7063

良心的な工事と材料

アスファルト防水工事・耐酸工事

ブリヂストンの エバーソフト

最も進んだゴムのクッション

志垣の 明正社

大阪市北区樋上町45

TEL (34) 8157・8158・8159

N.G.C式

N.G.インシュライト断熱材製造発売元
メタリヤンメッシュD.M38番責任施工
責任施工　米国パブコ.コンパウンドアスファルト販売

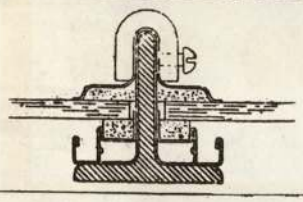
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルトモルタル工事

内外工業株式会社

脇山静夫

本社　大阪市阿倍野区旭町一ノ五一　電話㊸3434～6
工場　大阪市阿倍野区旭町二ノ六六

坂本式スカイライト



営業種目
坂本式 スカイライト 坂本式 ベンチレーター
坂本式 連続通風装置 一般建築鈑工場

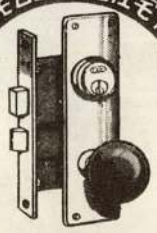
坂本商会大阪出張所

大阪市東区平野町1～4 電話 北浜㉓4643
本社 東京都中央区日本橋江戸橋1―11(明治ビル)
電話千代田㉗7266・9859・9918
工場 東京都墨田区寺島町2―50
電話城東㉘3918

坂本式ベンチレーター



日本住宅公団・公営住宅御指定



40年の技術の結集.信頼に応えるゴール製品!

シリンダー扉錠

GOAL

株式会社
谷山製作所
大阪市東淀川区三津屋北通四　電話豊崎㊲3117・7724

シリンダーレバーハンドル錠
押ボタン式シリンダー錠
アンチ式シリンダー錠
シリンダーナイトラッチ
シリンダー抽斗錠
各種高級彫込錠

石綿セメント製品の最高水準を行く!!

アスベストバリヤ (硬質石綿板)

Asbesto. Barrier

建物内外壁、間仕切、天井扉
電気室、発電所、配電室、製鋼
ガラス工場の壁、製糖、製油
製薬工場の床スカート壁など
に最適

呈カタログ

泉石綿工業株式会社

大阪市北区北同心町1丁目11
電話堀川㉟3442

スチールサツシュ
スチールドアー
スチールシヤツター

東京鋼板工業株式会社

大阪支店
大阪市北区絹笠町18番地（聚嘻ビル三階）
電話 北㉞0621・0628
本社及工場
東京都荒川区尾久町5ノ1.000 電話荒川㊽8131-4



清
各種鋼鐵風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・ガス風呂

田中風呂製作所

大阪市浪速区元町一丁目七四二 但シ阪堺電停前
田中風呂発売元
電話 戎㊹ 5313・8128

暖・冷房・空気温湿度調整装置 設計施工
各種送排風機・エロヒンヒーター・キャビネットヒーター
冷却塔・各種レヂスター・アネモスタット類製作

藤本鉄工株式会社

本社並工場 大阪市旭区赤川町三丁目二八 電話㊸1264－6
梅田営業所 大阪市北区神明町五〇 電話㊱1144－5
名古屋出張所 名古屋市東区駿河町一丁目三 電話㊱4594・5118
寝屋川工場 寝屋川市大字太間一九五 電話(寝屋川)0404

白蟻

特許

松平式白蟻殺滅予防所
奈良市南城戸南方町28 電話奈良4098
(近日移転先)
奈良市登大路二番町（博物館前）電話奈良4098
出張所 奈良市春日町尾田組内 電話 6011・6012
本部 高知県宿毛市宿毛町2639

FUTABAYA DECORATORS, LTD.

建築物船舶等造作工事
家具・建具・室内装飾工事 設計施工
内外織物・敷物類一式
（創業大正7年）

二葉屋装備工業株式会社

若
取締役社長 若林繁吉
大阪市大淀区本庄川崎町2の6
（天六電停西北2丁）
電話・豊崎㊲3321～3・3630

吸音多孔合板
ベニヤトーン
日楽の繊維板
ヤマハボード
瑞典のハードボード
エロナイト
二重色調浮出杢
カラーボード
ポリエステル化粧板
ポリプライ
防音と色彩調節板
リズムウード
高級接着剤
ポリゾール
九ツの特長を誇る
九徳天井板



モデルルームへどうぞ

一歩でも時代感覚に先駆しようと努力しています

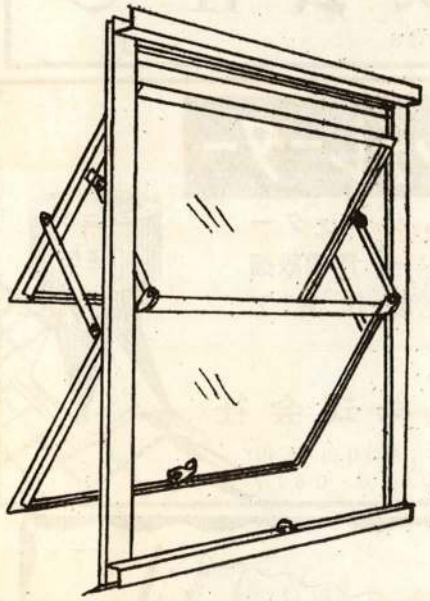
大阪市浪速区
幸町通3丁目20
浪速合板
電話 新町(53)
2201－3番

工場 大阪市住吉区西加賀屋町4丁目81・電話 住吉(67)5109

三高式　ドアーハンガー　　スチールサツシュ
三高式　オペレーター　　スチールドアー
三高式　重量戸車　　スチールシヤッター

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社　三高製作所
本社工場　大阪市東区谷町五丁目二八　電話東㊾2969・0444



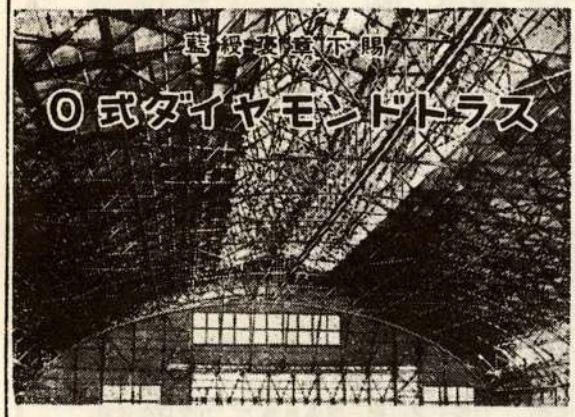
一般製品　スチール　サッシュ
スチール　シャッター
スチール　ドアー

独特製品　汎建型上下げ窓
双脚の四面が摺り合され自然に気密度が高い。
神高型竪形辷出し窓
両開きや片開きに代る堅牢で耐久な構造。
連動突出し辷出し窓
辷出しと上釣りとが完全に平衡連結され操作軽快、開閉確実、体裁優秀な新型。
逓増減分銅付きシャッター
大型シャッターも軽くはやく開閉出来る。

新規製品　普及型上吊り引違い窓
質実堅牢で最も廉価・校舎宿舎などに最適

株式会社　汎建製作所
大阪市此花区恩貴島北之町十一番地　電話　此花㊻2903・4461

鉄材が少くてすみ施工簡易な格納庫・工場・体育館の建築には
"ORIMOTO" DIAMOND TRUSS

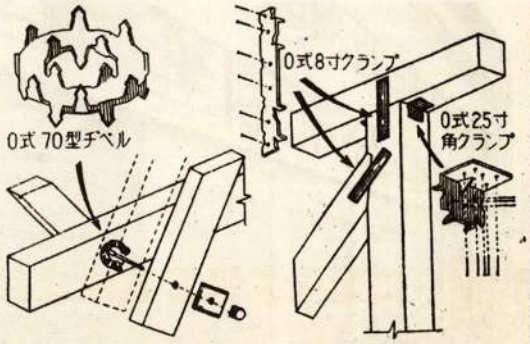


設計の御依頼に応じます（施工は御自由です）
カタログ及び設計参考資料贈呈

考案　織本建築設計計算事務所

官公庁御採用　耐震耐風木材接合金具
住宅、工場、学校、集会場、体育館にまた2階梁に

PAT O式チベル
PAT O式クランプ



販売　織本特殊構造研究所
東京都中央区日本橋綱揩町3～2（水天宮交叉点角）TPL（67）6443・7007・7062

焼成

ヒルコン

絶対廉価

耐火・断熱・軽量・保温・保冷

吸音・防音・結露防止

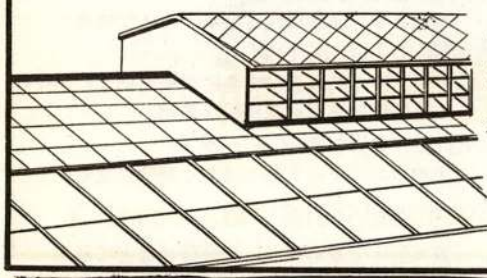
大阪市東区高麗橋3－7

日宝蛭石株式会社

TEL (23) 1601-5627・5628

岩元式

スカイライト並固定筒型コンチニアスベンチレーター



サッシュ、ドアー、シヤッター
伸縮扉、オペレーター、門扉鉄柵
其他金物一式製作施工

カタログ進呈



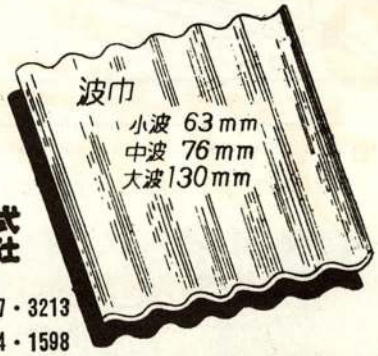
岩元工業株式会社

本社 大阪市東成区東今里町4の40
電話㊽0616・0617

光り波型ガラス

ダイニチライト

ポリエステル樹脂
硝子繊維強化板
6尺×2尺4寸(波型)



製造元 大日本硝子工業株式会社

大阪支店 大阪市北区玉江町2～4（三菱倉庫ビル）電話土佐堀㊹1597・3213
本　社 東京都中央区銀座7～3（朝日ビル）電話銀座㊲2324・1598



大阪府営堺宿院店舗付共同住宅

戸締ノ改革

PATENTS No:414855 No:414856 No:35528

店舗、倉庫、ガレージ等ニ最適デス。開閉ハ片手ニテ軽ク揚ゲ降シ致シマス。価格ハ至極低廉デス　御一報係員参上、カタログ進呈

専門製作
株式会社日本シャッター製作所
大阪市東淀川区田川通6丁目38
電話豊崎㊶439

豊国セメント株式会社

本　社　福　岡　県　苅　田　町
事務所　小　倉・大　阪・東　京

構　造　計　算
特殊構造設計

株式会社 平田建築構造研究所

所長　平　田　定　男

大阪市北区堂島上三丁目十二番地（永和ビル内）　TEL㊱ 5071～4

UKS
プラスチックス建材
登録商標
ウツボライト

ウツボライトM
ポリウレタンスポンジの吸音内装材

ウツボライトS
ポリスチレンスポンジの吸音断熱内装材

材料販売並責任施工

靱興産株式会社建材部

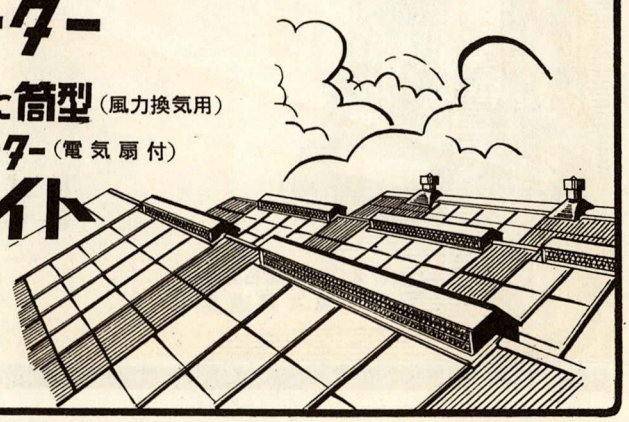
大阪市北区小深町一番地の一　TEL㉞ 0129

内外式ベンチレーター

性能を誇る　コンチニアス並に筒型（風力換気用）
バーチカル・ベンチレーター（電気扇付）

内外式スカイライト

一般硝子屋根＝ワイヤ波型硝子屋根
設　計　施　工
株式会社 内外土木建材社
大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）
電話土佐堀（44）3983番 4396番



コペンハーゲンリブ

商月報無料送呈

井田ベニヤ
井田商事株式会社
大阪市浪速区西円手町一〇一七番地 湊町駅貨物八号門前
電話 (53) 4890・(26) 4809

鈴木式防火シヤタア

鈴木シヤタア工業株式会社大阪出張所

株式会社 鈴木シヤタア商会

大阪市北区茶屋町三十三番地
電話 豊崎㊲98・5837・8729

冷蔵庫防熱工事
耐酸モルタル工事

アスファルト専門工事

アスファルト防水工事
アスファルトタイル工事
各種床工事

大阪耐酸工業所

大阪市北区浮田町82番地　電話豊崎㊲1333番

ボッシュ電動式ハンマー



強力・堅牢・高能率

穿孔・削切兼用・(電灯線使用)

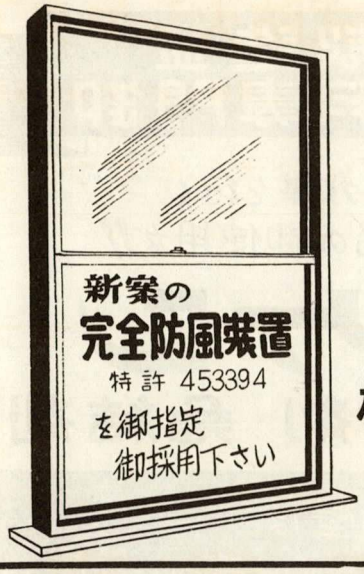
コンクリートの穿孔，削切
目粗しに高性能を発揮します。

独乙ロバート・ボッシュ会社製
日本総代理店

株式会社 峰岸商店

大阪出張所
大阪市西区江戸堀上通1丁目8番地
電話土佐堀㊹0842・2181

カタログ本誌名記入
お申越次第進呈



不二サッシ

◦機械設備の充実　◦絶対責任製作
◦卓越せる技術　◦堅牢軽快優美

株式会社 不二製作所大阪支店

大阪市西淀川区御幣島町中三ノ四
電話淀川㊼1220・1454～6・4414～5
本社及び工場　川崎市中丸子一三五　電話田園調布㊷4261～5

マヂック　ペイント

ゼラン

JELLUN

ゼリー状壁塗料

特　長

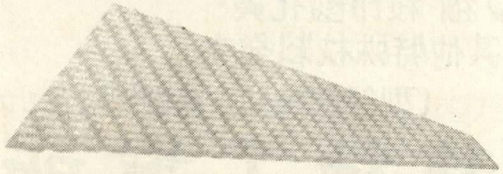
- 1回塗りで肉厚仕上げが出来る。
- 刷子，ローラー，スポンヂでも塗装が容易で，垂れたり流れたりしないので衣服を汚すことは殆どない。
- 乾燥が速い（指触30分）ので作業が容易である。
- ゼリー状のため使用前攪拌の必要がない。

大　阪　**日本ペイント**　東　京
名古屋・福岡・札幌

MIZUSHIMA

MOP（モップ）
MAT（マット）
WAX（ワックス）

100万の建物を美しくする



近代建築の玄関に
新しいデザインのマット

★洋式清掃用品専門店★
信用と品質を誇る店
OSAKA ミヅシマ KYOTO

☆ユービー金属マット・五輪印床油☆
☆ユービーゴムマット・五輪印モップ☆
☆ラインゴムマット・五輪印マット☆
☆カラーラインマット・五輪印ワックス☆
☆ニューラインマット・各種手入用品☆
ホーム・ソフト・モップ　発売元

株式会社 **水　島　商　店**
MIZUSHIMA CO. LTD
大阪店・大阪市西区北堀江上通一丁目
TEL ㊸ 3514 8246
京都店・京都市中京区蛸薬師烏丸西入
TEL ② 5363 0214
工　場・京都市右京区西院松井町八
TEL ㊹ 1697

SK

特殊壁材製造並
右官材料専門卸

セメント防水剤は世界的水準を行く
JIS合格品の御使用を!!



シンケン
防水剤・急結剤

近代建築の和洋室内壁は
防音・保温・落ちぬ・趣味豊かな塗壁材

いすゞかべ

劇場・洋室・学校講堂・公会堂等の内壁には防音・保温の(塗り着けるテックス)

チェリーウオール

(新発売) 純日本趣味の塗り良い優雅な壁

錦壁

セメント・石灰・プラスターの着色剤は純鉱物性・絶対不変色

チェリーカラー

セメントの(アク)で御困りの場合は

シンケン

セメント・アク止剤の御使用を

水溶性特殊接着剤シンケン糊・桜印酸化黄・
ラスヒゲコ・末広布連・其他特殊材料発売元

(型録御通知次第御送附致シマス)

株式會社新興建材工業所

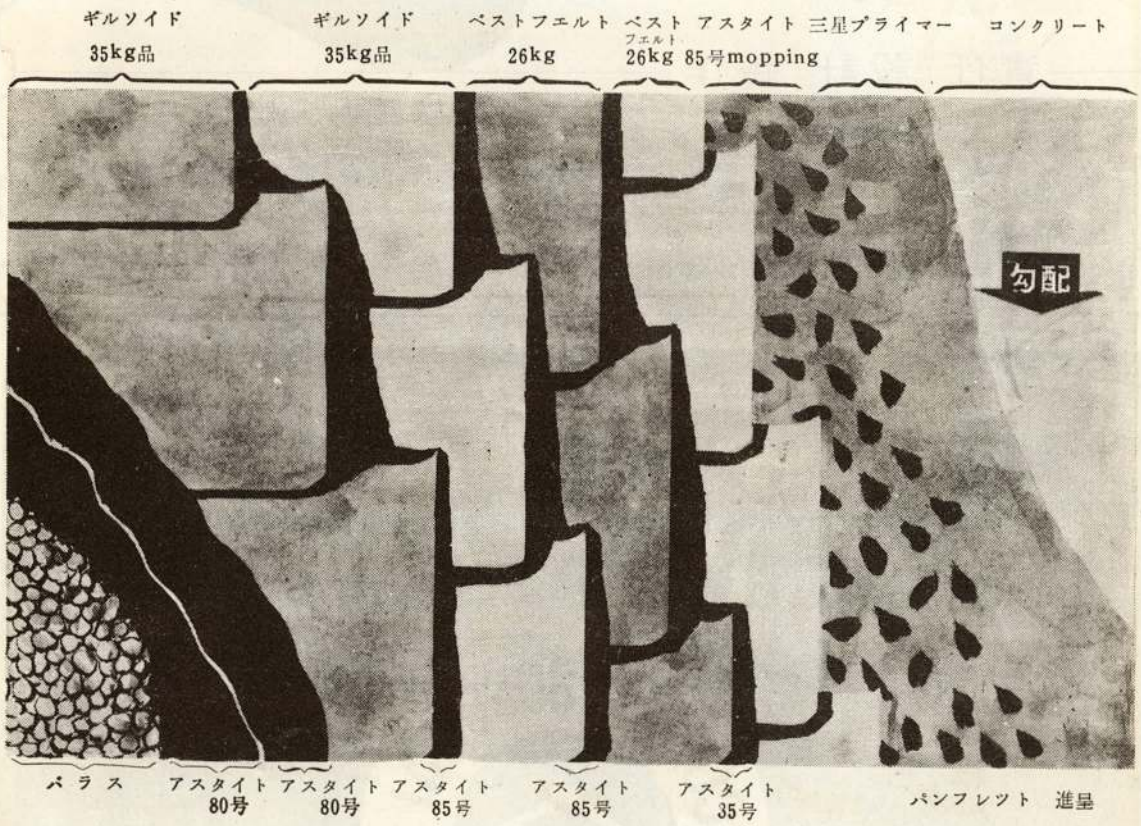
大阪市西区四ツ橋・電話新町(53)1988・9720番
工場 大阪市住吉区東長居町36・電話住吉(67) 212番

勾配別の

画期的アスタイト防水

特殊アスファルト(アスタイト100号 85号・80号・75号・25号)

(年限仕様施工図例　1/100〜1/12勾配　仕様番号　GC—15)



建設省阪建22号認可

出資金 参百六拾万円

三星 西日本アスファルト事業協同組合

本　　部　大阪路市東区淡町二丁目五十三番地
分　　室　大阪市西区京町堀上通一ノ一四　TEL㊹1773〜5
北陸・東海・近畿・中国・四国・九州

優秀技術を誇る！

麻村の

スチール
サッシュ
ドアー
シャッター

責任・設計・製作

麻村サッシュ工業株式会社

本　社　大阪市城東区野江東之町一丁目十二番地
第一工場　大阪市城東区野江東之町1—11
第二工場　大阪市城東区野江西之町1—15
営業所　名古屋市中区下日置町2—25(日置ビル内)
出張所　金沢・広島・松山
電話大阪㉝1859・2854・5272・8016番
第三工場　大阪市城東区古市大通2— 28番地
第四工場　大阪市城東区天王田町1—171番地
電話名古屋㉜4006

黄綬褒章受賞

特許 奥山式 熱工法 冷工法 綜合防水層

カッパー防水帯

C.F #38

COPPER-BOSUITAI
OAM
TRADE・MARK

カッパーメッシュ
コーパータイト

耐酸耐油工事
アスファルト工事一般

製造元 奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座西8丁目3番地・電話 銀座 57 2703 4・2370・4064・0264

化学工場の建物を酸蝕から守れ！



最新式耐酸レヂンライニング
ポリエステル系
レヂンライニング
各種合成樹脂ライニング
サルファ系煉瓦目地材料
特殊アスファルト耐酸工事

設計・施工には是非弊社に
御相談願います



耐酸化学工業株式会社

大阪市北区高垣町80電話大阪(36)0178・4161(代表)

浪建式

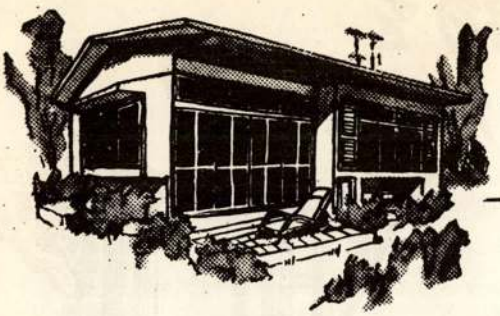
スチールサッシュ・ドアー
シッヤター・オペレーター
—製造販売—

日満ゴムタイル
全国総代理店
責任施工

大正十四年
創業

浪速建材工業株式會社

本社・工場・大阪市城東区野江中之町一丁目九番地　電話城東㉝1171～3番
東京営業所・東京都中央区銀座東六丁目木挽館ビル六号館607号室　電話東京㊺4611
福岡営業所・福岡市天神町三番地(サンビル内)　電話福岡④8462番
出張所・大分市栄町下市三一七番地　電話大分1366番



家を建てたら・・
ツヤ出しケントク

板の間・廊下に

新築に

水拭きではすぐに黒ずみニス・ラッカは白木の味をなくし、はげると見苦しくなりますが、すべらぬ白木艶出ケントクを月に一～二回ぬりこめば毎日はカラ拭きで新築そのまゝの美しさを保ちます。



板の間廊下のすべらぬ白木ツヤ出し

ケントク

白木液体ケントク一升罐四九〇円で約十五坪、丸罐半ポンド二九〇円で約五坪みがけます



大阪市東淀川区新高南通 1—14　KKケントク　電話㊽1658・1416
0864～6





サッシ

ボンデライト

自家設備一貫作業

大阪建材工業株式会社

営業所　大阪市南区九郎右衛門町２１番地　TEL. 南(75) 507・3137・3138
本社工場　堺市松屋町１丁目６番地　TEL. 堺　4800・4801・1586
出張所　名古屋　TEL. 東(9)４８８４　金沢　TEL.金沢(3)3427・3428

JIS合格モルタルコンクリート用

紫綬褒章に輝く

特許特マノール防水剤

特許マノール急結剤　特許マノール接着剤

新日本メタルホームKK推奨品

責任・施工・請負

株式会社 **油脂化工社**

取締役社長　矢中龍太郎

本社　東京都品川区二葉町1—441　電話荏原㉘1715

大阪営業所　大阪市東成区西今里町2—48　電話㊲4765・0063

セメント分散剤

リグナール

カタログ●見本進呈●

.....の使用で　セメント節約

リグナールを使用することによって1m³当り材料費が180円節約となり尚且つ強度が10.2%～6.4%増進することにより非常に経済的な施工が期待し得る

神戸市建設局生コンクリート混合所

	W/C	重量配合	スランプ cm	圧縮強度 σ7	圧縮強度 σ28
プレーイン	65%	12.3：3.8	18cm	104	192
リグナール	60%	12.5：4.5	22cm	120	245

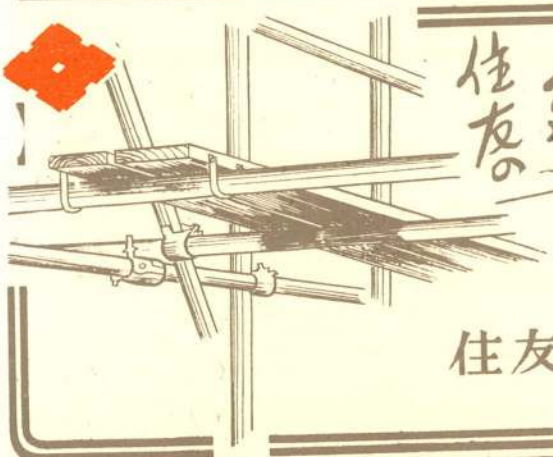
10%—15%O.K.

神戸材料株式会社

神戸市長田区西代通四丁目十八番地

TEL ⑦ 3871

工場　神戸・大阪



住友の　建材足場用鋼管

1．組立や解体が簡単で速くできます。
2．強くて軽く、安全確実な足場ができます。
3．腐蝕せず永年使用できる為、木材足場より経済的です。
4．工事場が整然としてスマートで、都市の美観を損じません。

住友金属工業株式会社

大阪市東区瓦町4丁目31

東京都千代田区丸ノ内（新丸ビル）

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤

ウォータイトB号

CEMENT WATER-PROOF WOTAITO

仕様書型録贈呈

株式会社 日本セメント防水剤製造所

本社　兵庫県宝塚市高台上の池北28—1　電話宝塚2153

工場　尼崎市難波本町1—34　電話大阪(48)8544(代表)

出張所電話　東京(45)4637・仙台(3)0721・名古屋(32)1331

ウォータイト式防水工事代行店電話　高山工業 東京(25)0161～3・安藤工事 福岡(3)5765・大三工業 高松6710

第三種郵便物認可
昭和三十三年一月廿五日発行（毎月廿五日発行）

高圧 朝日スレート

米国式 朝日コンクリートブロック

A.S.K.

朝日石綿工業株式会社

大阪営業所　大阪市北区神山町四六　電話 大阪 ㉞ 7236代表～9 2095夜間専用
本　　社　東京銀座七.営業所-東京.横浜.名古屋.岡山.九州.北海道
工　　場　東京.横浜.山梨.名古屋.大阪.岡山.門司.宮城

吸音サンライト

厚さ	大きさ	孔	ピッチ	孔数
1.3分 1.5分	1尺角	5 m/m	15 m/m	18×18
1.3分 1.5分	1.5尺角	9 m/m	23.8m/m	18×18

1.3分厚¥1,400（坪）1.5分厚¥1,600（坪）

接着剤はセメダインKKの
サンライトセメダイン

硬質繊維板（ハードボード）

サンライト

製造元 日本レイヨン株式会社

厚さ	標準サイズ	重量(枚)	価格(枚)
1.3分（4m/m）	3尺×6尺	6.0kg	¥ 390
	4尺×8尺	10.7kg	¥ 850
1.5分（5m/m）	3尺×6尺	7.7kg	¥ 620
	4尺×8尺	13.5kg	¥ 990
2.0分(6.5m/m)	3尺×6尺	10.5kg	¥ 800
	4尺×8尺	18.5kg	¥1,300

厚さ	大きさ	凸部	凹部	価格(枚)
1.5分	3尺×6尺	30.5m/m 62.5m/m	20m/m	¥ 750
2.0分	2尺×8尺	56.5m/m 30.3m/m	30m/m	¥ 750

リブサンライト

御入会の御申込は……

「建築と社会」発行所　社団法人日本建築協会 大阪市東区北浜3－37　電話北浜 ㉓ 9648・9649・9640

売価一部金百八十円（送料共）